

論理畧說

菊池大麓編述

卷上
中下合河

和装本

口仁6

621



菊池大麓編述

論理略説

版權免許 同盟舎



論理畧説緒言

明治廿九年八月九日

醍醐 爲寄贈

本書ハスタンレー、シエボンズ氏ノ著セル

メンツ、オブ、ロジックニ據リ旁ミルベイトム

ソン等ヲ参考シ初テ論理ヲ學フ者ヲシテ其

大畧ヲ識ラシムルヲ目的トシ且童蒙ニ解シ

易カラシメンガ為ニ平易ニ之ヲ説キタル者

ナリ故ニ諸大家ノ未一定セザル論ノ如キハ

姑ク其一ヲ取リテ餘ハ悉ク之ヲ掲ケズ且事

ノ少シク高尚ニ渉ル者ハ皆之ヲ省ク

ノ言ハ翻譯或ハ編述ニ從事スル者

621

教科上ノ言語ハ翻譯或ハ編述ニ從事スル者

仁

論理學 或ハ
論法學
譯ス
漢方書
學校圖書

ノ最困難トスル所ナリ論理學ノ如キハ一定ノ譯語有ル者甚少シ本編ハ可成的簡易ナル語ヲ用ヰタリト雖其當ヲ得ザル者極メテ多カル可シ譯語ノ一定ハ實ニ今日ノ急務ナリ余ハ嘗テ此事ニ就キテ東洋學藝雜誌中ニ意見ヲ述ヘタルヲ有クタリ今益其説ノ是ナルヲ信ス

書中引用スル所ノ例ハ明了解シ易キヲ主トセリ故ニ誤謬ノ諸例ノ如キハ其誤謬ハ顯然タルヲ以テ人或ハ決シテ斯ノ如キ誤謬ニ陷

ルヲ有ル可カラズ何ゾ喋々之ヲ説クヲ要セシヤト譏笑スル者無シトセズ是蓋シ淺層ノ見ノミ善ク其真趣ヲ玩味シテ世ノ虚説誤謬ヲ觀レバ皆此ニ出ザル者ハ有ラザルナリ

明治十五年十二月

編者 識

目録

第一論 推論、轉對、直對、對稱

第二論 意、轉、對、直、對、稱

第三論 意、轉、對、直、對、稱

第四論 意、轉、對、直、對、稱

第五論 意、轉、對、直、對、稱

第六論 意、轉、對、直、對、稱

第七論 意、轉、對、直、對、稱

第八論 意、轉、對、直、對、稱

第九論 意、轉、對、直、對、稱

第十論 意、轉、對、直、對、稱

論理略説卷之十一



論理學大意

證據ヲ推シ
眞實ヲ究
ムルノ學

論理略説卷之上 小限然之蓋之少之論

第一編 論理學大意 此論理學大意一節曰

論理學ハ理ヲ論シテ其正不正ヲ判断スルノ學

科ナリミル氏ノ釋ニ曰ク證據ヲ推シテ以テ眞

實ヲ究ムルノ學也ト云ハ豈ニ理ヲ推シテ以テ眞

夫人ノ能ク禽獸ニ勝ル所以實唯理ヲ知ルニ在

ルニ唯フニ若シ其力ヲ較スレバ人ハ虎豹ニ

如カズ神速ハ驥騏ニ及ハズ輕捷ヲ以テスレバ

人ノ獼猴ニ及ハザルヲ速シ而シテ其能ク虎豹



論理略説 卷之十一 目録

人禽獸異ナ
ルハ唯推理カ
アリテ之カ理ヲ
知レハナリ

知識ハ勢カヤリ

智識ヲ致スハ
理ヲ究ルニ在テ
其究ムル道ハ
則論理ノ學ナリ

論理學論 雜之山 一 同 盟 錄

ヲ制シ驥騏ヲ馴シ獼猴ヲ弄スルヲ得ルモノハ
他無シ唯其理ヲ知ルニ由ルノミ英國ノ碩學ベ
イコン公曰ク智識ハカナリト誠ニ確言ト謂フ
ベシ而シテ其智識ヲ致スハ實ニ理ヲ究ムルニ
在レバ則正當ニ推理スルハ豈ニ極メテ急要ナ
ラザランヤ
論理ノ學ハ諸學科中其區域最廣大ナル者ト謂
フベシ他ノ學科ノ若キハ唯天地萬象ノ一部ニ
就キテ其理ヲ研究スルニ過キズト雖夫ノ論理
ノ學科ニ至リテハ則然ラズ蓋シ他ノ諸學科ノ

定論ヤ其之ヲ推断スルノ方ハ各小異同有リト
雖皆思考ノ定綱ニ從テ夫ノ論理ノ學ニ由ラザ
ル者ハ有ラザレバナリ或人云ク論理學ハ學問
ハ學ナリト旨アルカナ此言
抑人必ス此學科ヲ修メザレバ其考思推断スル
所悉ク皆正當ナル能ハズト云フベカラズ然レ
ドモ時ニ或ハ純繆誤差無キラ保スベカラズ夫
レ苟モ之ヲ免レテ而シテ其正ヲ得ント欲セバ
勢夫ノ論理ノ學ヲ講セザルヲ得ザルナリ是猶
人其健全ノ日ニ當テハ未曾テ藥ヲ要セズト雖

論理學論 卷之二 二 同 盟 錄

其無病ハ終ニ必スベカラズシテ一朝之ニ罹レ
 バ勢亦夫ノ配劑方ヲ知ラザルヲ得ズ是レ理ノ
 極テ見易キ者ナリ而シテ平居善ク衛生ノ法ヲ
 知リテ之ヲ守ル者ハ病ヲ致スル少シ今夫ノ論
 理ノ學科ヲ修メザル者ハ則衛生ノ理ヲ知ラザ
 ル者ノ如ク動モスレバ思考ノ疾患ニ罹リ易ク
 且若シ其錯誤有ルニ遇フトモ恰モ臆算ニ錯誤
 ヲ生ゼザル者ノ如ク其起因ト所在トヲ知ルニ
 由無キナリ若シ之ヲシテ此學科ヲ修メシ者ナ
 ラシメバ宛モ筆算ヲ以テ計ルガ如ク直ニ其起

因ト所在トヲ知了シ得ルコト亦易々タラン
 推理ノ方法ハ大別シテ二トス曰ク歸納法曰ク
 演繹法今其大意ヲ示ス可シ
 人ノ常ニ推断スルヤ凡ソ事物ハ必ず前日遇フ
 所ノ情境ニ同ジカル可シト期スル者ナリ例ヘ
 バ空中ニ雲有レバ雨降ル可シト推断スルハ是
 其前日是人如キ情境ナリシ時ニ雨降リタレバ
 今亦然ル可シト期スルナリ或ハ黄色光有ル重
 キ物ヲ見テ金ナリト推断スルモ亦之ニ同ジ然
 レ氏斯ノ如ク同一様ノ情境ヲ以テ推断シ去ル

ニ往々誤マラル、¹有リ例ヘバ其形色食フ可
 キ菌ニ似テ有毒ナルモノヲ食フテ死スル¹有
 リ或ハ鯨ノ水中ニ棲息スルヲ以テ誤テ魚類ト
 認ムル者有リ蓋シ是皆同様ノ情境ト見ユルモ
 其實ハ同一ナラザルニ起ルナリ¹フランケツト
 ヲ以テ体ヲ纏ヘバ身暖ナリ然レドモ之ヲ以テ
 氷ヲ包ム片ハ其暖ク成リテ溶解スルヲ防ク可
 シ¹ケツトハ此ノ如ク二様ノ効用有リテ其質常
 ニ同一ナラザルガ如シト雖其實ハ決シテ然ラ
 ズ其効用ハ何ノ場合ニ於テモ唯熱ノ其一方ヨ

熟讀ス

リ一方ニ傳通スルヲ妨クルノ¹是ノ如ク其實
 ハ同一ニシテ異ナル如ク見ユル者有リ¹
 事物真ニ同一ナレバ必同一ノ作用有リ同一ノ
 原因ハ必同一ノ結果ヲ生ス¹推断ノ難キハ原因
 ノ真ニ同一ナルト否トヲ判スルニ在リ之ヲ確
 認スルハ極テ丁寧精密ナル推想法ヲ要ス吾人
 ハ何如ナル事物ノ何如ナル事物ト常ニ俱ニ相
 聯帶シテ生シ来ルヤヲ研究セザル可カラズ即
 造化ノ定綱ヲ發見セザル可カラズ造化ノ定綱ト
 ハ其情境有レバ必某ノ事有ル可シト確定シタル

論理學 卷之四 四

者ヲ云フ夫ノ理學諸科ハ則斯ノ定綱ノ集成ナリ
 故ニ論理學ニ於テハ此定綱ヲ發見スルノ方法
 ト又演譯法ノ方既ニ發見スルハ後之ヲ應用スルノ方法ト
 ヲ講セザル可カラズ○之ヲ發見スルハ則歸納
 推想法ニ由ル人ハ其耳目等ノ五官ヲ用テ四圍
 ノ事物ヲ觀察シ是ヨリ推究シテ以テ定綱ヲ知
 ルヲ得ル例ヘバ牛羊鹿等ノ如ク其蹄ノ裂ケタ
 ル動物ハ皆草ヲ食フヲ觀テ則一定綱ヲ断定シ
 テ曰ク裂蹄動物ハ草ヲ食ト為スト又雨雪雹露
 霧等ハ空氣中ノ水ヨリ生スルヲ知リ漸ク研究

シテ凡ソ濕氣ヲ含メル空氣ノ寒冷スル片ハ水
 ノ分子ヲ出現スルヲ發見ス是亦一ノ定綱ナリ
 故ニ歸納法ハ許多ノ件々ヨリシテ汎ク之ヲ總
 括スル真事ヲ推定スルハ方法ナリ
 演繹推理ハ之ニ反シテ已ニ造化ノ定綱ヲ知リ
 テ其當然生シ来ルベキ結果ヲ推定スルナリ例
 ヘバ濕氣ヲ含メル空氣ノ寒冷スル者ハ水ヲ出
 現スルノ定綱ヲ知了スレバ則夏時氷水ヲ盛リ
 タル飲水器ノ外面ニ露ヲ現スルヲ推定ス可シ
 又裂蹄動物ハ草ヲ食フノ定綱ヲ知レバ則羊ハ

草ヲ食トスルヲ推断ス可シ演繹法ハ即定綱ヲ
 應用スルノ方法ナリ
 論理ノ難キハ歸納法ニ由リテ定綱ヲ發見スル
 ニ在リテ定綱ハ之ヲ應用スルノ先ニ既ニ之ヲ發
 見セザル可カラザルガ如シト雖其實ハ歸納法
 ヲ解スルニハ必先ツ演繹法ヲ解セザル可カラ
 ズ一定綱ノ真趣ヲ知了センニハ其生ズル結果
 ノ何如ヲ明ニセザル可カラズ一定綱ノ真假ヲ
 辨識センニハ其結果ヲ推断シテ果シテ實地ノ
 現象ト符合スルヤ否ヲ究メザル可カラズ例ヘ

バ夫ノニウトンガ万物相引クノ定綱ヲ發見セ
 シ若キ當初先ツ演繹法ニ由リテ推断スラク定
 綱若シ真ナルカ月ハ則當ニ每秒若干尺ツ、地
 球ニ向テ近ツクベシト因テ之ヲ實地ニ觀測シ
 其果シテ然ルヲ見得タリ然ル後始テ此定綱ヲ
 唱ヘタルナリ故ニ演繹法ヲ知ラザレバ歸納法
 ヲ行フヲ能ハズ
 故ニ余ハ先ツ演繹法ヲ説明ス可シ而シテ凡ソ
 一事實ヲ推断スルハ又必言語ニ資ラザルヲ得
 ザレバ則言語ヲ詳悉スルハ又須ラク其先ニ於

論理略説 卷之四 附録

スベキ一譬ハ猶象戯ヲ闘ハスニ先ツ碁子ノ行道ヲ知ラザルベカラザルガゴトシ今請フ茲ニ簡易ナル推斷ノ一例ヲ舉ケン

東京人ハ日本人ナリ

日本人ハ亞細亞人種ナリ

(故ニ)東京人ハ亞細亞人種ナリ

上文ヲ看ルニ三箇ノ段落有リ共ニ之ヲ述意ト云フ毎段各二箇ノ名辞有リテナリト云ヘル詞ヲ副ヘテ一個ノ述意ヲ成シ三箇ノ述意ヲ並セテ一箇ノ推斷ヲ為ス之ヲ證説ト稱スルナリ演

述意 證説

單想 比判 推斷

釋論理學ハ此ノ如ク必三部ヲ分テ其一ハ名辞ノ解義其二ハ述意ノ解義其三ハ證説ノ解義ヲ云ヒ特ニ其第三部ハ證説ハ解義ヲ以テ斯學ハ主腦ト為シ前ノ二部ハ皆唯之ヲ解釋センガ為ノ用ナリ

又此三部ニ配對スル三様ノ思考有リ一ヲ單想

ト云ヒ二ヲ比判ト云ヒ三ヲ推斷ト云フ

單想トハ唯心ニ一事一物ヲ偶想スルヲ云ヒ何

物ニ限ラズ之ヲ心ニ想フハ所謂單想ナリ譬へ

船舶ト云ヘル名辞有リ此ハ是レ唯心ニ思フ

命里各見 卷之二 七 司 登

物ヲ辞ニ表スルマデニシテ曾テ其動靜運載及
其他一切ノ關係ニ及ボサバルナリ故ニ夫ハ名
辞ハ觀ル所ノ現物ニ代用スル符號ニシテ心裏
ノ思想ヲ起スガ為ニ要スル者ナルヲ知ルナ
リ太陽東京書籍等ノ名辞モ亦皆然リ
比判トハ單想ニ由テ心裏ニ想起セシニ箇ノ事
物ヲ彼此相比較シテ其異同ヲ判決スルヲ云フ
譬ヘバ地球ハ圓体ナリトスレバ凡百ノ圓形物
ト地球トヲ比較シテ其形ノ同シキヲ判スルナ
リ

論理學 卷之四 同 盟 錄

熟讀スベシ
○前提
○断言

推断トハ既ニ知了セル述意ニ由リ之ヲ推シ致
シテ更ニ一ノ異ナル述意ヲ断定スルヲ云フ譬
ヘバ

- ①蹄ノ裂ケタル動物ハ草ヲ食トスル者ナリ
 - ②牛ハ蹄ノ裂ケタル動物ナリ
 - ③然ラバ牛ハ草ヲ食トスル者ナリ
- ト云ハンニ先ツ①②ヲ知リテ③ヲ推断シ得ル
ガ如シ而シテ既ニ知了セル述意ヲ前提ト云ヒ
由リテ推究シテ知ル所ノ述意ヲ断言ト云フ

○第二編 名辞総論

論理學 卷之四 同 盟 錄

ホツブス氏曰ク名辞ハ我が心裏ニ曾テ存スル
 モハヲ思ヒ起シ亦他人ヲシテ我が思フ所ノモ
 ハヲ知ラシメンガ為ニ用キル符號ナリト
 第一編ニ於テ既ニ示セル如ク二箇ノ名辞ニな
 りノ二字ヲ副ヘテ一ノ述意ト為スハ則是レニ
 箇ノ名辞ノ指ス所ノ事物ヲ相比較スルナリ而
 シテなりト云ヘル詞ノ如ク二箇ノ名辞ヲ聯繫
 スル者ヲ稱シテ連辞ト云フ例ヘバ「字典ハ有用の
 書物なりト云フ片ハ字典ト有用の書物ハ名辞
 ニシテなりハ連辞ナリ」

右ノ例中後段ノ名辞ハ有用の書物ト云ヘル一
 句ナリ名辞ハ是ノ如クニシテ其長短ニ関カル
 コト無ク數語連用スルモ亦曾テ妨ケザルナリ
 例ヘバ昨日予グ東京に在りて遇ひたる人は何
 某なりト云フ片ハ昨日予グ東京に在りて遇ひ
 たる人ノ十四字句ハ前名辞ニシテ何某ハ後名
 辞ナリ
 然レドモ唯一ノ語詞ニシテ用キテ名辞ト為ス
 ベカラザル者有リ實名詞(天地間万物ノ名若シ
 クハ之ニ代用セル所ノ詞及句ニ非ザレバ前名

辞トシテ用キルベカラズ又實名詞形容詞働詞
若シクバ之ニ代用セル詞及句ニ非ザレバ用キ
テ後名辞ト為スベカラザルナリ働詞ハ實ニ後
名辞ト連辞トヲ併合シタルモノニシテ例ヘバ
馬嘶くと云フ片ハ嘶くハ働詞ニシテ其意嘶く
ものなりト云フニ同シク嘶くも此所謂後名辞
ナリトなり所謂連辞ナリトヲ併合シテ嘶くと
云フナリ又而して或ハ及ひ於て等ノ語詞ハ到
底獨立シテ名辞ト為ルベカラザル者ナリ若シ今
試ニ而しては何々なり何々は或はなり於てが

何々を為すト云ハ聞ク者ハ其何等ノ意義ナ
ルヤヲ知ルニ由無カルベキノミ
語詞ハ此ノ如ク二種有リテ其一語ニシテ能ク
名辞ト為ルベキ者ヲ能獨用為名辞ト名ツケ其
一語ニシテ名辞タル能ハザル者ヲ不能獨用為
名辞ト称ス
又名辞ハ其意義ニ由テ種々ノ區別有リ第一特
名辞。総名辞。第二有。形名辞。無。形名辞。第三陽名辞。
陰名辞。第四關係名辞。無關係名辞。等是ナリ
特名辞ハ唯一事一物ニ畫リテ他ニ通用セザル

名稱ヲ云フ例ヘバ楠正成ト云ヘル名ノ如キ唯
夫ノ湊川ニ戰死セシ楠正成一人ニ限リテ曾テ
他人ニ通用スベカラザルナリ又日本ト云ヒ大
阪ト云ヒ太平洋ト云フ如キモ皆是レ特名辭ニ
シテ現任ノ太政大臣或ハ日本中の最高山ト云
フガ如キモ亦唯其人其山ノ一二限リタル者ナ
レバ共ニ是レ特名辭ナリ而シテ鈴木ト姓シ伊
勢屋ト號スルガ如キ同姓同號者多シト雖既ニ
鈴木ト云ヒ伊勢屋ト云ハ必一ノ鈴木一ノ伊
勢屋ヲ指シタルニテ同姓同號ノ人ヲ總稱スル

ニ非サレバ則之ヲ他ノ鈴木若シクハ伊勢屋ニ
通用スベカラザルナリ故ニ此類モ亦皆特名辭
ト稱ス
總名辭ハ一種類属ノ總稱ヲ云フ例ヘバ人ト云
ヘルガ如キ苟モ人類タラバ其老若男女若クハ
健羸智愚ヲ問ハズ皆指シテ之ヲ稱スルヲ得ル
ナリ又星ト云ヘルガ如キ遊星彗星恒星ニ皆通
用スルヲ得ベシ又集合名辭ト稱シ許多ノ物
ヲ合セ一体ト為シテ呼ブ所ノ名稱ニ用キル者
アリ例ヘバ兵卒一大隊ト云フガ如キ所謂一大

論里各克 卷之十一 十一 司 盟

隊トハ兵卒幾許人ヲ合セタル者ノ名ニシテ即
集合名辭ナリ又一船の乗り組、消防人の一組、紙
の一帖ト云フガ如キ皆亦集合名辭ナリ集合名
辭ハ此ノ如ク數物ヲ一体ト做シテ呼ブ名稱ナ
リト雖亦之ヲ總名辭ト混一スベカラズ蓋シ集
合名辭ハ數物ヲ一物ト做シテ呼ビ總名辭ハ一
種屬中ノ者ハ彼此ヲ問ハズシテ稱スル者ナリ
故ニ集合名辭ニシテ總名辭タル者有リ其例ヲ
舉グレバ大隊ト云ヘル名目ノ若キ是ナリ抑大
隊トハ許多ノ兵卒ヲ一隊ト為シテ之ヲ稱スル

ナレバ則實ニ集合名辭ナリ然レドモ大隊ニ亦
許多有リ其彼此ノ別無ク皆之ヲ大隊ト呼ブハ
所謂總名辭ナリ而シテ第一大隊若シクハ此大
隊ト稱スレバ專ラ某ノ大隊ニ限ルヲ以テ所謂
特名辭ナリ又一年トハ三百六十五日ヲ合セテ
之ヲ呼ブニ在レバ則所謂集合名辭ナリ而シテ
唯一年ト云ヘバ何レノ年ニ用ヰルモ妨無キヲ
以テ之ヲ總名辭ト稱シテ可ナリ然レ氏紀元幾
年ト云フガ如キハ某ノ年ニ限ルヲ以テ所謂特
名辭ト為ルナリ

有形名辭ハ有形物ヲ指ス名稱ナリ無形名辭ハ
 無形物ヲ指ス名稱ナリ例ヘバ白紙紅葉ハ有形
 名辭ニシテ白紅ハ無形名辭ナリ智者勇者ハ有
 形名辭ニシテ智ト勇トハ無形名辭ナリ而シテ
 有形名辭ハ萬物ノ名ニシテ無形名辭ハ万物ノ
 性質ヲ稱スルノ名ナリ且或ハ無形名辭ヲ以テ
 有形ノ意義ニ用ヰルコト有リ例ヘバ善ハ急げ
 ト云フ無形名辭ノ善ノ字ヲ以テ善き事ト云ヘ
 ル義ニ當テ、用ヰルナリ是レ論理學上注意ス
 ベキ肝要ノ一事ニシテ此區別苟モ判然タラザ

レバ大ニ言語ノ混雜ヲ生ジテ之ガ為ニ推断ヲ
 誤ルコト少カラザル者ナリ
 陽名辭ハ某々ノ性質有ルコトヲ稱シ陰名辭ハ
 其性質無キヲ稱スル者ナリ例ヘバ明なる窓賢
 き人重き事明かならざる窓賢こからざる人重
 からざる事ト云フガ如キ明かなる窓賢こき人
 重き事ハ陽名辭ニシテ明かならざる窓以下ハ
 皆陰名辭ナリ而シテ陰名辭ハ大抵不又ハ無等
 ノ言語ヲ以テ之ヲ陽名辭ニ別ツ然レドモ時ニ
 因リ或ハ陰名辭ノ如クニシテ其實ハ陽名辭ナ

ル者有り亦陽名辞ニ似テ其實ハ陰名辞ナル者
 有り今其一例ヲ示サンニ幸ハ陽名辞ナリ故ニ
 不幸ト云ヘバ陰名辞ノ如シト雖其意義ノ及フ
 所ヲ推セバ不幸ノ字面ハ唯幸カラざるノ意ニ
 止マラズシテ現ニ禍害有ルノ稱ナレバ則所謂
 陽名辞タルナリ又暗ノ如キハ陽名辞ニ似タリ
 ト雖其字面ハ唯無光或ハ不明ノ意ニ止リテ他
 義有ルニ非ザレバ所謂陰名辞ナリ又更ニ奪名
 辭ト稱スル者有リテ陽陰二様ノ意義ヲ示ス例
 へバ盲ノ如キハ是レ視ルヲ得ベキ理ナルニ見

ル能ハザル者ヲ稱スルナリ故ニ木石ノ如キ始
 ヲリ視ルコト無キ物ニハ盲ノ字面ヲ用ヰル
 無シ啞聾等ノ如キモ亦然リ
 關係名辭ハ必彼我相關ル意義有ル者ヲ稱ス異
 同父臣等ノ如シ蓋シ父ト云ヘバ子ニ關係シ臣
 ト云ヘバ君ニ關係ス故ニ子無ケレバ父無ク君
 無ケレバ臣ノ稱無シ又異同ノ語モ必他物ニ對
 シテ其意義ヲ生スルナリ而シテ其關係スル
 所ノモノヲ稱シテ對辭ト云フ故ニ父臣ハ子君
 ノ對辭ニシテ子君モ亦父臣ノ對辭ナリ

無関係名辭ハ更ニ他物ニ関係セザル者ノ稱ナ
 リ水、人、星等ノ如シ
 又或ハ名辭ヲ別テニゾオカルイクキカオカル單義數義ト為スコ有リ單
 義名辭ハ唯單一ノ意義有ル者父、机ノ如シ數義
 名辭ハ許多ノ意義有ル者例ヘバかめノ如シ龜
 ト瓶トノ二義有リ又かみノ紙、神、守上、加味、啗等ノ
 數義有ルガ如シ蓋シ是レ一語ニシテ許多ノ義
 ヲ具フルニ非ズ數語ノ音ノ偶々相同シキ者ナ
 リ又別例ヲ舉グレバ黄、赤、心、うま旨、や節ト
 云ヘル等黄、赤、旨ハ共ニ數義名辭ナリ又行ノ字

ノ如キ訓テかこなひやくくだり(書物等)ト云
 フヲ得ルハ所謂數義名辭ナリ
 以上舉グル所ハ唯其最解シ易キ者ヲ以テ一端
 ヲ示スノミ其混雜ニシテ辨シ難ク議論ノ錯誤
 ヲ生シ易キ者ニ至リテハ錯誤ノ條下ニ詳論セ
 ントス
 第三編 名辭ニ二重ノ意義有ル事
 名辭ニハ大抵二重ノ意義ヲ具フ其廣即外行ト
 其深即内包トノ二重ナリ
 外行ノ意義トハ唯其指ス所ノ物ヲ云ヒ内包ノ

意義トハ其物ノ具ヘタル性質ヲ謂フナリ例ヘ
 バ船ト云フガ如キ之ヲ解シテ汽船、帆船、屋形船、
 猪牙船若シクハ家根船等ト為スハ所謂外行ノ
 意義ニシテ若シ解シテ水上ヲ行キ物ヲ運ビ人
 ヲ載スルノ用有ル物ナリトスルハ所謂内包ノ
 意義ナリ又汽船ト云フ如キ其意義ノ外行ハ東
 京丸、廣島丸、金剛艦等ヲ指スニ在リ内包ハ水
 ノ蒸力ニ由テ運行スル船舶ヲ示スニ在リ又山
 ト云フガ如キ其意義ノ廣ハ富士、箱根、ひまらや、
 あるふす等ヲ指シ其深ハ高ク突出シタル地處

ヲ示スナリ
 船ト云ヘル辞ハ汽船ト云ヘル辞ニ比スレバ其
 外行ノ意義ハ廣クシテ其内包ノ意義ハ淺シ蓋
 シ船トハ汽船及一切ノ船舶ヲ指シ總テ水上運
 行ノ用有ル者ニ用ヰルコトヲ得ルモ却テ汽船ト
 云ヘル如クニ其之ヲ行ルノ方ヲ指示セザレバ
 ナリ又外輪ノ汽船ト云ヘル辞ト汽船トノ辞ヲ
 比スレバ外輪ノ汽船ト云ヘルハ其意義外行ニ
 狭クシテ内包ニ深シ又三本柱ノ外輪汽船ト云
 ハ其外行ノ意義更ニ狭クシテ其内包ノ意味

愈深シ名辞ハ此ノ如ク其意義ノ外衍即廣ノ減少スルニ從テ其内包即深ヲ増加スル者ナリ然レドモ其廣ノ減少ト深ノ増加トノ比例ハ必シモ同シキニ非ラズ例ヘバ人ト云ヘル辞ニ白ヲ附シテ白人ト云ヘバ其廣ノ減少スルコト之ニ盲ヲ附シテ盲人ト為ス片ノ如クニ甚シカラズト雖白人盲人共ニ皆一層ノ深ヲ増ス

英國ノ碩學ミル氏ハ名辞ヲ内包ノ意義有ル者ト無キ者トニ分別シテ之ヲ解キテ曰ク内包ノ意義無キ名辞ハ唯其物ヲ指シテ其性質ヲ示サ

ズ若シクハ唯其性質ヲ示スノミ内包ノ意義有ル名辞ハ其物ヲ指シ又其性質ヲ示スト今例ヲ舉ゲテ之ヲ釋センニ譬ヘバ法蘭西倫敦信長秀吉等ノ如キハ皆唯其名目有ル物ヲ直指シテ其性質ヲ示サズ又黑白賢愚ノ如キハ唯其性質ヲ表スルノミニシテ復別ノ意義ヲ含マズ共ニ是レ内包ノ意味無キ者ナリ之ニ反シテ白物ト云ヘルガ如キハ總テ雪紙鹽等ノ如キ白質ノ物ヲ指シ(所謂外衍ノ意義ナリ)亦其白色ノ性質有ルヲ示ス(所謂内包ノ意義ナリ)又勇者ト云ヘル如

キ一面ハ義經、清正、ねるそん等ノ如キ人物ヲ指シ(所謂外衍)一面ハ其勇マシキ性質ヲ備ルヲ示ス(所謂内包)共ニ是レ内包ノ意義有ル者ナリ同氏又曰ク有形総名辞ハ総テ内包ノ意義有リト譬ヘバ樹木ト云ハバ凡百ノ樹木ヲ指シ又其根有リ幹有リ枝有リ葉有ル等ノ性質ヲ示ス又曰ク無形名辞ハ内包ノ意義無シト譬ヘバ智ト云ハバ唯其性質ヲ指スノミ又曰ク人名地名等ハ皆内包ノ意義無シ例ヘバ一女兒ヲ名ツケテ阿花ト云ヒ一犬ヲ號シテ熊ト呼ビ一船ヲ稱シ

テ扶桑艦ト云フガ如キハ唯其物ヲ指示スルノミニシテ曾テ其性質ヲ示スコト無シ又曰ク地名ノ如キ其名ヲ下スノ時其緣由無カラザル者有ト雖一度其名ヲ下スキハ唯其物ヲ指スノ意義有ルノミ決シテ内包ノ意味有リト為スベカラズト譬ヘバ東京ノ銀座ノ如キ當初銀座ノ所在ニ緣由シテ之ヲ名ツケタリシト雖明治ノ今日ニ至リテ之ヲ看レバ其事實ハ既ニ過キ去リテ唯其名ヲ存スルニ過ギザルナリ故ニ京橋々頭ノ某街ヲ稱シテ銀座ト云フモ其辞ニ於テハ

之ヲ名ツケシ時ノ意義ヲ含ムニ非ザルナリ
ジエボンス氏嘗テミル氏ノ説ヲ駁シテ曰ク地名
等ノ名辞モ内包ノ意義無シトスベカラズト今
其説ニ因リ前ノ銀座ヲ引用シテ之ヲ例センニ
盖シ銀座ト云ヘバ當初ハ銀座ノ在ル街ト云ヘ
ル内包ノ意義ナリシモ今日ニ至テハ稍々其内
包ノ意義ヲ變ジ以前銀座ノ在リシ街ナリト云
フモ可ナレバナリ又何某ト云ヘル人名ノ如キ
モ其人ヲ指シ外行ノ意義其人ノ顔色形貌氣性
等ヲ示ス内包ノ意義者ナリ若シ然ルニ非ザレ

バ其人ニ面スルニ當リテ何ヲ以テ能ク其何某
タルヲ知ルヤト此論未必シモ非ナリトス可
カラズト雖姑クミル氏ノ説ニ從テ可ナランカ

第四編

述意ノ種類

述意トハ心ニ決定セルコトヲ其詞ニ陳ブルヲ
云フ譬ヘバ太陽が光ルト云ヘル詞ノ如キ太陽
ト云ヘル詞ノ指ス所ハ物ト光るものト云ヘル
詞ノ指ス所ハ物ト光ト並ベテ太陽ハ光ル性質有
ルコトヲ心ニ決定シ之ヲ言詞ニ述ブルナリ
論理學上ニ於テ述意ト稱スル者ハ文法學上ノ

言。理。田。言。に遊學せりト云ヘル例ヲ看レバ唯終ニ甲乙米國に遊學せり乙ハ米國に遊學せり甲ハ歐洲ニ遊學せり乙ハ歐洲に遊學せりト云ヘル四箇ノ單純述意ヲ併合シタル者ナルヲ知ル可シ此外更ニ別様ノ複雑述意有リ例ヘバ甲若シ乙若レバ丙ハ丁ありト云ヒ甲乙乙あり然らざれば丙ハ丁ありト云フガ如シ論理家ハ之ヲ設若述意ト稱ス而シテ第一引例ノ類ヲ稱シテコトシヨル假想ト云ヒ第二引例ノ類ヲ名ツケダスキヤンクガ離接ト云フ凡ソ此類ハ皆後段ニ之ヲ詳説シ此ニハ專ラ直説体ニ關

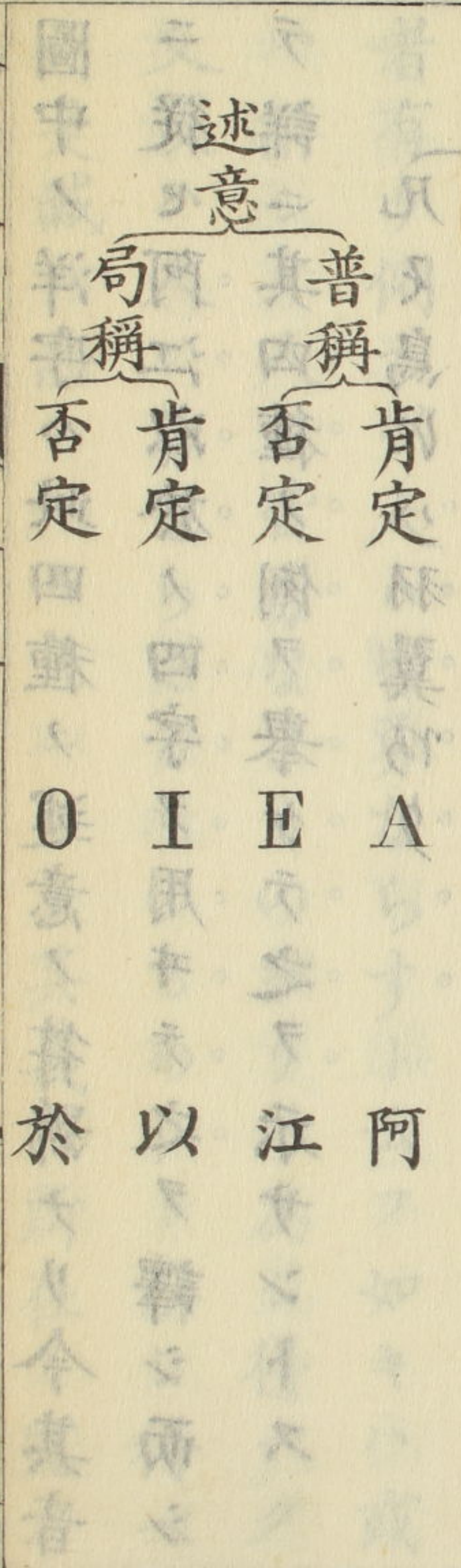
カル者ヲ説カン第二述意ヲ分チテ肯定否定ト為ス肯定ノ述意トハ其主辭ノ指ス所ノ物ニ屬辭ノ指ス所ノ性質有ルコトヲ示ス者ヲ云フ例ヘバ金ハ黄あるものなりト云詞ハ其主辭タル金ニ黄ある性質即黄色有ルヲ示スナリ否定ノ述意ハ之ニ反シテ其主辭ノ指ス所ノ物ニ屬辭ノ指ス所ノ性質無キヲ示ス者ヲ云フ例ヘバ金ハ容易ニ溶解すべきものならずト云フガ如シ金ノ容易ニ溶解スベキ性質無キヲ示スナリ述意ノ肯定ナルカ

否定ナルカヲ其質ト云フ
 第三述意ヲ分チテ^{タリテ}普稱^{ミカニカバキキ}局稱ト為ス普稱ノ述意
 トハ其主辭ノ指ス所ノ物ハ普及圓滿ニシテ些
 ノ遺漏無キ者ヲ云フ例ヘバ總テノ學科ハ有益
 かるものなり凡ての人ハ死するものあり智識
 ハ一として無用かるものあらずト云フガ如キ
 學科若シクハ人若シクハ智識ノ名ヲ附クベキ
 者ヲ舉ケテ皆遺スコト無キヲ示スナリ局稱ノ
 述意トハ其主辭ノ指ス所ノ物唯其一部局ニ止
 リテ偏及ボス者ニ非ザルヲ示ス者ヲ云フ例ヘ

バ或る人ハ智者なり船舶の多分は木材を以て
 造れり二三の石は水より輕しト云フガ如キ皆
 唯其一部局ノ狀ニ就テ之ヲ云フノミ但シ其部
 局ノ多寡大小ヲ問フ^ク無シ述意ノ普稱ナルカ
 局稱ナルカヲ其量ト云フ
 論理學ノ首唱者タル希臘ノアリストートルハ
 上ニ所謂二種ノ述意ノ外更ニ特稱不定稱ノ二
 種有ル^シヲ説キテ共ニ四種ナリト云ヘリ而シ
 テ其所謂特稱述意トハ其主辭ノ特名辭ナル者
 ヲ云フ例ヘバ孔子ハ聖人あり倫敦ハ大都府を

リト云フガ如キ是ナリ然レ其主辞ノ指ス所
 既ニ遺漏有ル無キヲ以テ云ヘバ之ヲ普稱述意
 ノ中ニ置クモ亦妨ケ有ラザルナリ又不定稱述
 意トハ其主辞ノ指ス所ノ物果シテ普及ナルカ
 将タ限局ナルカ文面上ニ於テ判然ナラザル者
 ヲ云フ例ヘバ材木ハ必須あるものなり。彗星ハ
 引カノ定綱ニ従ヘリト云フガ如キ是レ其述意
 者ノ意中ニハ必一定ノ物有ルベシト雖外ヨリ之
 ヲ確定スルコト能ハザルナリ然レ其之ヲ確定
 スルハ元ト論理學外ノ事ニシテ又苟モ之ヲ確

定スルコト能ハザレバ終ニ得テ之ヲ論理學中
 ニ説クコト能ハザルナリ故ニ特稱、不定稱ノ別種
 ヲ立ツルハ是正當ノ分類ニ非ズシテ畢竟ハ普
 稱局稱タルベキナリ
 是ニ於テ吾人ハ述意ニ肯定、否定、普稱、局稱ノ四種有
 ルヲ断定シ得タリ今其圖ヲ按スルニ左ノ如シ



圖中ノ洋字ハ此四種ノ述意ノ符號ナリ今其音ニ從ヒ阿江以於ノ四字ヲ用キテ之ヲ譯シ而シテ詳ニ其四種ノ例ヲ舉ケテ之ヲ示サントス

凡そ鳥にハ羽翼有り

阿大阪ハ繁華ある都府あり

万物ハ引カに従へり

人ハ皆死を免るゝ能えず

江尊氏ハ忠臣にわらず

鶏卵ハ一も四角あるものあり

或る石ハ水より輕トニ對テ之ヲ論理學中

以多くの書物ハ有益あり

於金屬の多くハ脆からず

或る有益ある書物ハ解し易からず

通常ノ文句ニハ種々ノ体様有りト雖善ク其意

義ヲ推考シテ此四者ノ中何レニ屬スルカヲ決

定スベシ且文章ノ体様ニ因テ意義ノ疑ハシキ

者有り例ヘバ人ハ皆勇ならずト云フ如キハ或

ハ解シテ人ハ皆勇なきものありト為シ得ベク

又或ハ人ハ勇ならずものもありト解シ得ベ

シ是誠ニ忌ムベキトニシテ其義ノ所在ヲ究メ

務テ其曖昧ヲ避ケテ以テ述意ノ種類ヲ正スハ
此學ヲ修ムル者ノ最肝要トスル所ナリ
此他述意ニ種々ノ体有リト雖皆善ク其意義ヲ
會得シテ之ヲ夫ノ四種ノ中ニ歸適セシメ而推
断ノ法ヲ及スベキノミ

第五編

述意ノ反對

述意ニ四箇ノ種類有ルコトハ前編ニ於テ已ニ
断定シタリ故ニ今論歩ヲ進メテ夫ノ四種ノ述
意ヲ相較シ其互ニ反對スルノ理ヲ究メントス
所謂四種ノ述意トハ何ソ曰ク

阿 普稱肯定

以 局稱肯定

江 普稱否定

於 局稱否定

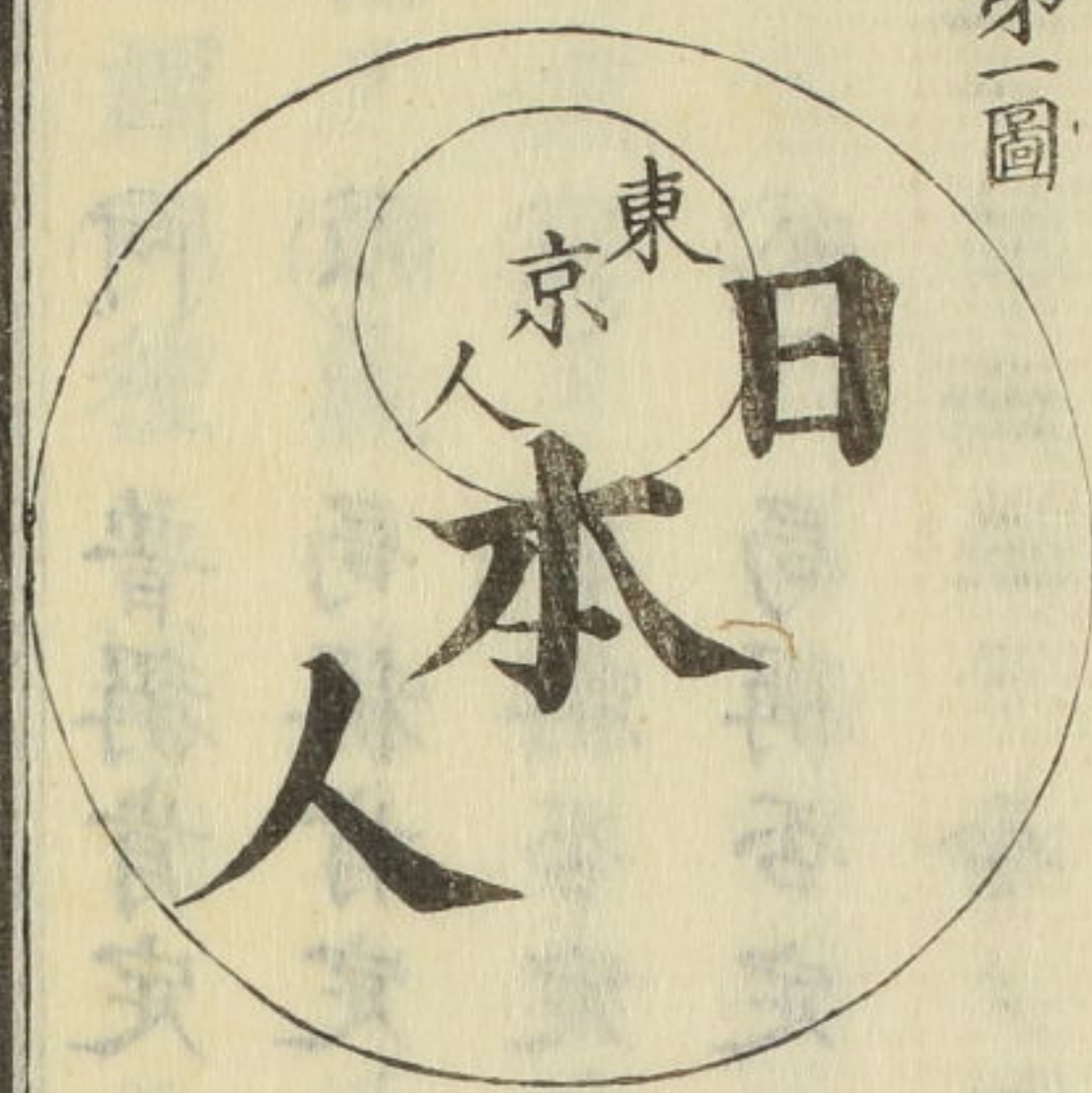
是ナリ而シテ余ノ之ヲ論スルヤ毎ニ阿江以於
ノ符號ニ因テ之ヲ説明セントス看者幸ニ記セ

阿ハ則其主辭ノ指ス所ノ物ハ咸ク其屬辭ノ指
ス物ノ中ニ在リテ其一部分タルヲ示ス例ハバ
總ての東京人は日本人なりト云ガ如キハ是レ

論理田記 卷之七 同 盟 會

阿述意ニ属ス盖シ東京人ハ咸ク日本人ノ部中ニ在リテ即其一部分ナリト云フノ意ナリ而シテ此類ノ述意ハ日本人ノ中唯東京人ノ全体ヲ包含スルヲ示シ曾テ日本人總体ニ説キ及ホサズ今其圖ヲ考フルニ左ノ如シ

第一圖



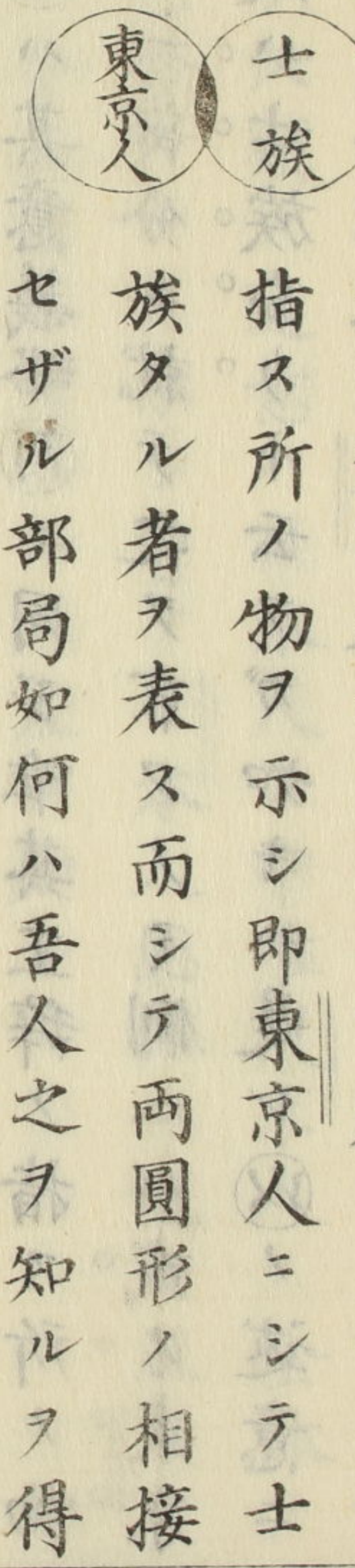
小圓形ノ局裏ハ總東京人ヲ示シテ他部ノ人ヲ入レズ而シテ之ヲ包含スル大圓形ハ總テノ日本人ヲ示ス者ナリ今小

圓形ノ既ニ大圓形ノ中ニ在ルヲ見レバ東京人ノ咸ク日本人中ニ在ルヲ知ル然レドモ小圓形以外ニ在ル日本人ハ果シテ如何タルヲ知ルニ由無シ是レ盖シ此種ノ述意ニ於テ之ヲ示サバレバナリ
以ハ其意義略阿ニ同ジ唯其主辭ノ指ス所ノ物ノ一部分ニ就テ之ヲ言フノミ例ヘバ或る東京人ハ士族ナリト云フガ如キハ是レ以ノ述意ニ属ス其意盖シ東京人ノ中ニハ士族モ有ルヲ云フナリ但某々ノ東京人トノミ云ヒテ其多寡ヲ

論理各院 卷之七 同 盟 會

説キ出サズ今其圖ヲ考フルニ左ノ如シ

第二圖

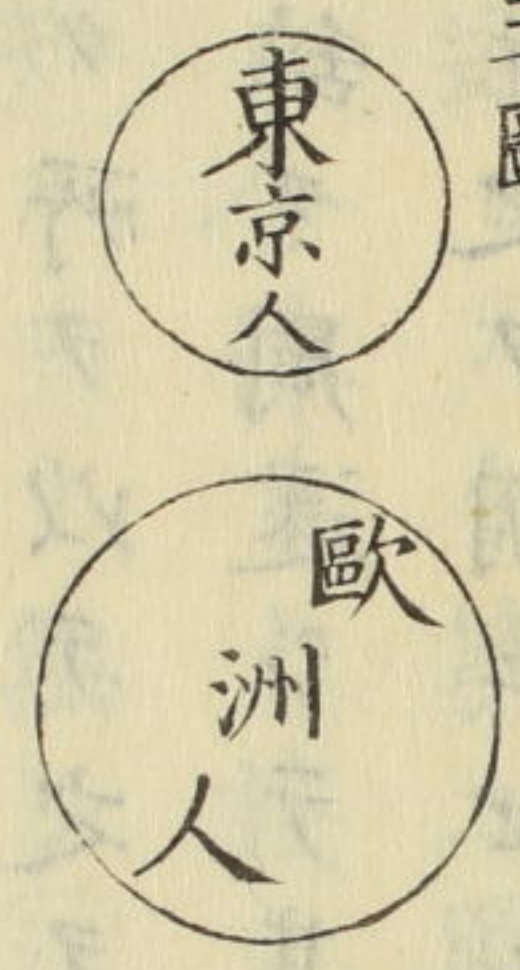


指ス所ノ物ヲ示シ即東京人ニシテ士族タル者ヲ表ス而シテ兩圓形ノ相接セザル部局如何ハ吾人之ヲ知ルヲ得ズ蓋シ此種ノ述意ニ於テ之ヲ示サバナリ

江ハ則主辞属辞ノ全ク相異ナルヲ示ス例ハバ一ノ東京人も歐洲人ならずト云フガ如キハ是レ江ノ述意ニ属ス其意蓋シ東京人ノ中一人モ歐羅巴人ト名ツクベキ人類有ラザルヲ示スナ

リ其圖ヲ考フルニ左ノ如シ

第三圖



按スルニ江種ニ属スル述意ニ因テ属辞ノ指ス所ノ事物ノ総体如何ヲ了知スルヲ得ベシ上ノ例ノ如キ實ニ歐羅巴人ハ総テ東京ノ人ニ非ザルヲ知ル是レ否定述意即江於ト肯定述意即阿以ト互ニ相及スル肝要ノ點ニシテ蓋シ論理學上ニ極テ緊切ナル者ナリ論理學家ノ説ニ否定

ノ述意ハ其属辞ヲ周逮シ肯定ノ述意ハ之ヲ周逮セズト云ヘリ而シテ理論ノ誤謬ハ多ク其中ニ散布スル名辞ノ周逮如何ニ由テ之ヲ正スヲ得ベシ所謂名辞ヲ周逮ストハ其指ス所ノ事物ノ全体ニ就テ之ヲ説クノ意ヲ謂フナリ名辞ノ周逮セルト周逮セザルトヲ其量ト云フ
 上ニ説ク所ヲ以テ之ヲ推セバ阿ニ属スル述意ハ其主辞ヲ周逮シテ其属辞ヲ周逮セズ今第一圖ニ據テ之ヲ明ニセンニ東京人ハ咸ク日本人民タルヲ知ルモ日本人全体ニ就テハ更ニ知ル

所ナシ以ニ属スル述意ハ稍々之ニ異ナリ主辞共ニ周逮セズ今第二圖ニ據テ之ヲ明ニセンニ東京人ノ全体ト士族ノ全体トニ就テハ更ニ其一二ヲ知ルコト無シ江ニ属スル述意ハ大ニ前ノ二者ニ異ナリ主属共ニ周逮ス今第三圖ニ據テ之ヲ明ニセンニ東京若シクハ歐洲ノ人ニ就テ其总体ヲ知ルヲ得ルナリ
 於ハ則其主辞ヲ周逮セズシテ常ニ其属辞ヲ周逮ス例ヘバ或る東京人ハ士族にあらずト云フガ如キ以テ見ルベシ其意蓋シ一ハ以テ某々部分

ノ東京人ハ士族ノ外ナルヲ示シ又一ハ以テ
 士族ハ咸ク夫ノ主辞ノ指ス所ノ或る東京人の
 外ナルヲ示ス是レ即主辞ヲ周逮セズシテ其
 属辞ヲ周逮スル者ナリ今其圖ヲ按スルニ左ノ
 如シ

士族

東京人

黒色ヲ帶ブル者ハ東京人ニシテ士
 族ニ非ザル者ヲ示ス因テ士族圓形
 中ニ在ル者ハ咸ク主辞ノ指ス所ノ
 或る東京人ノ外ナルヲ知ルベシ
 周逮ノ法ヲ考フルニハ左ノ表ヲ以テ之ヲ明ニ

ス可シ

(主辞) (属辞)

普稱

述意

局稱

肯定 (阿) 周逮 (阿) 不周逮 其當否
 否定 (江) 周逮 (阿) 不周逮
 肯定 (以) 不周逮 (阿) 不周逮
 否定 (於) 不周逮 周逮

若シ夫レ述意ノ互ニ相反スル者ヲ知ルハ其事
 甚易々ナリ即前ニ引證シタル諸例ヲ取テ之ヲ
 示サン總ての東京人は日本の人あり (阿) 卜云ヘ
 ル述意ヲ當ナリトセバ某々の東京人は日本

に。あ。ら。ず。以。ト。云。フ。ハ。否。ナ。リ。况。ヤ。之。ヲ。稱。シ。テ。総。
 て。の。東。京。人。ハ。日。本。の。人。に。あ。ら。ず。江。ト。云。フ。ニ。至。
 テ。ハ。尤。否。ナ。ル。ヲ。知。ル。是。ヲ。以。テ。阿。述。意。ニ。シ。テ。當。
 ナ。ラ。バ。江。於。述。意。ハ。否。ナ。リ。江。於。述。意。ニ。シ。テ。當。ナ。
 レ。バ。阿。ノ。述。意。ハ。則。否。ナ。リ。阿。以。ハ。否。ナ。
 此。理。タ。ル。ニ。因。テ。江。ノ。述。意。當。ナ。レ。バ。阿。以。ハ。否。ナ。
 リ。阿。以。當。ナ。レ。バ。江。ハ。否。ナ。リ。然。レ。ド。モ。阿。ノ。述。意。
 ニ。シ。テ。否。ナ。ル。片。ハ。於。ハ。必。當。ナ。ル。モ。江。ハ。其。當。否。
 知。ル。ベ。カ。ラ。ズ。例。ヘ。バ。人。は。皆。信。實。な。り。阿。ト。云。ヘ。
 ル。述。意。ニ。シ。テ。否。ナ。ル。片。某。々。の。人。は。信。實。な。ら。ず。

於。ト。云。ヘ。ル。述。意。ハ。必。當。ナ。ル。モ。総。て。の。人。ハ。信。實。
 な。ら。ず。江。ト。云。フ。ニ。至。リ。テ。ハ。其。當。否。得。テ。知。ル。ヘ。
 カ。ラ。ズ。江。於。述。意。ハ。否。ナ。リ。然。レ。ド。モ。阿。ノ。述。意。
 是。ヲ。以。テ。阿。ト。於。ト。ハ。兩。ナ。カ。ラ。當。ナ。ル。能。ハ。ズ。亦。
 兩。ナ。ガ。ラ。否。ナ。ル。能。ハ。ズ。而。シ。テ。阿。ト。江。ト。ハ。兩。ナ。
 ガ。ラ。當。ナ。ル。能。ハ。ザ。ル。モ。能。ク。兩。ナ。ガ。ラ。否。ナ。ル。ト。
 有。リ。故。ニ。阿。ト。於。ト。ハ。實。反。對。ノ。述。意。ニ。シ。テ。阿。ト。
 江。ト。ハ。大。反。對。ノ。述。意。ナ。リ。而。シ。テ。江。ト。以。モ。亦。實。
 反。對。ニ。シ。テ。兩。ナ。カ。ラ。當。ナ。ル。能。ハ。ズ。亦。兩。ナ。ガ。ラ。
 否。ナ。ル。能。ハ。ザ。ル。者。ナ。リ。

論理田註 卷之七 同 三十一 同 三十一

是故ニ若シ阿ノ否ナルヲ明ニセント欲セバ唯
於ノ當ナルヲ示スベシ曾テ江ノ當否ヲ問フヲ
須キス例ヘバ獸類は皆陸地に棲めるものあり
ト云ヘル述意ノ否ナルヲ明スニ當リテ夫ノ獺
ノ獸類ニシテ水中ニ棲メル一例ヲ取り来リテ
某の獸類ハ陸地に棲まずト云ヘル於ニシテ當
ナル者ヲ舉クレバ獸類は皆陸地に棲めるもの
ありノ述意阿ハ終ニ立ツコト能ハズシテ自カ
ラ其否ナルヲ表ス江ノ否ナルヲ明ニセント欲
セバ須ラク以ノ當ナルヲ示スベシ是ヲ以テ對

論ノ人ニシテ普稱述意阿江ヲ持重スル片ハ之
ヲ破ルノ術唯其實反對ノ述意ヲ証スルノ一要
事有ルノミ又夫ノ於ノ否ニ至リテハ江ノ當ヲ
舉ゲテ之ヲ示サバ以テ明ナルヲ得ベシ
以ト於トノ意義ヲ比較スレバ其意固ヨリ相互
スル所有リト雖時トシテハ兩ナガラ當ナルコ
ト有リ例ヘバ或る東京人は士族あり以或る東
京人ハ士族あらず於ト云フガ如キ兩者ノ意義
相異ナルモ彼此兩ナガラ當レリ而シテ論理家
ハ以於ヲ稱シテ小反對ノ述意ト云フ

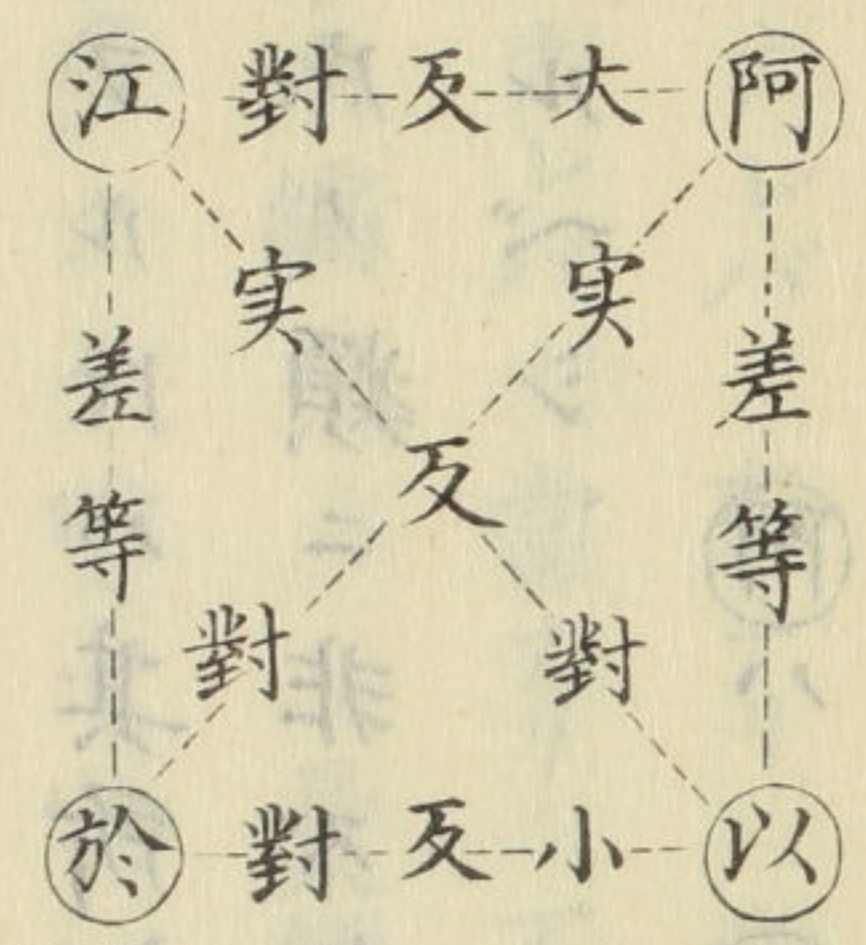
論理各説 卷之七 三十一 同 三十一

論理田言 卷之七 同 盟 舎

又普稱ノ述意當ナレバ局稱ノ述意ハ必當ナリ
 然レドモ普稱ノ述ノ否ナルヲ以テ必局稱ノ述
 意ノ否ナルヲ證スベカラズ蓋シ阿否ナルモ以
 當ナル有リ江否ナルモ於當ナル有レバナリ而
 シテ局稱ノ述意否ナレバ普稱モ亦必否ナル
 ヲ知ルト雖局稱ノ當ナルハ普稱ノ當否ヲ知ル
 ニ由無シ

論理家阿ト以ト並ニ江ト於トヲ稱シテ差等ノ
 述意ト云ヒ阿江ヲサブオルテナンスト稱シ以
 於ヲサブオルテルネトト稱ス阿江以於ノ相反

對スル状ハ左圖ニ據テ明ナリ



讀者若シ此圖ヲ以テ未足ラズトセバ乞フ更ニ
 左表ヲ掲ケテ其意ヲ明サン

| | | | |
|---|------|-----|-----|
| 阿 | 當ナレバ | 當ナリ | 否ナリ |
| 江 | 當ナレバ | 否ナリ | 當ナリ |
| 阿 | ハ | 當ナリ | 否ナリ |
| 江 | ハ | 否ナリ | 當ナリ |
| 阿 | 以 | 當ナリ | 否ナリ |
| 江 | 以 | 否ナリ | 當ナリ |

論理各院 卷之七 三十二 同 盟 舎

論理學 卷之七 同 三十三

以當ナレバ 不可知 否ナリ 當ナリ 不可知
於當ナレバ 否ナリ 不可知 不可知 當ナリ

此表ニ據テ考フレバ一普稱述意ノ當ヲ述ル片
ハ他ノ述意ノ當否ヲ知ルノ多キ局稱述意ノ當
ヲ述フル片ノ比ニ非ズ之ニ反シテ局稱述意ノ
否ヲ述フル片ハ其所知ノ多キ普稱述意ノ否ヲ
述フル片ノ類ニ非ズ乞フ左表ヲ見テ其然ル所
以ヲ知ルベシ

阿ハ 江ハ 以ハ 於ハ
阿否ナレバ 否ナリ 不可知 不可知 當ナリ

江否ナレバ 不可知 否ナリ 當ナリ 不可知
以否ナレバ 否ナリ 當ナリ 否ナリ 當ナリ
於否ナレバ 當ナリ 否ナリ 當ナリ 否ナリ

第六編

彙類属隸的ノ者定義

名辞ハ多クハ唯一物一事ニ限ルノ名ニ非ズシ
テ往々数物数事ニ通用スベキ者ナリ例ヘバ人
ト云フガ如キハ之ヲ古今内外ノ人ニ通用スベ
ク又之ヲ幾億万人若シクハ一人ニ用ヰルベシ
故ニ普稱名辞ハ毎ニ等類ノ通名ニシテ其万事
万物ヲ種々ノ等類ニ分ツハ論理學上ニ在リテ

論理學 卷之七 三十三 同 三十三

最切要ナル者ナリ之ヲ名ツケテ彙類ト謂フ
 按スルニ数物数事ヲ合セテ一箇ノ等類ト為ス
 ハ必其事物ノ互ニ相似タル所有ルヲ以テス例
 ヘバ氷、雪、白粉、石灰、水泡、乳汁等ノ白色ヲ帶ブル
 物ヲ彙集シテ白キ物ト云ヘル一箇ノ等類ヲ立
 ツルガ如シ又筆ト云ヘル等類ヲ立テ羊毫モ鹿
 毛モ狸毛モ兔毛モ竹管、水軸ノ擇ナク其文字ヲ
 書スル同一効用有ルニ因テ之ヲ其類中ニ入ル
 ルナリ
 此ノ如ク能ク等類ヲ分チテ其性質ヲ知ルヲ

得レバ則同一等類中ノ諸物ハ皆其性質有ルヲ
 ヲ知リ得可シ例ヘバ白キ物ハ善ク光輝ヲ反射
 スルノ實有ルヲ知ルニ因テ氷、雪、白粉等ノ能ク
 光輝ヲ反射スルノ性質有ルヲ知ルガ如シ殊ニ
 動物家、植物家ノ若キハ夫ノ動植ニ物ヲ正當ニ彙
 類スルコト最其學科ノ緊要トスル所ナリ蓋シ
 天然ニ在ル所ノ生活物ハ一々其性質ヲ記シ難
 ク勢亦等類ニ因テ其性質ヲ定メザルヲ得ズ
 凡ソ諸物ヲ彙類スルニハ唯皮相ニ依テスベカ
 ラズ宜シク其性質ヲ極メテ之ヲ定ムベシ蓋シ

唯其外貌ニ依ル者ハ其類ヲ彙スルニ當リテ許
多ノ謬誤ヲ致ス_レ有レバナリ夫ノ鯨鯢海豹海
馬ノ如キ皆其水中ニ棲息スルヲ以テ外ヨリ之
ヲ見レバ宜シク魚類中ニ置クベキガ如シト雖
是レ誤謬ナリ此三物ノ性質ハ魚ニ非ズシテ實
ニ獸ナリ焉_レ之ヲ魚類中ニ彙集スルヲ得ン
ヤ蝙蝠ノ若キモ其飛行スル所ヲ見レバ恰モ是
レ鳥類ノ如シ然レ氏蝙蝠ハ自カラ是レ獸類ノ
_レ鳥類ニハ非ズ又夫ノ竹及甘蔗ト米麥トハ其
觀同シカラズト雖畢竟皆是レ同一等類ノ植物

ナリ
又同一名辞ニシテ觀ル所ノ異ナルニ因テ或ハ
自カラ等類ノ名ヲ表シ或ハ他人ノ等類ノ一部分
タルヲ表スルコト有リ乃人ト云フガ如キハ動
物等類ノ部分ト為シテ見ルベク亦黃白等數種
ノ人類ヲ普稱スルノ名ト為シテ見ルベキナリ
而シテ其自カラ等類ノ名ヲ表スル片ハ之ヲ類
ト稱シ其一部分ヲ表スル片ハ之ヲ種ト稱ス
類ト種トノ外行ノ意義ハ其類種ニ包含スル凡
百物ヲ云フ故ニ種ハ類ニ比スレバ其意義自カ

ラ狭シ例ヘバ書物ノ等類ヲ立テ更ニ之ヲ和漢書、洋書ニ分ツガ如キ書物ハ是類ナリ和漢洋書ハ是種ナリ而シテ書物ト云ヘル名辭ノ指ス境界ハ和書、漢書、洋書ノ指ス境界ヨリ自カラ廣大ナルヲ知ル可キナリ

類ノ内包ノ意義ハ其指ス物ノ全質ヲ示シテ以テ之ヲ他ノ類ト別ツ種ノ内包ノ意義モ亦然リ其種中ノ全質ヲ示シ因テ以テ他種ト區別ス故ニ種ノ内包ノ意義ハ類ノ内包ノ意義ヨリ深シ蓋シ種ノ指ス性質ハ固ヨリ類ノ指ス所ヲ含包

シ又且同類中ノ他種ト區別スベキ性質有ルヲ示スナリ而シテ其附加シタル性質ヲ稱シテ差質ト云ヒ内包ノ意義ニ就テ云フ片ハ類ニ差質ヲ附加シタル者ヲ稱シテ種ト云フナリ例ヘバ家屋ヲ類トシ之ニ附加スルニ石[。]屋[。]ト云ヘル種ヲト云ヘル差質ヲ以テスレバ石[。]屋[。]ト云ヘル種ヲ立ツルヲ得ルガ如シ

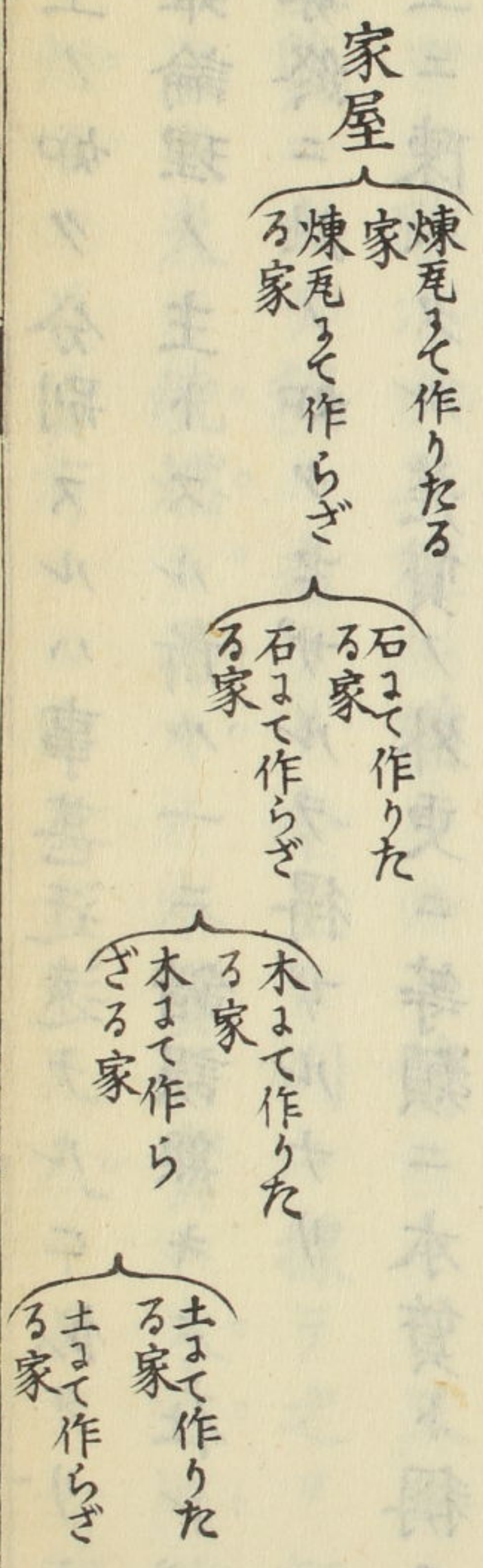
一物ヲ觀テ或ハ種ト為シ或ハ類ト為スコト有リ例ヘバ人ヲ一類ト立テ、之ヲ白黃等ノ數種ニ分チ又其白人種ヲ一類トシテ之ヲ英佛等ノ

國民ニ分チ又其佛人ヲ一類ト立テ、之ヲ分テ
男女ノ二種ヲ別チ又其男ヲ立テ、一類ト為シ
以テ老壯幼少等ノ數種ニ分ツガ如シ終ニ復分
種スベカラザルニ至ル之ヲ稱シテロイエスト、スマーリス最小分種ト
云フ之ニ及シ人ヲ動物ノ一種ト立テ又動物ヲ
活物ノ一種ト立テ漸ク積ンデ別ニ一種ヲ立ツベ
カラザルニ至ル之ヲ稱シテ最大集類ト云フナリ
凡ソ一類ヲ分チテ數種ト為スハ所謂彙類ノ一
ニシテ之ヲロシカルク、ジニオン論理學上ノ分別ト稱ス例ヘバ書物
ヲ一類トシ之ヲ和書、漢書、英書、佛書等ニ別チ家屋

ヲ一類トシ之ヲ木造、石造、煉瓦造等ニ分ツガ如シ
然レドモ今一類ヲ取テ一齊ニ數種ニ分ツルハ
數種交々相掩フヲ以テ往々錯誤有ルヲ免レズ
試ニ書物ノ一類ヲ取テ一齊ニ和書、英書、佛書、蘭
書、歴史、地理書、繪入書、活版書等ニ別タハ和書ニ
シテ活版摺入歴史有リ英書ニシテ繪入地理
書有ル等頗錯雜ノ弊有ルヲ免レザラズ故ニ一
類ヲ種ニ分ツハ必純一ノ原因ニ依テスルヲ妥
當ナリトス例ヘバ書物ヲ分ツニ言語ノ一因ニ
依ルガ如キ以テ和書、英書、佛書等ト為スベク又

其印刷方ニ依テ之ヲ分チ活版摺木版摺銅版摺
 等ト為スベシ
 又一類ヲ數種ニ別ツキハ其類中ノ物ヲ舉盡シ
 テ遺漏無キヲ保シ難シ則家屋ノ一類ヲ分テ
 煉瓦造石造木造土造ト為スモ尚更ニ氷屋玻璃
 屋等有リ故ニ今其脱漏錯誤ヲ免ル、ガ為ニ分
 種毎ニ唯分チテ二種ト為スノ術有リ例ヘバ家
 屋ト云ヘル一類ヲ二種ニ分チ第一種ヲ煉瓦
 造りたる家トシ第二種ヲ煉瓦_よて造らざる
 家ト為スガ如シ又更ニ其分別ヲ要セバ其第二

種中ニ就テ先ツ第一種ヲ立テ、木にて造りた
 る家トシ次ニ第二種ヲ立テ、木にて造らざる
 家ト為スベシ此ノ如クニ又進テ土_よて造りた
 る家ト土にて造らざる家トヲ分種スレバ彼此
 相掩ヒ若シクハ脱漏ノ弊ヲ避クベシ今圖ニ依
 テ之ヲ詳説スル_ト左ノ如シ



上ノ如ク分別スルハ事甚迂遠ナルニ似タリト
雖論理ノ主トスル所ハ一ニ錯誤無キニ在レバ
勢終ニ此ノ如クセザルヲ得ザルナリ
上ニ陳ヘタル差質ノ外更ニ等類ニ本質ト稱ス
ル者有リ例ヘバ三角形ノ如キ同ジ直線ノ經界
ヲ以テ作レル形線中ノ一ナレ氏其三邊有ルガ
為ニ他ノ直線ノ經界ヲ以テ作レル者ト其質ニ
差別有リ是レ所謂差質ニシテ又本質ト云ヘル
者有リ例ヘバ夫ノ三角形ノ角度ヲ加フレバ二
直角ニ等シキガ如キ是レ所謂本質ナリ又木造

屋ノ一例ヲ挙ケンニ蓋シ家屋ノ一類中木造屋
ノ一種ヲ立テ之ヲ他ノ材料ヲ以テ作レル者ニ
差別スルハ所謂其差質ヲ示シタルナリ而シテ
本造ハ別ニ燒燃シ易キト云ヘル一質ヲ有ツ是
レ其本質ノ一ナリ
本質ハ差質ト異ナリテ種ノ内包ノ意義内ニ在
ラズト雖亦必其種ニ備ハル一質ニシテ又毎ニ
差質ニ由テ起ル者ナリ今上ノ例ニ據テ之ヲ証
センニ夫ノ燒燃シ易キノ本質ハ實ニ木ニ由テ作
リタルノ差質有ルニ由ルナリ又人ト云フ一種

二理を知るト云ヘルハ是レ其差質ノ一ナリ而シテ其差質有ルニ由テ互に言語を以て相通すト云ヘル一個ノ本質ヲ生シ来ルナリ
差質本質ノ外更ニ偶質ト云ヘル者有リ是蓋シ偶然ニ具ハル性質ヲ云フナリ例ヘバ三角形ノ大小ノ如キ鳥ノ黒色ノ如キ人ノ白色黄色ノ如キ河川ノ深淺ノ如キハ皆偶質ナリ
以上ノ如ク万物ノ性質ヲ分別シテ或ハ差質或ハ本質或ハ偶質ト為スト雖其性質ニハ固ヨリ區別有ルニ非ズ唯名辭ノ意義ニ関リ之ヲ分別

シテ以テ論理上ノ便利ヲ謀ルニ在ルノミ
本編ニ説明セル種類差質本質偶質ノ五者ヲ合セテ之ヲ属隸的ト稱ス而シテ天地間ノ万象ニ就テ説述スベキ事物ハ決シテ其類其種其差質其本質其偶質ノ外ニ出テザルナリ例ヘバ人ハ動物ありト云フガ如キハ是レ其類ヲ云フナリ又人の過半ハ女子ありト云フガ如キハ是レ其種ヲ云フナリ又人ハ理を知るものありト云フガ如キハ是レ其差質ヲ云フナリ又人ハ互に言語を用ゐて相通するを得るト云フガ如キハ是レ

論理學 卷之四 同盟會

其本質ヲ云フナリ又或る人ハ黒色をりト云フ
カ如キハ是レ其偶質ヲ云フナリ
定義トハ名辭ノ内包ノ意義ヲ明確ニ述フルト
ヲ云フ之ヲ為スニ道有リ即通常其名辭ヲ立テ
一個ノ種ト為シ而シテ之ヲ總フル所ノ類ト
其差質トヲ挙げレバ則足レリ決シテ其本質ト
偶質トヲ挙げレバカラズ若シ之ヲ挙げレバ自カ
ラ繁雜ヲ生スルコト必セリ今一例ヲ挙げテ定
義ヲ為スノ方ヲ示スニ瀛船ノ一語ヲ假ラン抑
瀛船ノ定義ハ蒸氣の力にて走る船ト云フベク

シテ所謂船トハ其類ニシテ蒸氣の力にて走る
トハ其他船ト別異スル性質ヲ示ス者ナリ然レ
氏一切ノ名辭ニ就テ此法ヲ行フ能ハザルナ
リ唯其内包ノ總意義ヲ掲グルヲ主旨トシテ以
テ定義ヲ行フ可シ

第七編 述意ノ轉換、直接推斷

一ノ實事ヨリ推究シテ他ノ實事ヲ断定スルヲ
推斷ト云フ論理學ノ主腦トスル所ハ第一編ニ
説明セル如ク推斷ノ定則ヲ論ズルニ在リテ是
マデ説明シ来リタル名辭及述意ノ解義ハ充分

論理學 卷之四 同盟會 四十一

論理田説 卷之十一 同盟會

ニ是ヲ解釋スルノ用ニ供スルノミ
今地上ニ水ノ点滴アルヲ見テ雨降リタリト断
定スルハ是正ニ推断ト稱ス可キトハ人皆之ヲ
承認スルナラン(此例ハ實ニ推断ノ繁雜ナル者
ニシテ後編ニ至リテ充分ニ之ヲ論ス可シ)又家
康ハ徳川氏ノ先祖ありト云フ述意ヨリシテ徳
川氏ノ先祖ハ家康ありト云フ述意ヲ得ルハ正
ニ推断ト稱ス可キ者ニ非ザルト明ナリ然レ氏
此二者ノ間ニ在テ孰ヲ推断ト稱ス可ク孰ヲ推
断ト稱ス可カラザルヤノ分界ヲ定ムルハ論理

家ノ全ク一致セザル所ナリ然レ氏是等ノ事ハ
今姑ク舎テ論セズ本編ニ於テハ唯一個人ノ述意
ヨリ他ノ述意ヲ得可キ方法ヲ示サントス
述意ノ主辞ト属辞ヲ交換スルヲ之ヲ其述意ヲ
轉換スルト云フ轉換ス可キ述意ヲ原述意ト云
フ轉換シテ得タル者ヲ轉換述意ト云フ
述意ヲ轉換スルニ二則有り左ノ如シ
第一則述意ノ質(即其肯定ナルカ否定ナルカ)ハ
原述意ト轉換述意ト同一ナラザル可カラズ
第二則原述意ニ於テ周逮セザル名辞ハ轉換述

論理各説 卷之十一 同盟會 四十二

論理學 卷之四 同盟會

意ニ於テ周逮ス可カラズ
茲ニ凡ての學術ハ有益なるものありト云ベル
述意有リ今單ニ之ヲ轉換セバ凡ての有益なる
ものハ學術ありト成ル然レバ有益なるものハ
原述意ニ於テハ周逮セラレズシテ轉換述意ニ
於テ周逮セラレタレバ此轉換ハ第二則ニ反ケ
リ當ニ轉換シテ得可キ者ハ或る有益なるもの
ハ學術ありト云フ述意ナリ是ノ如ク阿ヨリ以
ニ轉換スルハ境界ヲ狭クシテ轉換スル者ナレ
バ之ヲ減界轉換法ト云フ

轉換述意ト原述意ト同量ノ述意ナル片ハ之ヲ
單純轉換法ト云フ例ヘバ或る東京人ハ士族カ
リヨリ或る士族ハ東京人ありヲ得可シ故ニ以
ハ單純轉換法ニ由リテ以トナル
又一の學術も無益なるものはあらむヨリ單純
轉換法ニ由リテ一の無益なる
ものも學術ニあらむヲ得可シ
圖ヲ按スルニ學術ノ圓形ハ全
ク無益なるものノ圓形外ニ在
レバ無益なるものモ亦學術ノ

無益ナル者

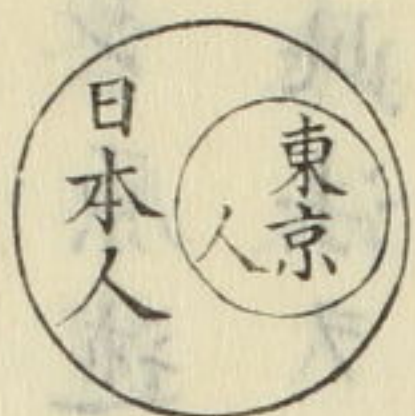
學術

論理學 卷之四 同盟會 四十三 同 盟 會

論理田言
圓外ニ在ルヲ勿論ナリ故ニ江ハ單純轉換法ニ
由リテ江トナル

於述意ヲ轉換セントスルニ特ニ困難ナルヲ有
リ其主辭ハ周逮セザルモノナリ然ルニ今之ヲ轉
換シテ否定述意(第一則)ノ屬辭トナセバ轉換述
意ニ於テハ周逮セラル可シ例ヘバ此ニ或る日
本人ハ東京人ニあらむト云ヘル於述意有リ今
單純ニ之ヲ轉換スレバ凡ての東京人ハ日本人
ニあらむヲ得可シ其不當ナルヲ明ナリ則日本
人ナル名辭ハ原述意ニ於テ周逮セズシテ轉換

述意ニ於テ周逮シタル(第二則ニ反ク)ニ由ル然



レバ之ヲ減界轉換法ニ由リテ轉換
センカ或る東京人ハ日本人ニあら

むト為ル可シ是不當ナルヤ否ヤヲ知ル可カラ
ズト雖決シテ原述意ヨリシテ推断ス可キ者ニ
非ズ是亦同上ノ理由ヲ以テ然ルナリ
故ニ於述意ハ單純ニ轉換ス可カラス亦境界ヲ
狭クシテ轉換ス可カラズ是ヲ以テ新ニ一法ヲ
設ク之ヲ否定轉換法ト云フ其法左ノ如シ先ツ
原述意ニ於テ否定ノ意義ヲ連辭中ニ含マシメ

論理各
卷之七
四十四
同
四

ズシテ属辞中ニ含マシメ以テ肯定述意ニ變シ
而シテ單純ニ之ヲ轉換スルナリ前ノ例ニ於テ
先ツ原述意ヲ或る日本人ハ東京人からざる人
かりトシ此以述意ヲ單純ニ轉換シテ或る東京
人ハからざる人ハ日本かりヲ得可シ
更ニ轉換ノ一法有リ之ヲ對偶轉換法ト云フ阿
述意ニ用キル可キ者ナリ左ノ例ヲ以テ之ヲ示
サン原述意ヲ凡ての東京人ハ日本人かりトセ
バ此法ヲ以テ凡ての日本人からざる人ハ東京
人からざる人かりヲ得可シ是第五編第一圖ニ

依テ明ナリ東京人ノ圓形ハ原述意ニ於テ全ク
日本人ノ圓形内ニ在レバ日本人ノ圓形外ニ在
ル者ハ東京人ノ圓形外ニ在ルヲ明ナリ對偶轉
換ヲ為スニ當リテ大ニ錯誤ヲ生ジ易シ例ヘバ
右ノ原述意ヨリシテ凡ての東京人からざる人
ハ日本人からざる人かりト推断セバ其不當ナ
ルヲ亦同圖ニ因リテ明ナリ何ナレバ東京人ノ
圓形外ニ在ルモ日本人ノ圓形外ニハ在ラザル
者有レバナリ然レドモ世一般是ノ如キ錯誤ヲ
為ス者決シテ僅少ナラザルナリ今左ニ對偶轉

換法ノ解釋ヲ掲ク

對偶轉換法トハ(阿)述意ノ屬辭ニ對スル陰辭ヲ以テ主辭ト為シ又其主辭ニ對スル陰辭ヲ以テ屬辭ト為シテ新ニ(阿)述意ヲ得ルヲ云フ

對偶轉換法ハ局稱述意(以)於ニ用キル可カラズ又(江)述意ニ用キントセバ先ツ之ヲ變シテ(阿)述意ト為シ而シテ後ニ之ヲ行ハザル可カラズ例へバ一人の東京人も歐洲人もあらむト云ヘル(江)述意ヲ變シテ(阿)述意凡ての東京人も歐洲人もあらむ人ありトス可シ今之對偶轉換スレ

バ凡ての歐洲人もあらむ人ハ東京人もあらむ人なりト為ル而シテ歐洲人もあらむものにあらむ人トハ即歐洲人ト同一ナレバ凡ての歐洲人も東京人もあらむ人なり即一の歐洲人も東京人もあらむト成ル可シ是單純轉換法ニ由リテ同様ノ述意ヲ得可キ者ナレバ則以テ此法ノ正シキヲ証スルニ足ル直接推断トハ一述意ヨリ其名辭ヲ轉換セズシテ引証スルヲ云フ

其一法ハ肯定述意ヨリ之ト同一ナル否定述意

ヲ推断シ或否定述意ヨリ肯定述意ニ變ズルヲ
云フ今其例ヲ挙ゲテ之ヲ詳ニセン

阿 総ての小人ハ閑居をれば不善ヲ為す
江 一人の小人も閑居して不善を為さば

るものか

江 一人も完全なる人ハ有らば

阿 総ての人ハ不完全あり

以 或る人ハ正直あり

於 或る人ハ不正直はあらば

於 或る人ハ正直からば

以 或る人ハ不正直あり

是等ハ皆先編ノ圓形圖ヲ按シテ明ナリト云
第二法ハ述意ノ主辞及属辞ニ形容詞ヲ加ヘテ
其意義ヲ狭クスルニ在リ例ヘバ総ての彗星ハ
實體ありヨリ総ての見る可き彗星ハ見る可き
實體ありト云フ述意ヲ得可シ又汽船を船あり
ヨリ三本櫓の汽船ハ三本櫓の船ありヲ得可シ
然レ氏此法ヲ行フニ當リテ注意ス可キ事有リ
例ヘバ官吏ハ人ありヨリ不能なる官吏ハ不能
なる人ありトセバ誤謬ナリ是蓋シ不能ノ辞ヲ

異ナル意義ニ用キタルニ由ル官吏ト為リテ不能ナルモ未必シモ其一人上ニ在リテ不能ナルヲ推断スルヲ得ザルナリ又草廬ハ家屋ありヨリ大なる草廬ハ大なる家屋ありトスル能ハズ総テ比較ノ意義有ル詞ハ此法ヲ用キル可カラザルナリ

第三法ハ殆ト第二法ニ同シク一述意ノ名辞ヲ取リテ之ヲ複雑ナル名辞ノ一部分ト為スヲ云フ例ヘバ馬ヲ四足獸ありヨリ馬の骸骨ヲ四足獸の骸骨ありヲ得ルガ如シ此法ニ於テモ亦第

二法ト同一ノ注意ヲ要スル事有リ例ヘバ総ての東京人を日本人ありヨリ総ての東京人の過半数ハ日本人の過半数あり或ハ総ての東京人中最學識有る者ハ日本人中最學識有る者ありトセバ其不正ナル事明ナリ

第二及第三法ニ於テモ善ク名辞ノ量ニ注意シ原述意ニ於テ周逮セザル者ハ断言ニ於テモ亦周逮ス可カラズ上例ノ大なる草廬ハ大なる家屋ありトスルノ誤謬ノ若キ家屋ノ名辞ハ原述意ニ於テ周逮セザルヲ「総ての家屋中大なる者ノ

論理略説
意義トシテ即周逮セラル、ニ由リテ生ズルナリ
又第三法ノ例ニ於テモ日本人ハ原述意ニ於テ
ハ周逮セラレズ然ルニ日本人の過半数ト云へ
バ総ての日本人の過半数ノ義ナレバ則断言ニ
於テハ周逮セラル是其誤謬ノ由リテ生スル所
ナリ

論理略説卷之上終



明治十五年十二月十六日 板權免許
同 年 同 月 刻成出版

編述者 日本橋區蛸壳町三丁目十一番地 菊池大麓

出版者 同區濱町三丁目十一番地 青木輔清

製本發兌 同區濱町三丁目十一番地 同盟舎

論理略説 卷之上 同盟舎

發賣書肆

大坂順慶町二丁目
 大坂備後町四丁目
 周防國山口中市町
 阿波國德島中通町
 下野國栃木倭町
 尾張名古屋本町八丁目
 東京日本橋通三丁目
 同 芝三島町
 同 本石町二丁目
 同 大傳馬町三丁目
 同 本町二丁目
 同 馬喰町二丁目
 同 横山町二丁目
 同 日本橋西河岸

此村庄助
 梅原龜七
 宮川臣吉
 阪井萬吉
 小林八郎
 丸善書籍店
 山中市兵衛
 江嶋喜兵衛
 東生龜次郎
 柳河梅次郎
 石川治兵衛
 内田弥兵衛
 内田芳兵衛

論理略說卷之中

目録

第八編 推測式
 第九編 推測式ノ様法及形象
 第十編 推測式化成
 第十一編 變体推測式
 第十二編 設若推測式
 目錄終

論理略說卷之中
菊池大麓
編述



論理略說卷之中

菊池大麓

編述

第八編

推測式

前編ニ於テハ一ノ述意ヨリ他ノ述意ヲ推断ス
 ルノ方法ヲ説明セリ然ルニ演繹推理ハ第一編
 ニ説明セル如ク二個ノ述意ヨリ一ノ述意ヲ断
 定スルナリ例へバ

(一) 大名 總ての日本人ハ亞細亞人種あり、大名 原理

(二) 小名 總ての東京人ハ日本人あり、小名 事實

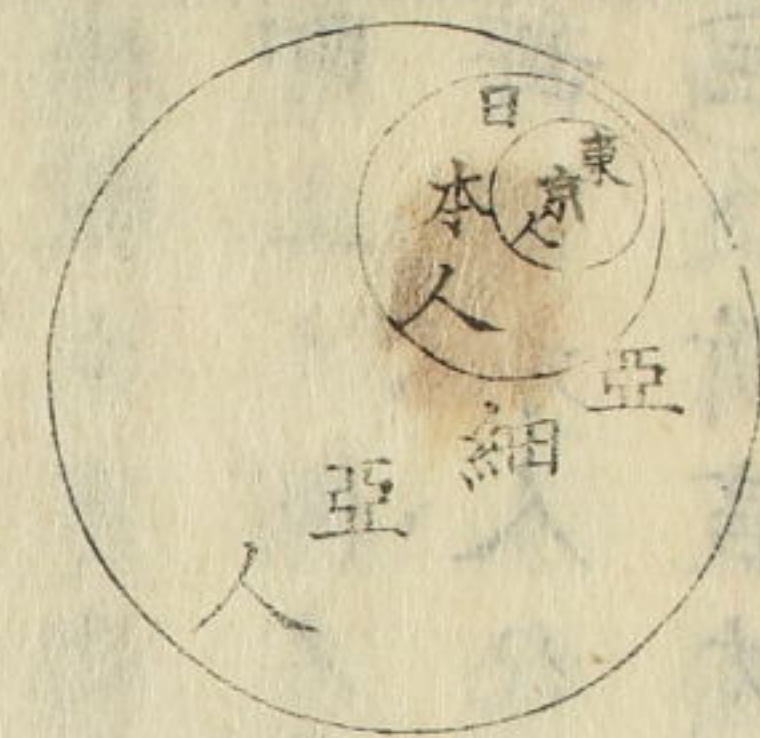
(三) 歸納 故ニ東京人ハ亞細亞人種あり、歸納 判断

才一起文ヲ稱シテ
 普通確説ト稱
 スルヲアリ此其
 説ク所ハ普通
 一般ノ事ヲ論ス
 ルヲ以テナリ

論理略說
 卷之中
 菊池大麓
 編述

ト云フカ如シ証説ノ此体裁ヲ推測式ト稱ス
 此式ニ三個ノ述意有リ既ニ知了セルニノ述意
 ヲ前提ト云ヒ推断シテ得ル者ヲ断言ト云フ必
 三個ノ異ナル名辞有リ断言ノ主辞ヲ小名辞ト
 稱シ其属辞ヲ大名辞ト云ヒ断言ニ顯ハレザル
 名辞ヲ中名辞ト云フ蓋シ中名辞ハ大名辞ト小
 名辞トヲ比較シテ其異同ヲ判別スル媒介上卷
 ヲ見ト為ル者ナリ譬へバ二物ノ大小ヲ比較ス
 ルニ直ニ此二物ヲ相接スル能ハザルヲ有レバ
 獲ヲ以テ之ヲ度ルガ如ク断言ノ主辞即小名辞

ト其属辞即大名辞トヲ直ニ比較スルヲ能ハザ
 ル時ハ即中名辞ヲ以テ恰獲ノ用ニ充テ大小名
 辞ヲ各之ト比較シテ以テ判断スルナリ則二前
 提ノ一ハ大名辞ト中名辞トヲ比較シタル者ニ
 テ是ヲ大前提ト云ヒ一ハ小名辞ト中名辞トヲ
 比較シタル者之ヲ小前提ト云フ
 即上ノ例ノ東京人ハ小名辞亞細亞人種ハ大名
 辞日本人ハ中名辞ナリ(一)ハ大前提(二)ハ小前提
(三)ハ断言ナリ
 大中小名辞ノ稱ノ起因ハ此圖ニテ明ナル可シ



(一)ニ因リテ總テノ日本人ハ亞細亞人種ナリ故
 ニ日本人ノ圓形ハ全ク亞細亞人種
 ノ圓形ノ内ニ在リ(二)ニ因リテ總テ
 ハ東京人ハ日本人ナレバ其圓形ハ
 全ク日本人ノ圓形ノ内ニ在リ是即
 大中小名辭ノ稱有ル由縁ナリ

演繹推理ハ常ニ皆此体裁ニ述ヘタルニ非ラズ
 或ハ大前提或ハ小前提ヲ明言セザルコト有リ然
 レ正當ノ推斷ニハ必ニ前提無カル可カラズ
 其明言スルト否トニ拘ハラズ演者ノ意中ニハ

必之ヲ含ム者ナリ其他演繹推理ヲ述フルノ体
 裁種々有ル可シト雖到底皆推測式ニ合ハザル
 者ハ有ラザルナリ例ヘバ「彼ハ國ニ功有ルガ故
 ニ賞ス可シト言フガ如シ之ヲ推測式ニ述フレ
 バ左ノ如シ」
 總テノ國ニ功有ル者ハ賞ス可キ者ナリ
 彼ハ國ニ功有ル者ナリ
 故ニ彼ハ賞ス可キ者ナリ
 故ニ演繹推理ハ皆推測式ノ体裁ニ依テ述フル
 ヲ得然レ氏此体裁ニ依テ述フル者必シモ皆正

當ノ推理ナルニ非ラズ推測式ニ正當ナル者有
リ正當ナラザル者有リ是ヲ以テ吾輩ハ善ク其
各般ノ推測ヲ監査シテ其果シテ正當ノ推測式
ナルヤ否ヤヲ判セザル可カラズ而シテ之ヲ監
査スルニ二ノ定綱即公理有リ

第一綱 二名辞共ニ第三名辞ト同シキ者ハ
亦相同シキナリ

第二綱 二名辞ノ其一ハ第三名辞ト同シクシ
テ其一相異ナル者ハ亦相異ナルナリ

二名辞トハ大小名辞ニシテ第三名辞ハ中名辞

ナリ

此二綱ハ思考ノ定則ニ基キタル者ニシテ其真

確ナルヲハ証説ヲ待タズシテ明ナリ故ニ之ヲ

公理ト云フ

第一綱ノ意ハ直ニ上ノ例ヲ取りテ之ヲ明ス可

シ(一)ニ由リテ總ての日本人(丙)亞細亞人ノ一部

分(甲)ト同シキヲ示シ(二)ニ由リテ總ての東京

人(乙)ハ日本人ノ一部分(丙)ト同シキヲ示ス因テ

以テ又總ての東京人(乙)ト亞細亞人ノ一部分(甲)

ト相同シキヲ知ル可キナリ

第二網ノ意ハ左ノ例ニテ明ナル可シ

- (一) 總ての遊星ハ自ら光を放たず
- (二) 金星ハ遊星あり
- (三) 故ニ金星ハ自ら光を放たず
- (一)ニ由リテ總ての遊星(丙)ト自ら光を放つ者(乙)ト同シカラザルヲ知リ(二)ニ由リテ金星(甲)トト遊星ト相同シキヲ知ル故ニ金星(甲)ト自ら光を放つ者(乙)ト同シカラザルコトヲ知ルナリ
- 此ニ網ハ推測式ノ原理ト稱ス可キ者ナレ現ニ其正當ナルヤ否ヤヲ判スルニ當リテ更ニ左

ノ規則ニ據リテスレバ大ニ便宜有リ此規則ハ右ノ二網ニ基ツキテ唯稍細蜜ニ之ヲ述ヘタルノミ

第一則 一ノ推測式中ニハ必三個ノ名辞有リテ三個ヨリ多カル可カラズ亦少カル可カラズ

推斷ハ中名辞ヲ媒シテ大小名辞ヲ比較スル者ナリ故ニ大中小ノ三名辞有ルノミ

第二則 一ノ推測式ハ三個ノ述意ヨリ成ル三個ヨリ多カル可カラズ亦少カル可カラズ

三個述意トハ即大小前提及断言ナリ此三個有リテ一推断ヲ成スナリ

第三則 中名辞ハ大小前提ノ兩者中少クモ其一個ニ周逮セザル可カラズ

此定則ハ極テ重要ニシテ其理由ハ少シク考フレバ自カラ明ナル可シ今若シ兩前提共ニ

中名辞ヲ周逮セズシテ其逮ホス所唯其部局ニ止マル者ナレバ大前提ニ於テ指ス所ノ中

名辞ノ部局ト小前提ニ於テ指ス所ノ部局ト同ジキヤ將タ異ナレルヤ更ニ判シ難シ即大

名辞ニ比較シタル中名辞ノ部局ト小名辞ニ比較シタル部局ト全ク異ナレルヤ知リ難カ

ル可シ然ル如キハ復タ大名辞ト小名辞トヲ比較スルニ由無キナリ例ヘバ左ノ二前提有

リ

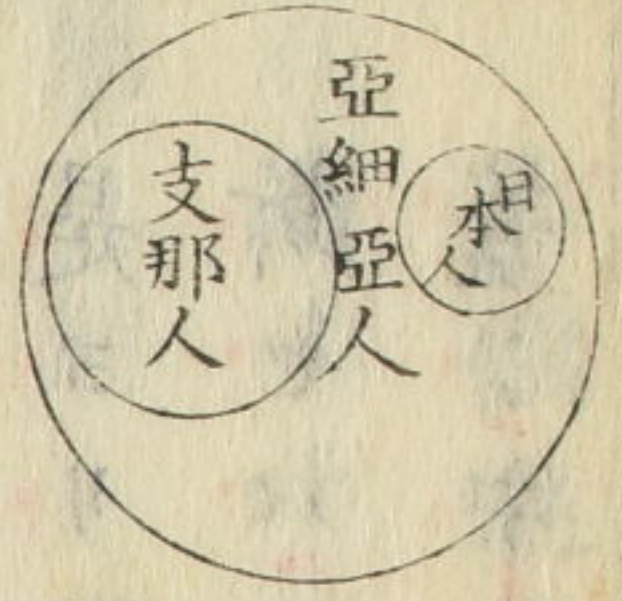
(一) 總ての日本人ハ亞細亞人ナリ

(二) 總ての支那人ハ亞細亞人ナリ

是ヨリ推シテ總ての支那人ハ日本人ナリト

断セバ誰レカ其不當ナルコトヲ答メザラシ是

蓋シ中名辞ノ亞細亞人ハ兩前提ニ於テ周逮



セズシテ日本人ハ亞細亞人ノ一部局
 タリ支那人ハ又日本人ニ異ナレル一
 部局ナレバナリ但シ此二前提ニ依レ
 バ其異ナルト異ナラザルトヲ判スルヲ能ハ
 ズ今

(一) 總ての日本人ハ亞細亞人あり
 (二) 總ての東京人ハ亞細亞人あり
 ト云ヘルニ前提ヨリシテ總ての東京人ハ日
 本人ありト推断スルモ亦是正當ノ推断ニ非
 ズ何トナレバ吾輩ハ此断言ノ真ナルヲ知ル

モ決シテ此前提ヨリ引証シ来ル能ハサル者
 ナレバナリ則亦大前提ノ亞細亞人ト小前提
 ノ亞細亞人ト同一ナルヤヲ知ルニ由無シ尚
 左ニ犯則ノ一例ヲ掲ク

(一) 總て道德ニ戻らざる事ハ法律ニ於て咎
 之レテ正格ニ直サガ
 法律ニ於テ咎メザル者ハ道德ニ戻ラサル者ニ非ズ
 遊興ニ耽ル者ハ法律ニ於テ咎メザル所ナリ
 故ニ遊興ニ耽ル者ニ非ズ
 故ニ遊興ニ耽くるハ道德ニ戻らず

第四則 前提ニテ周達セザル名辞ハ断言ニテ

總テ遊興ニ耽ル者ハ法律ニ於テ咎メザル所ナリ
 道德ニ戻ラサル者ハ法律ニ於テ咎メザル所ナリ
 故ニ遊興ニ耽ル者ニ非ズ
 故ニ遊興ニ耽くるハ道德ニ戻らず

ナレバナリ

論理田言 卷之四

モ亦周逮ス可カラズ

大名辞或ハ小名辞ノ指ス所ノ全体ニ就テ前

提ニ之ヲ述フル事無ケレバ其全体ニ就テ推

断ヲ為ス能ハザルハ勿論ナリ例ヘバ

(一) 總ての支那人ハ耐忍の氣象ヲ富めり

(二) 總ての支那人ハ亞細亞人ナリ

(三) 故ニ總ての亞細亞人ハ耐忍の氣象ヲ富

めり

ト云ハゞ是犯則ナリ小名辞ノ亞細亞人ハ小

前提ニ於テハ阿述意ノ属辞ナルヲ以テ周逮

セラレズ然ルニ断言ニ於テハ阿述意ノ主辞

ナルヲ以テ周逮セララル今圖ヲ按スルニ支那

人ノ圓形ハ(一)ニ由リテ耐忍の氣象

ニ富める人ノ圓形者内ニ在リ又(二)

ニ由リテ亞細亞人ノ圓形ノ内ニ在

リ然レ氏亞細亞人ノ圓形ハ全ク耐

忍の氣象ヲ富める人ノ圓形内ニ在

ルヤ否ヤハ知ル可カラザルナリ推断シ得可

キ正當ノ断言ハ

(三) 故ニ或る亞細亞人ハ耐忍の氣象ヲ富め

亞細亞人



論理塔克 卷之四 同盟

り、
 大名辞ヲ前提ニ周逮セズシテ、断言ニ周逮ス
 ルノ一例ハ左ノ如シ、
 一 洋學ハ有用かる學あり、
 二 漢學ハ洋學ニ非らず、
 三 故ニ漢學ハ有用かる學ニ非らず、
 此式ニ於テ、有用かる學ハ断言ニ於テハ、
 意ノ属辞ナレハ周逮セラレ、而シテ大前提ニ
 ニ於テハ、周逮セラレス、故ニ此式ハ第四則ヲ
 犯スヲ以テ、不正ナル者トス、

更ニ犯則ノ一例ヲ左ニ掲、
 一 能く數多の學科ニ秀づる者ハ極めて賞賛
 す可し、
 二 學生の大概ハ能く數多の學科ニ秀づる
 者ニあらず、
 三 故ニ學生の大概ハ極めて賞賛す可き者
 ならず、
 第五則 兩前提共ニ否定ナレハ、敢テ推断ヲ行
 フヲ能ハズ、
 大前提否定ナル片ハ、大名辞ト中名辞トノ相

可キ者ナリ今之ヲ左ニ掲ク
第七則 二前提共ニ局稱述意ナル片ハ推断ヲ
行スヲ能ハス

第八則 一ノ前提局稱ナル片ハ断言モ亦必局
稱ナル可シ

推測式ノ規則ハ極テ緊要ナル者ナリ學者必常
ニ之ヲ記臆シテ其証說ニ遇フ片ハ果シテ能ク
規則ニ戻ラザル正當ノ推測式ナルヤ否ヤヲ判
スルヲ練習スルヲ要ス可シ此規則ヲ犯セバ
必推理ノ誤謬ニ陥ル慎マザル可ク後編誤

謬ノ條ニ至リ犯則ノ例ヲ掲ケテ之ヲ詳ニス可
シ

推測式ハ大前提ヲ小前提ノ先ニ舉グルヲ常ト
ス

第九編 推測式ノ様法及形象

吾輩ハ前編ニ説明シタル定則ニ照シテ以テ推
測式ノ正當ナル者ト否ラザル者トヲ辨識スル
ヲ得今本編ニ於テハ真正推測式ノ諸様法及形
象ヲ論セントス

各様推測式ハ皆大前提小前提及断言ノ三述意

ヨリ成リ三述意ハ各阿江以於ノ一二居ル其三
述意ノ種類ニ由リテ推測式ヲ區別スル之ヲ其
様法ト稱ス其總數六十有四即大前提阿ニシ小
前提ハ阿江以於ノ一二居ル可ク断言モ亦然リ
例スルニ左ノ如シ

大前提小前提断言

大小断 大小断 大小断
阿 阿 阿 阿 阿 阿
阿江 阿江 阿江 阿江 阿江 阿江
阿以 阿以 阿以 阿以 阿以 阿以
阿於 阿於 阿於 阿於 阿於 阿於

以下此ニ倣フ

斯ク大前提阿ナル者十六有リ江以於モ亦各十
六有レバ即總計六十四様法ナル可シ
然レ氏此六十四様法中正當ノ推測式ヲ為サバ
ル者有リ例ヘバ阿江阿ノ如キハ第六則ヲ犯セ
リ阿以江モ亦同則ニ背ケリ江江阿江江等ハ
皆第五則ニ反シ阿以阿江以江等ハ第八則ヲ犯
シ以以阿以於於等ハ第七則ニ背ケリ於於於ノ
如キ第五第七ノ二則ヲ犯シ於於阿ニ至リテハ
第五第六第七ノ三則ニ反セリ又以江於ハ其断

論理略説 卷之中 十一

言ハ否定ナルヲ以テ大名辞ヲ周逮ス然ルニ其
大前提ハ以ナルヲ以テ大名辞ハ其主辞タルモ
属辞タルモ共ニ周逮セラル、一無シ故ニ此様
法ハ第四則ヲ犯ス者トス斯ク犯則ノ様法ヲ皆
除キ去レバ正當ノ推測式タル様法ハ僅二十一
ヲ存スルノミ即左ノ如シ
阿阿阿 阿阿以 阿江江 阿江於 阿以以
阿於於 江阿於 江以於
以阿以

於阿於

以上正當様法

十一

又犯則ノ者ヲ擧クレバ

第五則ヲ犯ス者

十六

第七則ヲ犯ス者

十二

第六則上段ヲ犯ス者

十二

第八則ヲ犯ス者

八

第六則下段ヲ犯ス者

四

第四則ヲ犯ス者

一

以上犯則様法

五十三

論理略説 卷之中 十一 同盟舎

合計

六十四

吾輩ハ未_レ推測式ノ變化ヲ盡サズ之ヲ成ス述意ノ質及量ニ因リテ其様法ヲ定メタルモ未_レ各般述意中ノ名辞ノ排置ヲ論セス抑大名辞ハ断言ニテハ必_ズ属辞ナルモ大前提ニ於テハ主辞或ハ属辞ナル可シ又小名辞ハ必_ズ断言ハ主辞ナレバ小前提ノ主辞或ハ属辞ナル可シ故ニ名辞ノ排置法ニ四様有リ是ヲ推測式ノ形象ト稱ス四形象ノ名辞ノ排置左ノ如シ

第一形象 第二形象 第三形象 第四形象

大前提

中大

中大

中大

中大

小前提

小中

小中

中小

中小

断言

小大

小大

小大

小大

此四形象ハ須_レラク心ニ記憶セザル可カラズ務_メテ中名辞ノ位置ニ注意スレバ最_モ記憶ニ便宜有リ

十一様法四形象ヲ以テ四十四様ノ異式ヲ得ルナリ吾輩其中ニ就キテ正當推測式ヲ為ス者ヲ撰擇セザル可カラズ

以下大名辞ヲ表スルニ甲ヲ以テシ中名辞ハ乙

論理各記

卷

之

十四

詞

量

論

論理學 卷之四

小名辭ハ丙トス

例ヘバ阿江江ノ様法ハ第一形象ニ於テ左ノ如

シ

一切の乙ハ甲なり

一の丙も乙ならむ

(故ニ)一の丙も甲ならむ

此式ニ於テ甲ハ断言ニテ周逮シ前提ニ於テ周逮トス故ニ第四則ヲ犯ス又同様法第二形象ニ於テハ

一切の甲ハ乙なり

一言の丙も乙ならむ... 夫(故ニ)一の丙も甲ならむ... 此為ル是正當推測式ナリ... 第三形象ニ於テハ第四則ヲ犯シ... 第四形象ニ於テハ正當ナリ... 斯亦如外犯則様法ヲ除キ去レバ正當推測式ヲ為ス者二十四ヲ得

正當推測式ヲ為ス様法

第一形象 第二形象 第三形象 第四形象

阿阿阿 江阿江 阿阿以 阿阿以
江阿江 阿江江 以阿以 阿江江

論理學 卷之四 十五 同 盟 舎

論理略説 卷之中 阿以以 江以於 阿以以 以阿以 江以於 阿於於 江阿於 江阿於 於阿於 江以於 阿阿以 江阿於 江以於 阿江於 阿江於

阿以以 江以於 阿以以 以阿以
江以於 阿於於 江阿於 江阿於
於阿於 江以於

(阿阿以) (江阿於) 江以於
(江阿於) (阿江於) (阿江於)

右表中括弧内ニ在ル五様法ハ其効用無キ者ト
ス、是レ蓋シ普稱ノ断言ヲ得可キ場合ニ於テ局
稱断言ヲ得ル者ニシテ固ヨリ不當ニ非スト雖
夫レ己ニ普稱断言ヲ得可ケレバ何ゾ別ニ局稱
断言ヲ要セズ例ヘバ第一形象ニ於テ阿阿ノ前

提

一切の實物ハ引力を施す
一切の金類ハ實物なり

ト有レバ断言阿
一切の金類ハ引力を施す

ヲ得可シ則断言以
或る金類ハ引力を施す

ハ勿論ナリ故ニ己ニ阿断言ヲ得レバ以断言ハ
更ニ効用無キナリ

斯ク終ニ正當ニシテ且有効ナル推測式ヲ為ス

論理略説 卷之中 十六

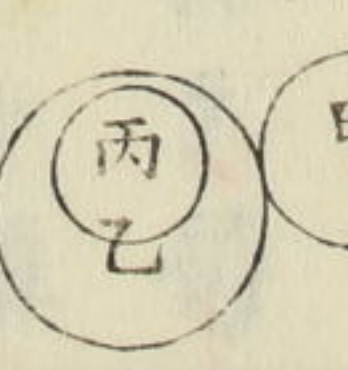
者十九ヲ得左ニ掲クル所ノ如シ其第十段ハ三述意ノ種類第二段ハ各般様法ノ名第十編ヲ見ヨ第三段ハ其圖解ナリ左ノ圖解中丙ノ黒部ニ至リテハ其甲トノ關係何如ヲ前提ニ因リテ以テ推知スルヲ能ハザル者ナリ

○第一形象

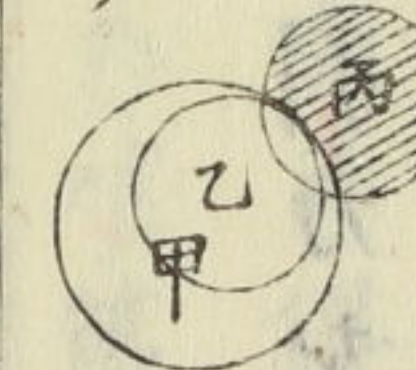
阿バ 一切の乙ハ甲あり
阿ハ 一切の丙ハ乙あり
阿ラ 故ニ一切の丙ハ甲あり



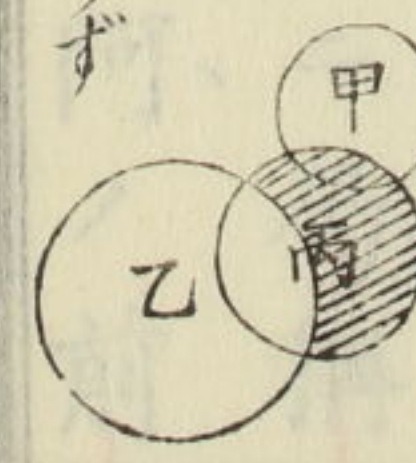
江ケ 乙ハ皆甲あり
阿レ 丙ハ總て乙あり
江ツ 故ニ丙ハ皆甲あり



阿ク 一切の乙ハ甲あり
以イ 或る丙ハ乙あり
以一 故ニ或る丙ハ甲あり

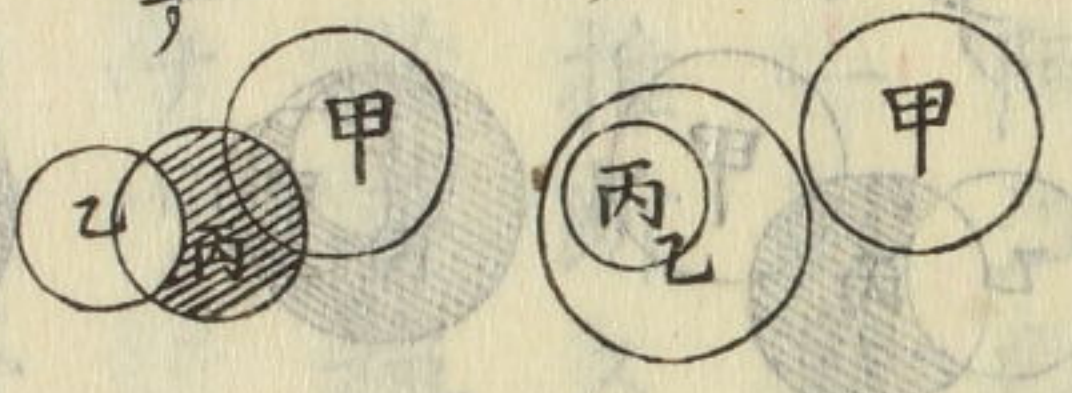


江至 乙ハ皆甲あり
以リ 或る丙ハ乙あり
於オ 故ニ或る丙ハ甲あり

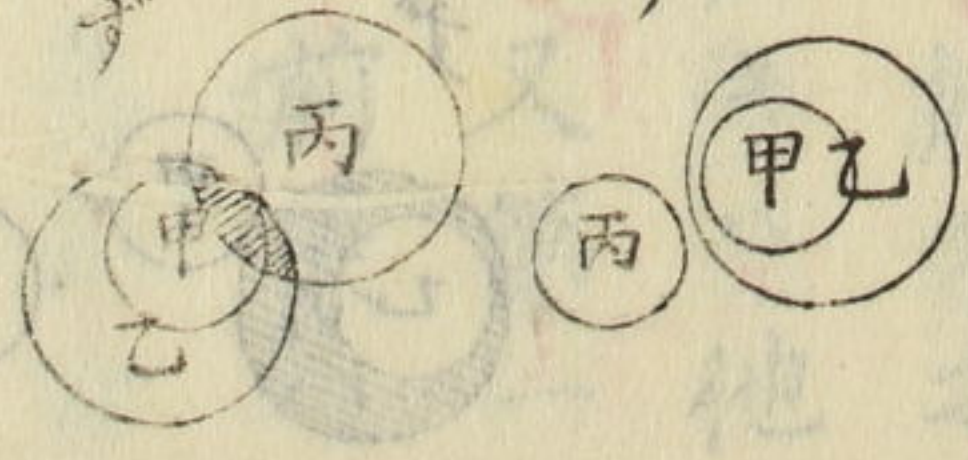


○第二形象

江ケ 甲ハ皆乙あり
阿ハ 一切の丙ハ乙あり
江レ 故ニ丙ハ皆甲あり
江ス 甲ハ皆乙あり
以チ 或る丙ハ乙あり
於一 故ニ或る丙ハ甲あり

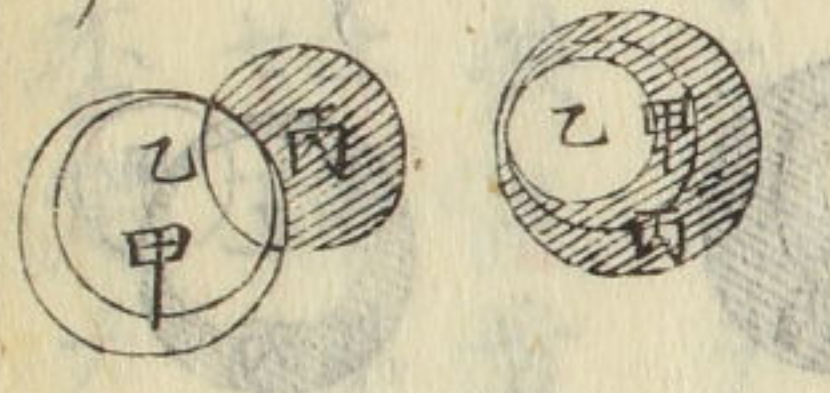


阿カ 一切の甲ハ乙あり
江レツカ 丙ハ皆乙あり
江スレツカ 故ニ丙ハ皆甲あり
阿バ 一切の甲ハ乙あり
於コ 或る丙ハ乙あり
於一 故ニ或る丙ハ甲あり

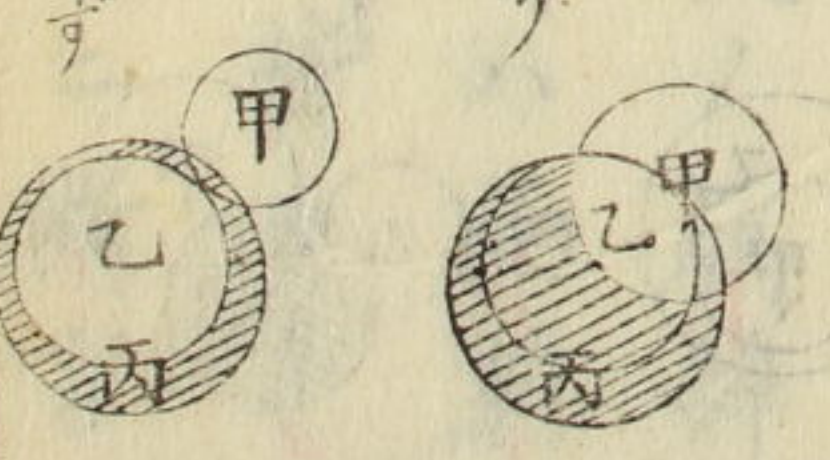


○第三形象

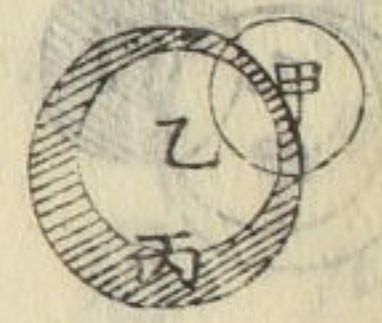
阿タ 一切の乙ハ甲あり
阿フ 一切の乙ハ丙あり
以一 故ニ或る丙ハ甲あり
阿タ 一切の乙ハ甲あり
以チ 或る乙ハ丙あり
以シ 故ニ或る丙ハ甲あり



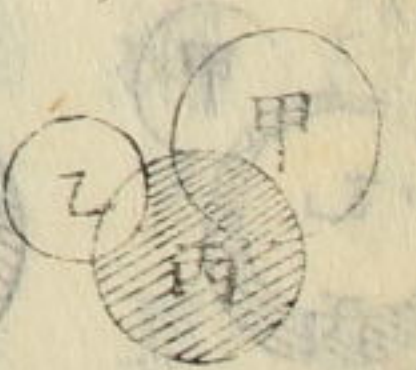
以チ 或る乙ハ甲あり
阿サ 一切の乙ハ丙あり
以スミ 故ニ或る丙ハ甲あり
江至 乙ハ皆甲あり
阿ラ 一切の乙ハ丙あり
於ハ 故ニ或る丙ハ甲あり



於カボ 或る乙ハ甲あらざる
阿カ 一切の乙ハ丙あり
於カ (故三或る丙ハ甲あらざる)

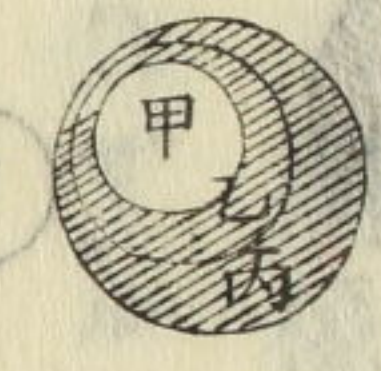


江カ 乙ハ皆甲あらざる
以カ 或る乙ハ丙あり
於カ (故三或る丙ハ甲あらざる)

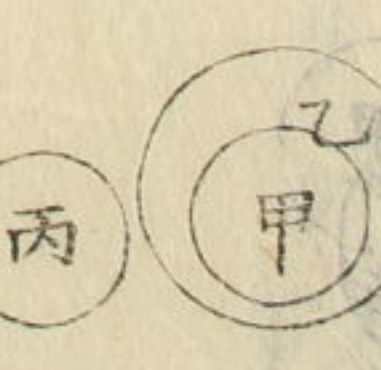


○第四形象

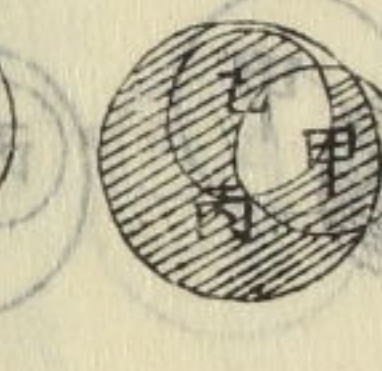
阿カ 一切の甲ハ乙あり
阿カ 一切の乙ハ丙あり
以カ (故三或る丙ハ甲あり)



阿カ 一切の甲ハ乙あり
江カ 乙ハ皆丙あらざる
江カ (故三丙ハ皆甲あらざる)



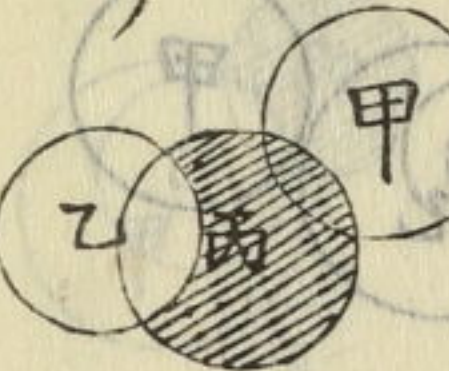
以カ 或る甲ハ乙あり
阿カ 一切の乙ハ丙あり
以カ (故三或る丙ハ甲あり)



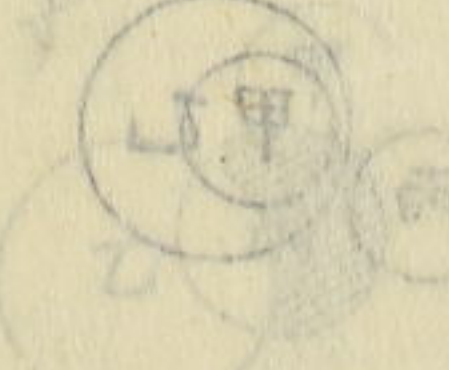
江カ 甲ハ皆乙あらざる
阿カ 一切の乙ハ丙あり
於カ (故三或る丙ハ甲あらざる)



江カ 甲ハ皆乙あらざる
以カ 或る乙ハ丙あり
於カ (故三或る丙ハ甲あらざる)



阿カ 一切の甲ハ乙あり
江カ 乙ハ皆丙あらざる
江カ (故三丙ハ皆甲あらざる)



右ノ表ヲ着ルニ阿江以於ノ中何ニテモ能ク之ヲ証シ得ルハ第一形象ノミ阿述意ノ如キハ他人形象ニ因リテ推断スル能ハザルナリ又第一形象ノ大前提ハ必普稱阿或ハ江ナリ小前提ハ必肯定阿或ハ以ナリ
第二形象ノ断言ハ皆否定ナリ今其然ル由縁ヲ考フルニ此形象ニ於テ中名辞ハ兩前提ノ属辞ナリ故ニ兩前提共ニ肯定ナレバ中名辞ハ兩前提共ニ周逮セズ
上卷第二十
七丁ヲ見ヨ
即第三則ニ背ケリ
然レバ下前提ハ否定ナラザルヲ得ズ故ニ断言

モ亦否定ナリ第六則小前提ハ阿江以於ノ何ニ
テモ有ル可シ

第三形象ノ断言ハ皆局稱ナリ小前提ハ必肯定
ナリ
第四形象ハ推断ヲ述ブルコ甚拙ク且穩當ナラ
ザル者ナリ之ヲ第一形象ニ述ブルクハ甚妥當
ニシテ明了ナリ論理學ノ諸大家中ニハ全ク此
形象ヲ省キタル者少カラズ
四形象各固有ノ性有リテ各特殊ノ用ニ適ス
論理學者ノ言ニ曰ク第一形象ハ事物ノ性質ヲ

發見シ或ハ之ヲ證スルニ適シ第二ハ事物ノ差
別ヲ發見シ或ハ之ヲ證スルニ適シ第三ハ適例
或ハ犯則ヲ發見シ或ハ之ヲ證スルニ宜シ第四
ハ一類中諸種ヲ區別スルニ宜シト
ケザレ及カメスツレトス第二形象第一ハ往々
及第二様法
之ヲ反對論ヲ擊破スルニ用ユ例ヘバ或人若シ
光ハ實質物ナリト言ハズ之ヲ駁スルニ左ノ推
測式ヲ以テスベシ
一切の實質物ハ重み有り
光ハ重みか

(故三)光ハ實質物に非ず

「バロコ」及「フェスチノ」第二形象第三モ亦駁撃

ニ用ヰル可シ事物ノ差別ヲ發見スルニ用ヰル

ノ一例ヲ舉ケレバ此ニ一患者有リ其何病タル

ヲ断定スルニ熱病ニハ云々ノ徵証有リ今其徵

証無シ故ニ此患者ノ病ハ熱病ニ非ズカメスツレ

ス若シ又胃病ナレバ云々ノ様体有ル可カラザ

ルニ此患者ハ是有リ故ニ此病ハ胃病ニ非ズケ

ガレト因テ此患者ノ病ノ諸病ト異ナルヲ証シ

以テ遂ニ其真ニ何病タルヲ發見スルガ如シ

第三形象モ亦駁撃ニ用ヰル可シ則此ニ一説ヲ

持張スル者有リ我之ヲ駁破セント欲セバ須ラ

ク彼ノ説ニ反戾セル一例ヲ舉ケ可シ例ヘバ「

切の金属ハ固質物ナリト主張セバ之ヲ破ルニ

左ノ推測式(フアラプトン)ヲ以テス可シ又上卷第三

ヲ比考ス可シ

水銀ハ固質物ニ非ず

水銀ハ金属ナリ

(故三)或る金属ハ固質物ニ非ず

第十編

推測式化成

論理學 卷之中 同 盟

アリストートルハ第一形象ヲ以テ殊ニ正當明
確ナル推測式トシテ之ヲ完全形象ト名ツケタ
リ第四形象ハ氏ノ認メザル所ナリ又第二第三
形象ハ皆先ツ之ヲ第一形象ニ修為シテ而後始
メテ其正當ナルヤ否ヲ監査ス可キ者トシテ不
完全形象ト名ツケタリ蓋シアリストートルハ
推測式ノ正否ヲ判スルハ左ノ定綱ニ據ル者ナ
リトセリ

一類ニ就テ有無ヲ言フ可キ者ハ其類中ノ一
切ニ就テ同シク有無ヲ言フ可シ

語ヲ更ヘテ言ヘバ

類ニ属スル事ハ必種ニ属ス

是有名ナル皆有全無ノ辨ト稱スル者ニシテ蓋
シ一般類ニ某ノ性質有レバ其類中ノ各物ハ皆
此質ヲ有ス一般類ニ某ノ性質無ケレバ其類中
ノ各物亦皆此質無シト謂フノ意ナリ今直ニ此
定綱ニ照シテ其正否ヲ判ス可キ者ハ第一形象
ノ推測式ニ限レリ故ニ他ノ形象ハ先ツ修為シ
テ第一形象トシ而シテ此定綱ニ照シ以テ始メ
テ其正否ヲ判スルヲ得ルナリ斯ク第一形象ニ

論理學 卷之中 同 盟

修為スルヲ推測式化成ト云フ故ニ
 吾輩ハ既ニ第八編ニ於テ八個人定則ヲ説キテ
 以テ推測式ノ正否ヲ監査ス可キヲ示シタレバ
 更ニ化成法ヲ行フヲ要セズト雖此法ヲ知ルヲ
 又益無キニ非ズ故ニ其方法ヲ説ク可シ
 此方法ヲ記スルニ便センガ為ニ中古時代ニ古
 ノ詩ヲ作りタリ
Barbara, Colerent, Davi, Tertio quo prioris;
Beane, Barnesius, Festino, Parotto secunda;
Tertia Paraphi, Disamis, Patisi, Telapton,

Bohardo, Terison habet; Quarta misuper addit
Brammship, barnenes, Rimaris, Teoapho,
Tresison.
 余ハ假ニ之ヲ左ノ四首ノ歌ニ譯シタリ
 バルバ^レラ^レム^レケ^レラ^レレンツ又^レダ^レリ^レイ^レト
 五^レリ^レオ^レを^レ加^レて^レ是^レぞ^レ第^レ一^レ
 ケ^レザ^レレ^レム^レカ^レメ^レスツ^レレ^レト^レス^レフ^レエ^レス^レチ^レノ^レト^レ
 バ^レロ^レコ^レを^レ添^レへ^レて^レ第^レ二^レを^レり^レけ^レり
 タ^レラ^レプ^レチ^レト^レチ^レサ^レニス^レタ^レチ^レシ^レフ^レエ^レラ^レプ^レト^レン
 ポ^レカ^レル^レド^レの^レ外^レフ^レエ^レリ^レト^レソ^レシ^レの^レミ^レ

諸列田言
卷之四
同
合

第四「ハ」ブ「ラ」マン「チ」ツ「プ」カ「メ」子「ー」ス

「チ」マ「リ」ス「フ」エ「サ」ポ「ー」フ「レ」ジ「ソ」ン「チ」あり

此レ唯洋語ヲ解セザル者ノ為ニ假ニ譯シタル者ナレバ固ヨリ歌ノ拙キヲ顧ミルニ遑アラズ今此歌ヲ以テ化成ノ方法ヲ知ルヲ示サン右ノ「印」ノ中ニ在ル者ハ前編ニ説明シタル十九ノ正當推測式ノ名ニシテ第一首ノ歌ハ第一形象ノ推測式ヲ掲ゲ第二首ハ第二形象第三首ハ第三形象第四首ハ第四形象ノ推測式ヲ列布タル者ナリ名中阿江以於ノ音ハ其推測式中述

意ノ質量ヲ表ス例ヘバ「バル」バ「ラ」ハ「阿」阿「阿」ノ三

述意ヨリ成リ「フ」レ「シ」ソ「ン」ハ「江」以於ノ三述意ヨ

リ成ル等ノ如シ

第二三四形象推測式ノ名頭ノ字ハ第一形象ノ

何レノ推測式ニ化成ス可キヤヲ示ス即名頭ノ

「バ」ズ「ボ」ハ「バル」バ「ラ」ニ「カ」或ハ「ケ」ハ「ケ」ラ「レ」ン「ツ」ニ

「タ」チ「ハ」ダ「リ」イ「ー」ニ「フ」フ「エ」ハ「フ」エ「リ」オ「ー」ニ化成ス可キ

者ナリ

名中サシスソノ音ハ其上ニ有ル述意ヲ單純ニ

轉換ス可キヲ示ス

論理各説
卷之四
二十三
同盟
舎

プ、ホハ其上ニ在ル述意ニ減界轉換法ヲ行フヲ
 示ス
 名中マ、ミ或ハメ有ル推測式ハ大前提ト小前提
 ヲ交換ス可シ
 名頭ノ外カ、コ有ル推測式ハ間接化成法ト稱ス
 ル特殊ノ化成法ヲ行フ可シ
 今化成ノ兩三例ヲ掲ク
 カメスツレトスノ一推測式ヲ取ラン

- (一) 一切の東京人ハ日本人あり
- (二) 一人の支那人も日本人ハ非む

(三) 故ニ一人の支那人も東京人ハ非む

名頭ニカ有ルハ化成シテ「ケザレト成ルヲ示ス
 カメス」ノスハ(二)ヲ單純ニ轉換ス可キヲ示ス
 ハ大前提ト小前提ヲ交換ス可キヲ示ス語尾ノ
 スハ断言ヲ單純ニ轉換ス可キヲ示ス斯ノ如ク
 スレバ左ノ推測式ヲ得

- 一人の日本人も支那人ハ非む
- 一切の東京人ハ日本人あり

(故ニ) 一人の東京人も支那人ハ非む

是即推測式「ケザレ」ナリ而シテ其断言ヲ單純ニ

論理學 卷之中 同 盟

轉換スレバ元ノ断言ヲ得可シ
又「フエラ」プロトシノ一例ヲ示セバ

(一) 水銀ハ固質物ニ非ズ

(二) 水銀ハ金属アリ

(三) 故ニ或る金属ハ固質物ニ非ズ

名頭ノ「フエラ」ニ化成スルヲ示ス。ハ其
前ニ在ル前提即(三)ニ減界轉換法ヲ行フヲ示ス
故ニ左ノ如シ

水銀ハ固質物ニ非ズ

或る金属ハ水銀アリ

(故ニ) 或る金属ハ固質物ニ非ズ

是即「フエラ」ナリ

又「フエラ」ノ例ヲ示セバ

(一) 自ウラ光を放つものハ遊星ニ非ズ

(二) 一切の遊星ハ球体アリ

(三) 故ニ或る球体ハ自ウラ光を放つものニ非ズ

を

サノ前ニ在ル述意即(一)ヲ單純ニ轉換シ。ポノ前
ニ在ル述意即(二)ニ減界轉換法ヲ行ヘバ左ノ如
ク「フエラ」ノ推測式ヲ得

論理學 卷之中 二十五 同 盟

論理各説 卷之中 二十六 同 録

一の遊星も自りら光を放とむ

或る球体ハ遊星あり

(故ニ)或る球体ハ自りら光を放とむ

他ノ諸様法モ皆其名称中文字ノ指示ニ従テ容

易ニ化成ス可シ但「ブラマンチップ」「バロコ」「ボカル

ド」ノ三者ハ特別ニ検査セザル可カラズ

「アラマンチップ」ノ一例ハ左ノ如シ

(一)一切の金属ハ實質物あり

(二)一切の實質物ハ引力を施す

(三)故ニ或る引力を施すものハ金属あり

名中マ有レバ大小前提ヲ交換シ(三)ヲ單純ニ轉換スレバ

一切の實質物ハ引力を施す

一切の金属ハ實質物あり

(故ニ)或る金属ハ引力を施す

トナル可シ此推測式ハ「バルバラ」ニ非ズ阿阿以

ナリ即前ニ第一形象ニ於テハ無効ナリトシテ

除キ去リタル者ナリニ前提ヨリシテ正ニ阿断

言

(故ニ)一切の金属ハ引力を施す

論理各説 卷之中 二十六 同 録

ヲ得可シ總テ第四形象ハ上ニモ云ヘル如ク甚拙クシテ自然ノ順序ニ及キタル推測式ナリ右ノ「^レエサポ^レ」及「^レブラマン^レチ^レア^レ」ノ二例ニ互之ヲ知ルニ足ル故ニ或ル論理學家ノ説ニ從テ之ヲ廢棄スル^レ可ナルニ似タリ
 「^レパロコ^レ」及「^レボカルド^レ」ハ直ニ第一形象ニ化成ス可カラズ左ニ其方法ヲ示ス可シ
 「^レパロコ^レ」ノ推測式ハ左ノ如シ
 (一)一切の甲ハ乙カ
 (二)或る丙ハ乙カ
 (三)或る丙ハ乙カ
 (三)或る丙ハ乙カ

(三)故ニ或る丙ハ甲カ
 大前提ニ否定轉換法ヲ行ヘバ左ノ如ク「^レエリオ^レ」ノ推測式ヲ得可シ
 一切の「^レ乙カ」なるものハ甲カ
 或る丙ハ「^レ乙カ」なるものあり
 (故ニ)或る丙ハ甲カ
 又「^レボカルド^レ」ハ左ノ如シ
 (一)或る乙ハ甲カ
 (二)一切の乙ハ丙カ
 (三)故ニ或る丙ハ甲カ

今大前提ヲ否定轉換シテ小前提トセバ

(一)一切の乙ハ丙あり

(二)或る甲「あらざるものハ乙あり

(三)故ニ或る甲「あらざるものハ丙あり

ヲ得此断言ハ即元ノ断言ヲ單純ニ轉換シタル者ナリ

然レ氏「バロコ」及ボカルド「ハ又間接化成法ト稱スル特殊ノ方法ヲ以テ証ス可シ此方法ハ直接ニ推測式ノ断言ノ當ナルヲ証セズシテ其否ナルヲ能ハザルヲ証スル者ナリ即左ノ例ニテ

詳ナル可シ

バ「ロコ」ノ推測式ハ左ノ如シ

(一)一切の甲ハ乙あり

(二)或る丙ハ乙「あらざるものハ丙あり

(三)故ニ或る丙ハ甲「あらざるものハ丙あり

此断言若シ否ナル片ハ其實反對ノ第五編「見ヨ一切

の丙ハ甲ありハ當ナラザルヲ得不然レバ左ノ

如ク「バルバラ」ノ推測式ヲ得可シ

此断言一切の甲ハ乙あり

一切の丙ハ甲あり (三)ノ實反對

論理甲言 卷之中 同 聖 舎

(故三一切の丙ハ乙あり)

此断言ハ(三)ノ實反對ナリ故ニ若シ元ノ断言否
ナレバ元ノ小前提モ亦非ナリ然ルニ推断ノ用
ハ凡ソ云々ノ前提ノ當ナル時ハ云々ノ断言ヲ
得可シト決定スルニ在リテ前提ハ必當ナル者
ト認ムルナリ故ニ元ノ小前提ヲ非ナリトスル
能ハザレバ元ノ推断モ亦否ナル能ハザルナリ
ボカルドモ亦之ニ同シ
(二)或る乙ハ甲からむ
(三)一切の乙ハ丙あり

(三)故三或る丙ハ甲からむ

若シ此断言當ナラザレバ其實反對ノ一切の丙
ハ甲ありハ當ナリ故ニ左ノ如ク「バルバラ」ノ推
測式ヲ得
一切の丙ハ甲あり (三)ノ實反對
一切の乙ハ丙あり (三)
(故三一切の乙ハ甲あり
此断言ハ(二)ノ實反對ナリユエニ元ノ断言否ナ
レバ大前提モ亦否ナリ然ルニ前提ハ否ナル
能ハザル者ナリ故ニ断言モ亦否ナラズ

論理各説 卷之中 二十九 同 聖 舎

吾輩ハ平生ノ常言ヲ述ブルニハ必シモ推測式ニ依ラズト雖凡ソ正當ノ演繹推理ハ必皆前編ニ説明シタル十九様法ノ一ナリ唯其大前提或ハ小前提ノ若キ故意ニ之ヲ提出セザルモノノ已ニ知了セルモノナルヲ以テ常ニ之ヲ省畧ス斯ノ如キ不完全推測式ヲ散体ト稱ス而シテ其大前提ヲ省畧セル者ヲ第一種ノ散体推測式ト云フ其一例ヲ舉ぐレバ「空氣モ實質物カレモ亦必モ重み有リト云フ若キ其大前提ハ人ノ已ニ

了知セル所ナレバ省キテ之ヲ述ベザルナリ今若シ式ニ依テ述ブレバ左ノ如ク「バルバラ」ノ推測式ト成ル

- (一) 一切の實質物の重み有り
- (二) 空氣ハ實質物あり
- (三) 故ニ空氣ハ重み有り

小前提ヲ省畧シタル者ヲ第二種ノ散体推測式トス例ヘバ「一切の金屬ハ原素カレモ鉄ハ原素カリト云フガ若キ其鉄ハ金屬ありト云ヘル小前提ノ有ルベキハ勿論ノ事タレバ語ノ上ニハ

省キテ之ヲ述ベザルナリ
又時ニ因リ單ニ前提ノミヲ述ベテ断言ヲ明言
セザルコト有リ是レ明言セザルコト却テ趣味有
ルカ或ハ明言スレバ嫌疑有ルヲ以テナリ此類
ヲ第三種ノ散体ト稱ス可シ
此他文意ニ因リテ一言一句ノ中ニ直ニ前提ヲ
含ミタル者有リ例ヘバ「か」と「は」は何ゆゑか
程賤キ強カニ太刀、刀を抜きこまふ云々ト
言ヘル若キカ「程賤キ」ノ語ニテ「抜きこまふ」ト
不審ヲ起ス理由ヲ述ヘタル者ニテ則ルヤ

賤キ者小對して太刀、刀を抜くニ及をざる
此強カハ甚賤キ者ナリ
故ニ此強カニ向ひて太刀、刀を抜くニ及をざ
るあり
是レ推測式ノ意ナリ
或ハ犯則推測式ノ如ク見エテ實ハ犯則ニ非ザ
ル者有リ此等ハ最宜シク注意ス可シ例ヘバ
見義不為者無勇
某ハ義を見て為さむ

論理各説
卷之四
三十一
同盟

論理用語 卷之四 同 盟 合

(故ニ某ハ勇無シ)

ト云フ若キ兩前提ハ皆否定ニシテ第五則ヲ犯セル如ク見ユレドモ善ク小前ヲ視レバ「某ハ義を見て為さざる者あり」ノ意ニシテ則肯定トス故ニ是「ケラレンツナリ」又或ハ

蛇ハ蟲かり
或る人ハ蛇を神として禮拜を

(故ニ或る人ハ蟲を神として禮拜を

ト云フ若キハ是レ尋常ノ推測式ニ非ズ蓋シ此

レ大前提ニ直接推断第三法上卷第四ヲ行ヒテ

蛇を神として禮拜をる者ハ蟲を神として禮拜

をる者ありヲ得ベシ更ニ之ヲ以テ大前提トセ

バ即「タリイ」ノ推測式ト為ル可シ此例ノ推断ハ

吾人平生慣行スル所ニシテ其種類枚擧スルニ

違アラズ

又渾体ト稱スル一種体ハ許多ノ連續セル推測

式第一ソリテイスヲ合併シタル者ナリ左ノ例ヲ見テ自ラ

詳ナル可シ

一切の甲ハ乙あり

命理格説 卷之四 三三 同盟 合

言玉田言 卷之中 同 照 舎

一切の乙ハ丙あり

一切の丙ハ丁あり

一切の丁ハ戊あり

(故三)一切の甲ハ戊あり

斯ノ如ク連續シタル述意ノ數ニハ限無キ者ニ

シテ其一條ノ述意ノ主辞ハ其前ナル述意ノ属

辞ト為リ其属辞ハ又次ナル述意ノ主辞ト為ル

ナリ而シテ断言ノ主辞ハ第一述意ノ主辞ニシ

其属辞ハ最後ノ述意ノ属辞ナリ則此例ハ左ノ

如キ三個ノ述意ヲ合併シタル者トス

第一推測式

一切の乙ハ丙あり

一切の甲ハ乙あり

(故三)一切の甲ハ丙あり

第二推測式

一切の丙ハ丁あり

一切の甲ハ丙あり

(故三)一切の甲ハ丁あり

第三推測式

一切の丁ハ戊あり

一切の甲ハ丁あり

(故三)一切の甲ハ戊あり

此ニ因リテ看レバ渾体推測式ニテ中名辞ノ數

ハ第一ノ述意ト末ノ断言トノ間ニ在ル述意ノ

數ニ同シクシテ同數ノ推測式ヲ合併シタル者

ナリ第一推測式ハ第一ノ述意ヲ小前提トシ第

二ノ述意ヲ大前提トシタル者ナリ第二第三ノ

式ハ其先ナル推測式ノ断言ヲ以テ小前提トス

渾体ニハ第一述意ノ外ハ必皆宜シク普稱述意ナル可シ然ラザレバ推測式第三則ヲ犯ス又最後述意ノ外ハ皆必肯定ナルヲ要ス然ラザレバ第四則ヲ犯ス學者須ラク例ニ就テ徴ス可シ

第十二編 設若推測式

余第四編ニ於テ述意ヲ直説体ト設若体トニ大別シテ此マデハ先ツ直説体ノ推斷ヲ論ジタリ今又設若体ノ推斷ヲ畧論セン

設若述意ニ二種有リ第一類ヲ假想述意ト稱スハイホセチカル學生若し勉強をれを其學力進む可シト云へル

ガ若シ若シ云々ノ一句ヲ前項ト稱シ下句ヲ後

項ト稱ス第二類ヲ離接述意ト稱スヂネチヤンクチウ其ハ勉強カ

或ハ不勉強カありト云フ等ノ如シ

假想推測式ハ大小二前提ニテ成レルヲ通常推

測式ニ異ナラズ大前提ハ假想述意ナリ小前提

ハ直接述意ニシテ其肯定ナルカ或ハ否定ナル

カニ因テ假想推測ノ二種ヲ得ルナリ其肯定ナ

ル者ヲ造成假想式ト稱ス則

イ若シ口おれをハを二あり

イを口あり

(故三ハを二あり

ノ如ク小前提ニ於テ大前提ノ前項ヲ肯定スル
ナリ小前提ノ否定ナル者ヲ破滅假想推測式ト
稱ス則左ノ如シ
イ若一ロおれをハを二あり
ハを二あらむ
(故三イをロあらむ
此小前提ハ大前提ノ後項ヲ否定スルナリ
此類ノ推測式ノ當否ヲ審査スルハ單テ左ノ定
則ニ依ル

第一 前項(大前提)ノ當ナレバ後項モ亦當ナリ

第二 後項否ナレバ前項モ亦否ナリ

此定則ヲ犯シテ後項ノ當ナルヨリ前項當ナリ

ト推断シ或ハ前項ノ否ナルヨリ後項ノ否ヲ推

断スル若キハ忽誤謬ニ陥ル可シ今若シ

イ若一ロおれをハを二あり

ハを二あり

(故三イをロあり

ト云フハ是レ誤ナリ其故ハハノ二ナルヲハ只

イノロナル時ノミニ限ラズ又他ノ事情ニ因ル

論理格説 卷之中 三十五 同 盟 各

言理馬言 卷之中 同 盟 舎

トモ有ル可シ例ヘバ別マ又新ノ事計ニ因ハ
イ兩降レを道路惡シ

道路惡シ

故ニ兩降りとり

ト云フガ如シ道路惡シト雖必兩降りタリトフ
可カラズ或ハ他ノ事由ニテ然ルヤ是レ未知ル
可カラズ又ハ前項ノ如クハ其ノ事ハ否カ
又 學生若シ不勉強カレバ其學問ハ進歩セざる
者あり

此學生の學問を進歩せざる者あり

故ニ此學生ハ不勉強あり

ト云フ若キハ其不當ナルト尤明ナリ何ナレバ
學生或ハ勉強ナルモ其性魯鈍ナルカ又ハ他人
事情有リテ進歩セザルヤモ知り難ケレバナナリ
前項ヲ否定スレバ左ノ如シ

イ若シ口かれをハモニあり

イモ口あらむ

故ニハモニあらむ

此則誤謬ナリ蓋シイハ固ヨリ口ナラズト雖ハ

命理各記

卷之中

三六

同

盟

舎

ノ二ナルヲハ無シトス可カラズ故ニ前ノ例ハ
雨降ラズトモ道路ノ惡シキヲ無シトスルヲ能
ハズ又學生ハ不勉強ニ非ズト雖其學問進歩セ
ザル者ニ非ズ即進歩ス可シト断定スルハ不當
ナルヲ極メテ明白ナル可シ
今又更ニ一例ヲ舉ケテ之ヲ詳ニセン
性質若し吝嗇かれむ其人ハ金錢を施さざる
者あり
此人ハ金錢を施さざる者あり
故ニ此人ハ吝嗇あり

或ハ

性質若し吝嗇かれバ其人ハ金錢を施さ、る
者あり
此人ハ吝嗇あらむ
故ニ此人ハ金錢を施さざる人ニ非む
是兩ナガラ皆誤謬ナリ蓋シ此人ハ吝嗇ナラザ
ルモ或ハ己ガ貧困ナルカ或ハ施與ハ善事ニア
ラズト考フルカ又ハ其他ノ理由有リテ施與セ
ザルモ知ル可カラザレバナリ
假想推測式ハ容易ニ尋常ノ推測式ト為ス可シ

論理時言 卷之中 同 墨 金

即前ノ「學生」雨降ノ二例ノ式ハ左ノ式ニ變ズル
ヲ得ルナリ

不勉強かる學生ハ學問進歩せむ
此學生ハ不勉強かる學生あり

(故ニ此學生ハ學問進歩せざる者あり
又

雨降りたる後ハ道路惡キ時かり
今ハ雨降りたる後あり

(故ニ今ハ道路惡キ
人如シ

此ニ由リテ觀レバ後項ヲ肯定スルノ誤謬ハ第

三則ヲ犯シテ中名辞ヲ周逮セザルナリ則
雨降りたるの後ハ道路惡キ時かり

今モ道路惡キ時かり
(故ニ今モ雨降りたるの後あり

ト云フ若キ「道路惡キ時」ノ句ハ中名辞ニシテ
周逮セラズ是レ第三則ニ背ケリ又

不勉強かる學生ハ學問進歩せざる者あり
此學生ハ學問進歩せざる者あり

(故ニ此學生ハ不勉強あり

論理各宛 卷之中 三六 同 墨 金

論理各説 卷之中 三十九 同 題 舎

ト云フモ亦同シ若シ此式ヲ
不勉強かる學生ハ學問進歩せむ

此學生ハ學問進歩せむ

(故ニ)此學生ハ不勉強あり

トスレバ又是第五則ヲ犯ス者トス

又前項ヲ否定スルノ誤謬ハ第四則ヲ犯ス者ナ

リ今ハ蓋強弱も抑はるる時あり

雨降りとするの後ハ道路惡しき時あり

三今ハ雨降りとするの後ハ非也ハセリ限

此(故ニ)今ハ道路惡しき時ハ非也ハハ海峯ハ榮

ト云フ時ハ是レ小名辞ナルヲ「道路惡しき時ノ

句ハ否定断言ニ於テ周逮セラレ大前提ニ於テ

ハ周逮セラレズ

次ニ離接推測式ヲ説明ス可シ非也ハ

離接推測式ハ大小ニ前提ニ成リテ大前提ハ離

接述意ナリ小前提ハ直説述意ニシテ其肯定ナ

ルヲ第一種ノ離接推測式トシ其否定ナル者ヲ

第二種トス

第一種ハ左ノ如シ

イモ口あり或はハモ二あり

論理各説 三十九 同 題 舎

(然ルニ)イモ口あり

(故ニ)ハモ二からむ

例へば

義経が實ニ罪を犯しとるか梶原が讒言を為

しとるかあり

(然ルニ)梶原が讒言を為しとるかあり

(故ニ)義経ハ罪を犯しとるニ非む

ト云フガ如シ而シテ通常イトハトハ同一ナリ

或ハ口ト二ト同一ナリ其イトハト同ナルハ

例ハトハトハト同ナリ

華族ハ古の公家か或ハ大名あり

(然ルニ)此華族ハ公家あり

(故ニ)此華族ハ大名からむ

此ノ如シ其口ト二ト同一ナルノ例ハトハト同

汝が非理あるか吾れが非理あるかあり

(然ルニ)汝が非理あり

(故ニ)吾を非理からむ

凡ソ大前提ノ二句ハ互ニ相容レテ両立スル能

ハザル者タルト必要ニシテ尤注意ス可キトナ

リ則イノ口ナル片ハハ決シテニタル能ハズ

諸我田詩 卷之四

ハノニナル片ハイノ口ナル能ハザル如キ場合
ニ非ザレバ此推断ヲ行フ可カラズ例ヘバ書物
ハ其記事の有益あるか或ハ其文章の美あるが
為ヨ貴重せらるト云ヘル大前提ナレバ是レ其
書物ノ記事ノ有益ナルヲ以テシテ必シモ其文
ノ美ナルガ為ニ貴重セララル、ナラズト為ス能
ハズ何ナレバ記事ノ有益ト文章ノ美トハ両立
スル能ハサル者ニ非ズ故ニ一ノ書物ニシテ此
両件ノ為ニ貴重セララル、ヤモ知ル可カラザレ
バナリ

離接推測式第二種ハ左ノ如シ

イオ口あり或ハオニあり
然ルニイオ口あらむ
故ニハオニあり

例(一)バ此書物ノ貴重なるハ文章ノ美なるガ

天一坊が真の吉宗の子か大岡越前守の監定
が正トキカあり貴重なるハ文章ノ美なるガ

(然ルニ)天一坊ハ真の吉宗の子ニ非ズ

(故ニ)越前守の監定ハ正トキカあり貴重なるハ文章ノ

此種ニハ大前提二句ノ両立セザル者タルヲ

論理各説 卷之四 四十一 同 盟

要セズ例ハバ
書物の貴重なるを記事の有益なるか文章の
美なるかが為るかの
然ルニ此書物の貴重なるハ文章の美なるが
為る非也
故ニ此書物の貴重なるハ記事の有益なるが
為る
ト云フハ是レ正當ノ推断ナリ
離接推測式ハ通常ノ推測ト大ニ異ナリテ小前
提ノ肯定ナルトキハ断言ハ否定ナリ小前提ノ

否定ナルトキハ断言ハ肯定ナリ
設若推測式ノ一類ニシテ二重体ト稱スル者有
リ之ヲ別チテ三種トス第一ヲ單純造成二重体
ト稱ス左ノ如シ
イ若シ口おれハオニあり又ホ若しへかれ
ハオニあり
然ルニイ口おるか或ホへるかあり
故ニハオニあり
大前提ハ二個以上ノ假想述意ニシテ其述意ノ
後項ハ孰レモ皆同一ナリ小前提ハ離接述意ニ

論理學
卷之四
四十二
同
盟

シテ其項ハ皆大前提ノ述意ノ前項ナリ其例左
ノ如シ

學科を若し有用ノ事物を知らしむる者たる
かれを之を修む可し又若し學科を講むるを
心力を鍊る者たるかれを之を修む可し然ル
ニ某ノ一學科ハ有用ノ事物を知らしむるか
或ハ心力を鍊る者たるかり故ニ之を修むべ
し

第二種ヲ複雑造成ニ重体ト稱ス左ノ如シ
イ若し口かれハハニかり又ホ若しへかれ

をトをチナリ

(然ルニイを口あるか或はホをへあるかあり
(故ニハをニあるか或はトをチあるかり
断言ノ離接体ナルヲ以テ故ニ複雑ノ名有ルナ
リ其一例ヲ舉クレバ

重盛若し清盛の言ニ從ハゞ不忠の臣と為り
若し背けを不孝の子とある(然ルニ其言ニ從
ふか之ニ背くかの外あるなし(故ニ重盛ハ不
忠の臣とあるか或ハ不孝の子と成るの外を
なし

此例ノ如クイ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、チ、ノ諸項ハ皆異ナ
ラザルト多シ

第三種ハ破滅二重体ト稱ス此種ニハ唯複雑体
有ルノミ蓋シ其單純ナル者ハ二個ノ假想推測
式ニ分裂スレバナリ左ノ如シ

イ若し口おれをハとニあり又ホ若しへおれ
をトとチあり

(然ルニ)ハとニあらざるか或とトとチあらざ
るかあり

(故ニ)イを口あらざるか或をホをへあらざる

かあり

然レ氏二重体ハ極メテ誤錯ニ陥リ易キ者ニシ
テ多ク用井ル可キ論法ニ非ズ蓋シ唯是か或ハ
是かトノ兩断ニテ盡シ得可キ者ハ甚少ケレバ
ナリ試ニ左ノ二重体ヲ見ル可シ

學生若し學問を好まを奨勵を無要あり又若
し之を嫌を奨勵を無効ニ属ス

(然ルニ)學生ハ學を好めるか或を之を嫌ふか
あり

(故ニ)奨勵ハ無要あるか或ハ無効あるかあり

此推測式ノ小前提ハ正當ナラズ何ナレバ學生
 中ニハ或ハ學問ヲ好メルニモ非ズ亦嫌フニモ
 非ザル中間ノ者有ルナラン此ノ如キ者ニハ獎
 勵ハ大ニ功效有ル可キヲ以テナリ
 凡ソ二重体ノ言論ハ毎ニ緊シク之ニ反對セル
 二重体ヲ用井テ答言ス可シ昔或ル亞仙人ノ政
 治ニ従事セントシケル時其母之ヲ止メテ曰ク
 汝政治ニ従事スルコ勿レ汝若シ正直ナラバ人
 汝ヲ惡マン汝若シ不正直ナラバ天汝ヲ惡マン
 ト其子答テ曰ク兒ハ政治ニ従事ス可シ兒若シ

正直ナラバ天兒ヲ愛セン兒若シ不正直ナラバ
 人兒ヲ愛セント又人アリ師ニ就キテ狀師ノ道
 ヲ學ビニケルガ師ト契約シテ曰ク業成ルノ後
 最初第一着手ノ訴訟ニ勝タバ若干ノ謝金ヲ呈
 ス可シ若シ之ニ負ケナバ呈セザル可シトサテ
 成業ノ後ニ至リテ師屢謝金ヲ促スモ敢テ賜ラ
 ザリシカバ遂ニ之ヲ法庭ニ訴タリ師曰ク汝ハ
 極メテ愚ナル者ナラズヤ我此公事ニ勝タバ汝
 ハ法庭ノ命ニ従テ我ニ謝金ヲ與ヘザルヲ得ズ
 若シ汝勝タバ曩ノ契約ニ據リテ我ニ謝金ヲ與

へザル可カラズ故ニ汝ハ勝ツモ負クルモ我ニ
金ヲ與へザル可カラズト時ニ其人ノ答へケル
ハ師ノ才智ノ勝レタルニモ似給ハズ小子若シ
此公事ニ負ケナバ曩ノ契約ニ據リテ金ヲ出ス
ニ及バズ小子若シ勝タバ法庭ノ宣告ニ從テ金
ヲ出スニ及バズ故ニ負クルモ勝ツモ小子ハ金
ヲ出スニ及バサルナリト
是ノ如キ詭論ハ到底真理ヲ發見スルニ無要ナリ徒
ニ奇ヲ競ヒ辯ヲ好ム者ノ口舌ヲ弄フニ過ギサルノミ
論理略説卷之中終

東京大學助教授井上哲次郎抄譯

倍因氏

全部四卷

心理新説釋義

全一卷

心理学ハ心意ノ妙用ヲ論シ人智ヲ啓發スルノ學ナレバ學士
論者ノ別ナク講究スヘキハ言ヲ俟ズ因テ井上先生泰西ノ鴻儒
倍因氏ノ書ニ就キ其大綱ヲ淺近ニ抄譯セラル是實ニ心理
學ノ寶典ナリ然レ氏此學ハ意義深奥ナルヲ以テ讀直
チニ其理ヲ悟ルベキ者ニ非ス因テ又別ニ釋義一卷ヲ附
セラル者此ニ據リテ沈思講究セバ孔釋モ未タ説カザル
所ノ心理ヲ發悟スルト豈難シトセンヤ

明治十五年十二月十六日 板權免許
同十六年六月 刻成出版

編述者

日本橋區蛸壳町三丁目十番地
菊池大麓

出版者

同區濱町二丁目十一番地
青木輔清

製本發兌

同區濱町二丁目十一番地
同全盟



論理略說卷之下

目錄

- 第十三編 歸納推理法
- 第十四編 觀察試驗
- 第十五編 歸納推理ノ規則
- 第十六編 定量歸納法
- 第十七編 經驗定綱類似法
- 第十八編 誤謬推理法

目錄終

論理略說

卷

下

目錄

同

盟

舎

論理略說卷之十
目錄
同
金

論理略說卷之十
目錄
同
金



論理略說卷之下
菊池大麓 編述

第十三編 歸納推理法

推理ノ方法ニ二大別有リテ一ヲ演繹法ト云ヒ
一ヲ歸納法ト云フ上卷三丁以下演繹法ハ已知
ノ述意(前提)ニヨリテ以テ新述意(断言)ヲ推断ス
ルノ方法ニシテ其肝要ナルヲ固ヨリ論無シト
雖歸納法ハ又一層緊要ナル者ノ如シ何トナレ
バ某述意ノ真ナル時ハ何述意ノ真ナルヤヲ推
断シ得ルハ演繹法ノ本分ナリト雖此推断ノ基

論理略說
卷之十
同
金

熟讀スベシ

本即前提ト為ル所ノ述意ヲ得ルハ則歸納法ニ由ルニ非ザレバ能ハザレバナリ。真ニ由ルニ非ザレバ能ハザレバナリ。故ニ唯演繹推理ニ由ルノミニテハ何事ヲモ知了スルヲ能ハズ。是レ先ツ前提ト為ル可キ述意ヲ得タルノ後ニ非ザレバ此方法ヲ行フニ由莫ケレバナリ。然ラバ則其前提ヲ得ルハ當ニ何等ノ方法ニ由リテス可キヤ。他無シ亦唯正當ニ歸納推理ヲ行フノミ而シテ之ヲ行フノ初步ハ我が五官ヲ以テ身邊四周ノ事物ヲ觀察スルニ在リ。則人生知識ヲ得ルノ正當手段ハ之ヲ舍テ、

熟讀スベシ

更ニ他術無キナリ。然リ而シテ世多ク悟ラズ。夫ノ大家先生ノ説或ハ古來遺傳ノ言ノ如キハ皆其真否ヲ查考セズシテ漫ニ憑信シ掲ゲテ前提ト為シ演繹推理ヲ行ヒ以テ真ノ知識ヲ得可シト思フ者無キニ非ズ。亦惑ハズヤ。西洋諸國ニ於テモ往時學者ノ猶此妄想ヲ去ラザリシ間ハ更ニ學術ノ進歩無カリシナリ。然ルニ第十五世紀ノ末ニ至リテ卓識通明ノ學士數人輩出シ始テ世ニ唱ヘテ曰ク先哲ノ言ト雖未

必皆眞ナリトス可カラズ吾人ハ親シク宇宙ノ
顯象ヲ觀察シ或ハ特ニ試驗ヲ行フテ以テ論說
ハ眞偽ヲ判断セザル可カラズト是ニ於テ頓ニ
學術ノ一大局面ヲ新換シ駁々乎トシテ進デ已
マズ以テ今時ノ盛ヲ致ス者ハ實ニ此類學士輩
出ノ日ニ胚胎セリト謂フ可シ太古希臘ノアリ
ストートルハ有名ノ理學者ナルガ其說ニ凡ソ
大物ハ小物ニ比スレバ其地ニ墜ルヲ速ナリト
此言一タビ出デシヨリ學者之ヲ信ジテ絶エテ
疑フ者無ク二千年ノ久シキヲ歴テ第十六世

紀ノ始ニ至リ以太利人ガリレオ高塔ノ頂上ヨ
リ試ニ大小ニ球ヲ墜シテ以テアリストートル
ノ言ノ眞ナラザルヲ徵シタリ斯克容易ニ其眞
偽ヲ徵明シ得可キヲナルニガリレオノ前ハ一
人モ疑ハズ物体ハ必大小ニ因リテ地ニ墜ル遲
速有ル者トシテ推論セリ夫レ斯克ノ如ク推理ノ
初歩ヲ誤リテ其前提已ニ虛偽ナレバ何如ニ演
繹推算法ヲ究ムルモ其好結果ヲ得ザルハ亦宜
ナラズヤ直ニ之ヲ宇宙ノ顯象ニ質シテ以テ論
說ノ眞偽ヲ判スルハ是レ歸納推算法ノ精神ニ

熟讀スベシ

シテ諸種理學科ノ現今ノ地位ニ進ミタルハ皆
 全ク此精神ノ發動ニ由ラザルハ無ナリ近時ハ
 社會學政治學等ノ如キモ亦皆此精神ニ資リ歸
 納推理法ヲ以テ研究セザル可カラズトスル者
 漸ク多シ然レモ概ネ此等ノ學科ハ猶未舊習ヲ
 蟬脱スルヲ能ハズ古傳若シクハ大家ノ説ノ其
 歸納推理法ニ由リ得タルニ非ラザル者ヲ確然
 動カス可カラズトシテ此前提ヨリシテ推論シ
 去ル者十ノ八九ニ居レリ豈嘆ゼザル可ケンヤ
 歸納法ニ二種アリ一ヲ完全歸納法ト名ツケ一

ヲ不完全歸納法ト名ツク完全歸納法トハ其斷
 言ニ述ブル所ノ一切ノ物ヲ查究シタルヲ云フ
 例ヘバ一圖書館中ノ書籍ヲ盡ク調査シテ皆漢
 書ナレバ則此ノ圖書館ニ在ル書籍ハ一切漢書
 ナリト断定スルガ如シ或ハ金星水星地球等總
 テノ遊星ヲ觀察シテ皆其太陽ヲ繞リ橢圓形ノ
 軌道ヲ行キ西ヨリ東ニ向テ廻轉スルヲ知リ得
 レバ「巴」ニ發見シタル遊星ハ皆太陽ヲ繞リ橢圓
 形ノ軌道ヲ行キテ西ヨリ東ニ廻轉スルト断定ス
 ルハ是レ完全歸納法ナリ不完全歸納法トハ其

断言ニ述ブル所ノ一切ノ物ヲ查究シ盡サブルヲ云フ例ヘバ人ハ皆死ヲ免レズト断定スルハ不完全歸納法ナリ此時ハ固ヨリ人類ノ始メヨリ後世ニ至ルマデ一切ノ人ニ就テ一々查究スルヲ能ハズ若シ完全歸納法ヲ用井ント欲セバ人種ノ盡キタル後ニ非ザレバ不可ナリ
 完全歸納法ハ己ニ查究シテ十分知了セル者ヲ簡略ニ断言ニ述ブルマデナリ不完全歸納法ニハ己ニ查究シタル所ヨリシテ其未查究セス或ハ查究スルヲ能ハザル所ニ及ボスナリ故ニ演

繹法或ハ完全歸納法ニ由リテ得ル所ノ断言ハ前提真ナレバ確實疑フ可カラザル者ナレ其不完全歸納法ニテ得ル所ノ断言ハ是ノ如ク確然必定セル者ニ非ズ然レ其方法宜ヲ得レバ由リテ得ル所ノ断言モ亦殆確定セル者ト認働スヲ得可シ人ハ皆死ヲ免レズト云フガ如キハ將來ニ不死ノ人無キヲ未必ス可カラズト雖姑且確實ナル者ト認働シテ可ナラン夫ノ万物引牽論ノ如キモ蓋亦然リ但シ唯其一部分ヲ查究シテ由リテ全体ニ論及シ得ルノ理ハ今此ニ詳論

セズ

近世學科上ノ一大發見ト稱スル者大抵此ノ不
 完全歸納法ニ由ラザルハ無シ其貴重固ヨリ稱
 賛ヲ待タザルナリ而シテ特ニ學科上ノミナラ
 ズ人ノ世ニ處スル平生モ亦此ノ推理ヲ行フ
 極テ多シトス然レ其方法ノ正ヲ得ルニ非ザ
 レバ忽誤謬ニ陥リ小ニシテハ身ヲ誤リ大ニシ
 テハ國家ヲ亡スニ足ル畏レザル可ケンヤ故ニ
 甚麼カ是レ正當歸納法タルヲ講明スルハ極メ
 テ親切緊要ノ學ナリ

熟讀スベシ

余ハ嚮ニ

第一編見ル可シ

歸納推理ノ定義ヲ示シテ曰

ク歸納法ハ許多ノ件々ヨリシテ汎ク之ヲ總括
 スル真事ヲ推定スルノ方法ナリト而シテ其之
 ヲ實行シタル最好例ハ則諸種ノ理學科ニ在リ
 而シテ理學科上ヨリ得來タル者ヲ造化ノ定綱
 ト稱ス或ハ萬物法トモ云フ

今此定綱發見ノ次第ヲ考フルニ歸納法ハ左ノ
 四段ヨリ成ルヲ見ル可シ

第一段

實事ノ搜聚

第二段

假設説

論理格説 卷之十 同盟會

第三段 演繹推理

第四段 徵驗

第一段ニ於テハ偶然或ハ故意ノ觀察ニ因リテ以テ數多ノ實事ヲ搜聚スルヲ云フ此ノ間或ハ曩ニ已ニ歸納推理ヲ行テ得タル所ノ定綱ニシテ更ニ復推理ノ材料トナルコト有リ

第二段ニ於テハ右ノ實事ノ理由ヲ説明スルガ為ニ假ニ之ガ説ヲ設ケテ想像ノ定綱ヲ立ツ之ヲ假設説ト云フ

第三段ニ於テハ演繹推理ヲ行ヒ若シ假設説ヲ

シテ真ナラシメバ應ニ何如ナル結果ヲ生ジ来ル可キヤヲ推斷ス更ニ之ヲ云へバ假ニ想像シタル所ノ定綱果シテ真ナラバ必某ノ實事アル可シト推究ス

第四段ニ於テハ其應ニ生ズベク應ニ起リ来ルベシト推斷シタル結果實事ハ果シテ現出シ来ルヤ否ヲ查究センガ為ニ已ニ第一段ニ於テ得タル所ノ實事ニ比較シ或ハ新ニ觀察シ又特ニ試驗シテ而シテ其現迹若シ演繹推理ノ斷言第三段ト合同一致セザルトキハ是レ吾ガ假設説

論理格説 卷之十 同盟會

第二段ノ真ナラザルヲ徴スルニ足ル是ニ於テ
 吾輩ハ又新ニ假設説ヲ立テ、以テ試ザル可カ
 ラズ此ノ間若シ或ハ演繹推理ノ斷言ノ二三實
 事ニ符合スル有ルモ未以テ假設説ハ必シモ真
 ナリト速了ス可カラズ尚數様ニ之ヲ試ミ充分
 ニ之ヲ徵驗シテ而後纔ニ始テ確實ナル説ト認
 做スヲ得ルナリ

此ニニュートンガ万物引牽ノ定綱ヲ發見シタ
 ルノ順序ヲ述ベ以テ歸納推理法ノ四段ヲ説明
 ス可シ

凡ソ地上ノ物体ハ之ヲ支フル者無ケレバ地ニ
 墜ルハ太古ヨリ人ノ皆善ク知レル所ナリ昔ケ
 フレル獨國ノ有名ナル星学者ナリ一千五
 百七十一年生一千六百三十年死ハ數
 年間ノ觀察ニ因リテ遊星ハ皆橢圓形ノ軌道ニ
 循テ太陽ヲ繞ルコトヲ發見シタリ然レ氏此レ其
 何ノ理由有リテ然ルヤハ未説明スル能ハザリ
 シナリ以上第一段ニニュートン
 一千六百四十二年生一千七百二
 十七年死ハ是等ノ實事ヲ熟考シ凡ソ物体ノ地ニ墜
 ルモ遊星ノ太陽ヲ繞ルモ皆同一ノ原理ニ因ル
 者ナラント想像シ則假ニ説ヲ設ケテ凡ソ萬物

ハ相互ニ引牽シ其引カハ物体ノ質量ト距離自
乗ハ反數ニ比例スト言ヘリ是レ以テ物体ノ地
ニ墜チ遊星ノ太陽ヲ繞ル所以ヲ説明スルニ足
レリ以上第二段是ニ於テ演繹推理ヲ為シテ曰
ク若シ此説果シテ真ナラバ月ト地球トノ距離
ヲ以テ地球ノ引カヲ推算スルニ月ハ應ニ每秒
地ニ墜ルヲ十五尺ナル可シト(第三段)是ニ於テ
其果シテ然ルヤ否ヲ查檢セザル可カラズ夫レ
萬物ハ之ヲ阻ツル者有ルニ非ザルヨリハ直進
シテ止ラザル者ナリ然ルニ月ハ直進セズシテ

地ヲ繞リ廻轉スルハ是レ常ニ地球ノ引カニ由
リテ直進ノ行路ヲ轉變セラレ以テ地ノ方ニ墜
ルナリ故ニニュートンハ月ノ動行ヲ觀察シタ
ルニ每秒地ノ方ニ墜ルヲ十三尺ニシテ其推算
シ得ル所ト二尺ノ差アリ是ニ於テニュートン
ハ其假設説ヲ斥ケタリ(第四段)後十五六年ヲ歷
テ其推算ノ基(地球ノ大サ)ニ謬有ルヲ發見シ
改メテ推算シタルニ果シテ觀察ト符合セル結
果ヲ得タリ因リテ更ニ百方查究シ而後遂ニ之
ヲ世ニ公セリ爾來此理ヲ以テ推斷スル所ハ事

皆實事ト符合セザル者無シ海王星ノ如キ其未
 發見セザル前ニ既ニ此理ニ由リ其位置ヲ測算
 シ以テ果シテ之ヲ發見スルヲ得タリ故ニ今日
 ニ在リテハ萬物引牽ノ理ハ充分ニ確定シタル
 者ト認做ス可キナリ

此一例ニ就キテ以テ歸納法ノ四段ノ用ヲ知ル
 ニ足ル可シ尚編ヲ逐テ詳論セントス

第十四編

觀察試驗

一切ノ知識ハ悉皆經驗ノ結果ナリ經驗ニ因ラ
 スシテ唯心ノ作用ノミニテハ新知識ヲ得ルコ

能ハズ吾輩ハ推理力ヲ用井テ其已ニ知ル所ノ
 實事ノ真義ヲ解釋シ因テ以テ能ク秘奥ヲ發覺
 シ得ルノミ故ニ歸納推理ノ初歩ハ身邊四圍ノ
 事物ヲ觀察スルニ在リ

觀察ニ二種有リ一ハ特ニ觀察ト称ス天然ニ現
 出スル所ノ顯象ヲ諦視スルヲ云フ一ヲ試驗ト
 称ス吾人ノ故意ニ設ケテ以テ生出セシムル所
 ノ顯象ヲ觀察スルヲ云フ天文學者ノ諸天体ノ
 動行蝕經過等ニ於ケル如キハ即純正ノ觀察ナ
 リ氣象學家ノ時々ニ晴雨寒暖ノ變ヲ記シ統計

學者ノ人口等社會ノ變化ニ於ケルモ亦同然ナリ若シ夫レ化學者ノ分析術ヲ行テ原素ヲ發見シ物理學者ノ排氣鐘ヲ用井テ空虚ヲ作ル等ハ皆試験ナリ
試験ハ吾人ノ故意ニ行フ者タルガ故ニ意ノ如ク事物ノ境遇ヲ變易シテ其生ジ来ル所ノ結果ヲ觀察スルヲ得故ニ之ヲ施行シ得可キ場合ニ於テハ最親切ニシテ最効力有ル方法ナリ且隨時容易ニ試験ヲ設ケテ生出ス可キ顯象モ其天然ニ現出シ来タルヲ觀察セントスル片ハ数月

若シクハ数年ノ久シキヲ待タザル可カラザル事有リ或ハ遠行ヲ要スルヲ有ル可シ加之又絶エテ天然ニ生出シ来タラザル者有リ例ヘバ炭酸瓦斯ヲ壓逼シ寒冷ノ極ニ至ラシムレバ液体ト為リ又固体ト為ル是天然ニ於テ未曾テ見ザル所ナリ其他新物質ヲ發見スル如キ多クハ試験ニ由ル然レ亦試験ヲ行フ能ハザル場合有リ例ヘバ天文學者ノ如キハ試ニ天体ノ動行ヲ左右スルヲ能ハズ又生物學ハ多クハ試験ヲ施ス可カラズ政治學社會學等ノ如キ尤然リトス

是ノ如キ場合ニ於テハ專ラ觀察ニ由リテ以テ
 實事ヲ搜聚スルノ外ハ真確ナル知識ヲ得ルノ
 方法有ル無シ
 銳敏精密ナル觀察ニ種ヲ併セテ云フ以下同シヲ善クスル
 ハ獨學術上ノミナラズ日常處事接物ノ間ニ在
 リテモ極メテ緊要タリト雖其術タル素ヨリ確
 固一定ノ規矩有ル無ク唯練習ノ久シキ以テ其
 妙ニ達スルヲ得ルナリ而シテ之ヲ練習スルハ
 理學諸科ヲ修ムルニ若クハ無シ是レ普通教育
 課目中ニ理學科ヲ置カザル可カラザル一大理

由ナリ論理學ハ觀察ノ方法ヲ教フルノ學ニ非
 ズ但此ニ一ノ警戒有リ曰ク真ニ感覺シタル事
 ト此ニ由リテ心中ニ推斷シタル事トハ分明ニ
 辨別シテ混同ス可カラズト世人唯五官ニ由リ
 テ感覺シタル事ト其之ヨリシテ推斷シタル事
 トヲ辨別セザルト實ニ甚シ則此警戒ノ極メテ
 肝要ナルヲ知ル可シ夫レ平常人ノ感覺シタリ
 ト思フトハ多クハ推斷ノ結果ナリ蓋各感官ハ
 己ガ直ニ之ヲ覺ル能ハザルトモ但累積ノ經驗
 ニ由リテ無意ニ推斷スルノカヲ得ル者ナリ例

へバ眼ハ距離ヲ視ル能ハズ其能ク之ヲ度ルハ
 常ニ慣レテ知ラズ識ラズ推斷ヲ行フノ結果ナ
 リ夫ノ小兒ノ月ヲ捉ヘント欲スルハ其絶エテ
 經驗無ク距離ヲ判断スルノ能力ヲ得ザルニ由
 ル以テ距離ヲ辨別スルハ推斷力ニ由リ單純ノ
 感覺ニ非ザルヲ知ル可シ又怯憶者ハ竿頭ニ曝
 セル白キ浴衣ヲ見ルモ其恐怖心ニ迷惑セラレ
 テ之ヲ鬼ナリト推斷スルガ如シ世間此類決シ
 テ少シトセズ故ニ五官ノ感覺ニハ誤謬無シ但
 此ニ由リテ推斷スル片ハ誤謬ニ陷ルノ恐有リ

觀察試験ハ唯歸納推理ノ第一段ニ於テ用キシ
 ノミナラス第四段ニ在リテモ亦此ニ由ラザル
 可カラズ然ルニ第四段ニ至リテハ既ニ我が假
 設ノ説有ルガ為ニ自カラ偏執ヲ生ズルコト有リ
 故ニ其説ヲ助成スルト背反スルトヲ問ハズ須
 ラク最平心ニシテ一切ノ實事ニ無偏無私ノ觀
 察ヲ為サル可カラズ務メテ此偏執ヲ去ルニ
 非ラザレバ到底有功有益ノ觀察ヲ為ス能ハザ
 ルナリ或曰ク先少説ヲ設ケ次テ之ヲ厭惡ス可
 シト其意蓋謂フ先少心中ニ吾ガ求ムル真理ノ

想像説ヲ設ケ而シテ恰モ之ヲ厭惡スルガ如ク
ニ嚴正ニ試験ス可シトナリ

第十五編

歸納推理ノ規則

歸納推理ハ許多ノ件々ヨリシテ之ヲ總括スル
所ノ真事ヲ定ムルナリ諸ノ理學科ニ於テ斯ク
推定セル真事ハ原因ト結果トノ關係ニシテ即
之レヲ造化ノ定綱ト稱ス
一事件ノ原因トハ其事件ノ顯ハレ出ツルガ為
メニ必要ナル事ヲ云フ人常ニ一箇ノ事件ハ一
箇ノ原因ヨリ生スル如ク認ムレドモ其實多ク

ハ然ラザル者ナリ譬ヘバ空中ニ水ノ滴有ル時
虹ヲ出現スト云フナレバ虹ノ原因ハ唯水ノ滴
有ルノ一事ニテハ無シ日光又觀者ト太陽ト水
滴トノ位置ノ關係等皆亦其原因ナリ
前事トハ一事件ノ顯ハレ出ツル前或ハ其顯ハ
ル、時ニ存スル情況等ヲ云フ後事トハ次デ顯
ハレ来ル事件ヲ云フ譬ヘバ雨降りタルノ後ニ
虹顯ハル、如キ其兩ノ降りタルハ前事、虹ハ後
事ナリ前事必シモ後事ノ原因ニハ非ズ原因ハ
謂ハユル必要前事ナリ

余ハ此ヨリ一顯象ノ原因ヲ發見スル歸納推理ノ諸方法ヲ説明シテ其規則ヲ掲ゲントス
 第一方法ヲアクリメント和同法ト稱ス左ノ規則ニ依ル
 第一則 今正ニ研究スル顯象ノ現ハレ来リタル諸例ヲ檢査シテ其前事ノ中唯一ノ某ノ情況或ハ一ノ某ノ事件ノミ諸例ニ於テ共ニ同ジケレバ其情況或ハ事件ハ此顯象ノ原因ナリ
 此方法ヲ用ヅント欲スル時ハ可成的多ク其顯象ノ例ヲ集メテ其前事ヲ比較ス可シ而シテ前

事中ニハ其有ルモ無キモ更ニ顯象ヲ生スルニ關係ナキ者アル可シ是等ハ皆必要前事ニ非ズ又此顯象ノ現ハル、時ハ常ニ存スル所ノ前事即諸例ニ於テ同シク見ル所ノ前事有ル可シ是ヲ其一原因ト認ムルナリ今數多ノ例ヲ檢スルニ第一例ニ於テいろはヲ以テ表スル前事有リテイ、口、ハヲ以テ表スル後事有リ又第二例ニ於テハい、に、ほ、べヲ以テ表スル前事ニイ、ニ、ホ、ヘヲ以テ表スル後事有リ等トセバ左ノ如シ

前事

後事

いろは

イロハ

いにほへ

イニホへ

いと

イト

いちり

イチリ

いぬる

イヌル

等

等

此諸例ノ後事ノ中ニ皆イ有リ即顯象イノ現出シタルモノナリ而シテ前事ノいハ一切ノ例ニ皆同シケレバ則いハイノ一原因ナリ第一方法ヲ用キルニ一ノ大困難有リ是レ同一

顯象ノ現出シタル諸例ニ於テ原因同一ナラザルニ由ル譬へハ熱ハ燒燃、摩擦、越歷、壓力等ノ何ニテモ起ル可シ故ニ熱ノ起リタル諸例ニ其原因ノ異ナルヲ有リスノ場合ニ在テハ第一ノ方法ハ無効ニ屬ス又諸例ニテ一切ノ前事ヲ確知スルハ困難ハ此方法ノ一大欠點ナリ第二方法ヲ違^{ダイツク}法ト稱ス左ノ規則ニ依ル第二則今正ニ研究スル顯象ノ現出シタル一例(甲)ト其現出セザル一例(乙)トヲ比較スルニ其情況ニ唯一事件ノ違差有リ而シテ此一事

件ハ甲ニ於テハ存シ乙ニ於テハ存セス然レ
 バ此異ナレル一事件ハ此顯象ノ原因或ハ原
 因ノ一部ナリ
 之レヲ上ノ如ク表ヲ以テ示セバ左ノ如シ

前事 後事

甲 いろは

乙 いろは

他語之レヲ説ケバ一ノ前事存スレバ顯象ハ從
 テ必現出シ此前事存セザレバ(他ノ情况ハ同一
 ニシテ)決シテ現出セス然ル時ハ此前事ハ顯象

ノ一ノ原因ナリ譬へバ摩擦ハ熱ノ一ノ原因ナ
 リ何ナレバ二物ヲ摩擦スレバ必熱ヲ生ジ摩擦
 セザレバ熱ヲ生ゼザレバナリ又動物ノ生存ス
 ル時ハ必酸素有リ酸素無ケレバ生存セス故ニ
 酸素ハ動物生存ノ一原因ナリ
 違差法ハ最有力多効ニシテ特ニ試験ヲ設ケテ
 行フベキ方法ナリ譬へバ空氣ハ生存ノ一原因
 ナルヤ否ヤヲ究メントスレバ須ラク一ノ動物
 ヲ排氣鍾ノ下ニ入ル可シ其鍾内ノ空氣ヲ排去
 セザル間ハ生活シ之レヲ排去スレバ忽チ死ス

唯空氣有ルト無キトノ違ニ由リテ死ヲ致スナ
リ以テ空氣ハ動物生活ニ必要ナル前事即一原
因タルヲ知ル
斯ク試験ヲ行フニ當リテ最注意ヲ要スル事有
リ即唯一前事ノ有無ハミヲ變シテ他ノ情况ハ
毫モ變スルト勿カル可シ譬ヘバ空氣中ノ酸素
ハ生存ノ一原因タルヲ証セントセバ空氣中
ノ酸素ヲ抽キ取リテ動物ノ其中ニ生活スル能
ハザルヲ見ル可シ然レモ其酸素ヲ抽キ去ル
ノ際ニ更ニ他物ノ之レニ代ハリテ混入スル等

ノ事有リテハ此方法ヲ施ス能ハザルナリ今若
シ炭素ヲ一瓶ノ空氣中ニ燃セバ酸素ハ消失ス
ルモ更ニ炭酸瓦斯ト稱スル一種ノ瓦斯ヲ生ズ
而シテ動物此瓶中ニ生活セザレバトテ直ニ酸
素ヲ生活ノ一原因ト断定スルハ誤謬ナリ何ナ
レバ生活セザルハ此新生瓦斯ノ存在スルニ因
レルヤモ知ル可カラザレバナリ
故ニ違差法ヲ行フ片ハ亦唯一時ニ一情況ヲ變
ズルヲ肝要ナリ然ルニ或ハ此要訣ニ從フ能ハ
ザル場合有リ則一事情ヲ變ズレバ從テ他ノ事

情ヲモ必ス變ズルコト有リ譬ヘバ水ハ只其温度ノミヲ變ゼント欲スルモ或ハ能ハズ之レヲ零度以下ニスレバ固質ト為リテ温度ノ外ニ液質ト固質トノ差ヲ生シ若シ強テ液質ヲ保タントスレバ其壓力ヲ變ゼザル可カラズ故ニ到底温度ノミヲ變ズルコトハ能ハザルナリ是ニ於テハ和同違差合併ノ方法ヲ用井ルコトアリ此合併法ノ原理ハ左則ノ如シ

第三則 一顯象ノ現出シタル(二個以上ノ)諸例ニ唯一ノ同一ナル某事情有リ又其現出セザル

ル(二個以上ノ)諸例ニハ絶エテ此某事情無ク其他ノ情况モ各全ク同シカラズ斯ク其顯象ノ現出シタル諸例ト其現出セザル諸例トハ毎ニ此一箇ノ某事情ノ有ルト無キトヲ異ニセリ然ルルハ此某事情ハ此顯象ノ原因或ハ結果ナリ

之レヲ前則ノ如ク表スレバ左ノ如シ

前事

後事

いろは

イロハ

いにほへ

イニホへ

論理田言
卷之七
同
同
同

甲
いと
いちり
イト
イチリ

乙
から
むらゐ
くやまけ
ふた
等
ナラ
ムウ井
クヤマケ
フコ

則前事い有レバ必後事い有リ(和同法ニ同シ)又
前事い無ケレバ後事い顯ハレズ然レ氏他ノ情

況モ總テ相異ナレバ單ニ違差法ヲ行フヲ能ハ
ズ而シテ甲ノ諸例ト乙ノ諸例トハ皆いノ有無
ヲ異ニセリ斯ノ如キ時ハいハイノ原因ナリ
是ニ由リテ觀レバ合併法ハ只和同法ヲ擴張セ
ル者ニテ和同法ノ如ク數多原因ノ患有ル無ク
又違差ヲ行フ能ハザル所ニ用井ル可キ者ナリ
然レ氏一切ノ前事ヲ確知スルノ困難ヲ免レザ
ルトハ亦和同法ト同シ故ニ可成的ハ違差法ヲ
施スヲ最宜シトス

第十六編

定量歸納法

前編ニ論シタル方法ハ其原因ヲ推究スル所ノ
 顯象ノ現出スルトセザルトニ因リテ為スモノ
 ナレバ是レヲ定質歸納法化學ニテ某物質ヲ分
 拆シテ其々ノ原素ヨ
 リ成レルモノナリト定ムルヲ稱ス可キ者々
 定質分析法ト稱スルガ如シト稱ス可キ者々
 リ本編ニハ此レニ對シテ定量歸納法化學ニテ
 某ノ物質
 ハ某原素若干ト某原素若干ヨリ成
 ル者ト定ムルヲ定量分析法ト稱スト稱ス可
 キ方法ノ規則ヲ述ヘントス凡ソ學術知識ノ進歩ハ定質ヨリ漸次ニ定量ニ
 達ス則先ツ最初ハ前事有レバ必某後事有リ某
 人事件ハ何等ノ理由ニテ起ルナリト断定ス而

後又一步ヲ進メテ此某前事ト某後事トノ度量
 ノ關係ハ何程ナルヤヲ計測シテ益々之ヲ精密
 ニスルナリ故ニ今一顯象ヲ研究セント欲スレ
 バ左ノ如ク順次ニ問ヲ設ケテ其答ヲ求ムルナ
 リ

(一) 某前事ハ常ニ某ノ一結果ヲ生スルヤ
 (二) 此結果ハ何如ナル方向有リヤ
 (三) 此結果ノ量ハ何如ナル比例ニテ原因ノ
 量ニ準スルヤ
 (四) 此比例ハ常ニ變セザルカ

(五) 若シ變スルトキハ其變化ノ定則ハ何如
例ヘバ熱ノ諸物ノ大サヲ變スルヲ研究スル
ニハ先ヅ熱ハ果シテ能ク諸物ノ大サヲ變スル
ヤ否ヲ研究スルヲ第一ニシテ是レハ前編ニ説
明シタル方法ニ依リテ断定ス可キ問題ナリ次
ニ熱ノ諸物ノ大サニ及ボス所ノ結果何如ヲ見
ルニ攝氏四度以下ノ水並ニ僅少ノ物質ヲ除ク
ノ外皆其大サヲ増スルヲ試驗ニ據リテ之レヲ知
リ得ルナリ又次ニ熱一度ヲ増ス每ニ其物ハ何
程ニ増大スルヤモ亦試驗ニ依リテ測定ス可シ

是ニ於テ更ニ一步ヲ進メテ精密ニ入り其熱度
ノ増加ト大サノ増加トノ比例ハ每ニ相準シテ
決シテ變スルヲ無キガ若シ或ハ變スレバ其變
スルニ定則有ルヤ等ヲ查究セザル可カラズ
斯ク學科上ノ知識ハ定質ヨリ漸々進デ定量ニ
達スルナリ例ヘバ越歷及越歷磁氣學ニ關スル
顯象ノ若キニ三十年前マデハ唯其現出スルヲ
ヲ知ルノミニシテ未之レヲ度ルヲ能ハザルシ
ガ方今ハ此學科大ニ進歩シテ其顯象ハ太抵之
ヲ計算スルヲ得ルニ至リタリ

知識ノ進步已ニ此ニ達シテ顯象ヲ度リ得ルノ地ニ至リテハ歸納推理ノ最有効ナル一方法ヲ應用スベシ之レヲ共變法ト稱ス則左ノ定則ニ依ル

第四則 某顯象有リ他ノ某顯象ノ變化スルニ從テ之レト共ニ變化スル片ハ其二者ハ互ニ原因結果ノ關係ヲ有ス

此方法ハ違差法ヲ擴張シタル者ニシテ唯某前事ノ有無ノ差ニ因ルノミナラズ又其多寡ニ由リテ原因結果ノ關係ヲ推究スルノ方法ナリ例

ヘバ摩擦ハ熱ノ原因ナルヲ發見スルハ前編

ニ説明セル如ク違差法ヲ以テスベシト雖其何

程ノ力ヲ用井テ摩擦スレバ何程ノ熱ヲ生ズル

ヤヲ度ルヲ得バ英人ジウル氏ノ現愈其關係ヲ

確定スルヲ明ナリ

此法ハ特ニ時期ヲ定メテ現出スル顯象ノ研究

ニ應用ス可キ者ナリ例ヘバ夫ノ潮汐ノ若キ凡

ソ每六時余ニ上下シ其期限畧十二時間半ニシ

テ正二月ノ同一子午線ヲ經過スル期限即日々

一期一周スルト相同シ以テ月ト潮汐トハ因果ノ關

係有ルヲ知ル可シ又大陽面上ノ黒斑ハ凡ソ
五ヶ年半ノ間ハ其數次第ニ増加シ次ノ五ヶ年
半ノ間ハ漸次ニ減少シ凡ソ十一ヶ年ヲ以テ一
期トス然ルニ地球上ノ磁氣ノ變動ハ恰モ大陽
面上ノ黒斑ノ數ノ消長ニ準シテ激トナリ弱ト
ナルヲハ四十年来ノ觀察ニ因リテ明ナリ又近
頃木星、土星、金星、火星ノ運動ノ期限ト此二者
ノ變動期限ト正サシク相配合セルヲ發見シ
タリ故ニ此三者ハ互ニ因果ノ關係有ルヲ疑フ
可カラザルナリ

是ヨリ又餘剩法ト稱スル歸納推理ノ一法ヲ説
明セン則左ノ定則ニ依ル者ナリ

第五則 一ノ顯象ニ就キテ此レハ許多ノ前事
中某々ノ結果ナリト知了セル者ヲ扣除スレ
バ其剩ス所ハ則餘ノ前事ノ結果ナリ
此ニ前事いろは有リテ人口ハノ顯象現出セリ
而シテイハノ結果口ハノ結果ナルヲハ已
ニ知了スル所トスレバ剩レルハハハノ結果ナ
リ
例ヘバ某ノ試験中熱ノ發スルヲ有リテ是レ摩

論理學 卷之十 二十四 同 盟

擦化學作用及越歷作用ヨリ生ズルヲ知リ又其
 發シタル熱ノ何分ハ摩擦何分ハ化學作用ニ由
 リテ生ジタルヲ知リテ之ヲ扣除スレバ餘剩ノ
 熱ハ越歷作用ニ由リテ生ズルヲ知ル可シ
 諸ノ觀察試驗ヲ為スニ方リ必避ク能ハザル誤
 謬有リ則此法ヲ用井テ之レヲ正ス例ヘバ某星
 ノ位置ヲ度ルニ望遠鏡ノ性質ヨリ起ル誤謬有
 リ空氣中光線屈曲ノ為メニ生ズル誤謬有リ又
 觀測者ノ氣質ヨリ生ズル者有リ都テ此等ノ誤
 謬ヲ扣除シタル者ハ則真ニ此星ノ位置ナリ○

又化學ニ於テ和合物中原素ノ分割ヲ知ルニ此
 法ヲ用井ルヲ多シ例ヘバ定量ノ酸化銅ヲ取り
 テ之ヲ管ノ内ニ熱シ其上ニ水素ヲ通過セシム
 レバ酸化銅中ノ酸素ト親和シテ水蒸氣ヲ生ズ
 此水蒸氣ヲ硫酸ヲ入レタル瓶中ニ受ケテ水ト
 為ラシム而シテ此硫酸ハ豫ジメ其重サヲ度リ
 後ニ又之レヲ度リテ其重サノ差ハ則此試驗中
 ニ生ジタル水ノ重サナリ又管中酸化銅ノ最初
 ノ重サト最後ノ重サノ差ハ則水素ト和シテ水
 ニ變ジタル酸素ノ重サナルヲ明ナリ斯ク水ノ

重サ若干ナリ内酸素ノ重サ若干ナリ故ニ之レヲ扣除シタル餘剩ノ重サハ水素ノ重サナリ斯クノ如クニシテ以テ水ノ百分中酸素幾許水素幾許ナルヲ知り得ルナリ
海王星ノ發見ハ此方法ヲ應用シタル最良キ例ナリ天王星ノ運動ヲ度リ幾分ハ太陽ノ引力ニ由リテ生ジ幾分ハ他ノ己ニ發見セル遊星ノ引力ニ因ルヲ測算シテ之レヲ扣除シタル後尚餘剩ノ運動有リタリ則此餘剩ノ結果ヲ生ズ可キ原因ヲ求メテ遂ニ海王星ノ存在スルヲ發

見シタルナリ

第十七編 經驗定綱類似法

第十五第十六ノ二編ニ說明セシ方法ハ第十三編ニ述ベタル真正歸納法ノ第二段ヲ行フ方法ニシテ即觀測及其他ノ方法ヨリ得來タル實事ヲ概括スル所ノ真事定綱ヲ發見スル方法ナリ然レ氏斯ク推定シタル真事中ニハ吾人曾テ其何ノ理由アリテ然ルヤヲ見ル能ハザル者有リ斯ノ如キ真事ヲ經驗真事又經驗定綱ト云フ此

論理格說 卷之七 下 二十六 司 盟 舍

論理 田記 卷之十一
類ノ知識甚多シニハ晚霞ハ晴天ノ兆ナリ、角有ル獸
類ハ及嚼獸ナリ等ハ是レ皆經驗真事ニシテ吾
人ノ未其何ノ理由アリテ然ルヤヲ知ラザルモ
ノナリ前編ニ云ヘル大陽表面ノ黒斑、地上磁氣
變動及遊星運動ノ關係ノ如キハ其最著ノ例ナ
リ
經驗知識ハ有用ハ固ヨリ有用ナリト雖理由明
白ナル知識ハ貴重ナルハ更ニ之ガ比ニ非ザル
ナリ熱湯ヲ硝子器ニ注入スレバ忽チ破裂スル
トハ人常ニ經驗ニ由リテ知レル故ニ或者ハ以

為ヘラク薄キ硝子ハ固ヨリ薄弱破レ易キ物ナ
レバ熱湯ヲ注入スルトキモ亦厚キ硝子器ヨリ
ハ破裂シ易カラント然ルニ實事ヲ見ルニ薄キ
硝子器ハ熱湯ヲ注入スルモ破裂セズ厚キ硝子
ハ却テ破ル、モノナリ是レ蓋シ或者ハ何ノ理
由有リテ熱湯ハ硝子器ヲ破損スルヤヲ知ラザ
ルヨリ誤見ヲ生ジタルナリ此ニ至リテ物理學
ヲ學ビタル者ハ善ク其理ヲ知レリ抑是レ硝子
器ノ内外部皆同一ニ膨脹スル能ハザルニ由レ
リ薄キ硝子ハ内外部皆直ニ同一ノ熱度ヲ得テ

諸部等シク膨脹シ得ルガ故ニ此患ナキノ此
例ヲ以テモ唯經驗ノミニ由ル知識ト理由明白
ナル知識トハ其孰レカ尤貴重ナルヲ見ルニ足
レリ
凡ソ學術ノ進歩ヲ觀ルニ其初ハ唯僅ニ狭小ナ
ル概括真事ヲ發得シ次ヲ逐ヒ漸ク進ミテ廣大
ナル概括真事ニ到達ス故ニ最初ハ經驗知識多
ク單ニ歸納推理ノ法ヲ用ヰルノミ其漸ク進ミ
テ稍談博ナル概括ヲ得ルニ及ビテハ歸納演繹
并ビ行ハレテ以テ最有益最有効ノ知識ヲ發見

スルニ至ル
例ヘバケプレル第十三編ハ遊星ノ動行ヲ觀測
シ歸納推理法ニ由リテ其定則ヲ發見シタリ然
レ氏是レハ唯經驗知識ナリニウトンハ更ニ之
レヲ推究シ歸納及演繹推理ノ二法ヲ用ヰテ遂
ニ萬物引牽ノ定綱ヲ發見シタリ爾來此定綱ニ
從ヒテ演繹推理シテ知り得タル真事ノ數ノ多
ク且貴重ナルハ實ニ言語ノ能ク盡ス所ニ非ズ
蓋シ學術進歩ノ順序ハ大概皆斯ノ如キモノナ
リ

論理各説
卷之十
二十八
司
盟

此ニ歸納推理ノ特別ナル一方法大ニ前ニ述ベタル所ト異ナル者有リ之ヲ類似推理法ト稱ス則某ノ一事ヨリ某ノ之ニ類似セル事ニ論及スルヲ云フ例ヘバ火星ヲ觀察スルニ我が地球ニ酷肖セル件々頗多シ因テ火星ニモ或ハ生活物ノ存在スルコト有ル可シト推究シ又或ハ生活物ノ組織ト國家ノ組織トハ大ニ相類似セルガ故ニ其發育盛衰モ亦同様ナル可シト推定シ又甲國ノ現状ヲ觀ルニ宛モ乙國某時ノ狀態ニ彷彿タレバ乙國ノ某時ニ起リシ某々ノ事件ハ甲國

大現時ニモ起キ來ルナラント察スルガ如シク類似推理法ノ原理ヲ約言スレバ左ノ如シ
某事(甲)ト某事(乙)ト數多ノ條項相類似セリ然ル中其餘ノ事項モ或ハ相類似スルナル可シ
尋常ノ歸納法ニ於テハ數多ノ事物ニ一ニハ同
一事項有レバ因テ之ヲ概括シテ他ノ事物ニ論
及スルナリ類似推理法ニ於テハ一ニハ事物ニ
數多ノ同一事項有レバ因テ他ノ事項モ同一ナ
ル可シト推斷スルナリ故ニ尋常ノ歸納法ニテハ
ハ類似ノ點少クシテ其區域廣シ類似法ニテハ

類似ノ點多ク其區域狹シ
類似推理法ハ甚危険ナル方法ナリ真貨ト贗貨ト
トハ類似ノ點頗多シ其全ク相異ナル所ハ最肝
要ノ一點ナリ人或ハ毒菌ヲ食テ死スル者有リ
是全ク可食菌ト類似ノ點多キヲ以テ其可食ノ
點モ同一ナラント誤認シタルニ由レリ是瑣細
ノ例ナレドモ世間ニハ類似法ヲ用井其最緊要
ノ點ノ絶エテ類似セザル者ニ推及シテ誤謬ニ
陥リ甚シキハ之ヲ悟ラザル者極メテ多シ此方
法ヲ利用セント欲スル者ハ尤謹マザル可カラ

余ハ歸納推理法ヲ説明スルニ當リテ多ク理學
上ノ單易ナル事項ヲ引用シタリ蓋シ理學ハ歸
納推理ヲ應用シタル最良ノ例ナレバナリ吾人
平生事ニ觸レ物ニ接スルニモ正當ノ推理ニハ
固ヨリ必上ニ述ベタル規則ヲ遵奉セザル可カ
ラズシテ知ラズ識ラズ此法ヲ現行セリ例ヘバ
夏夕他所ヨリ吾家ニ歸リ庭ニ立出テ、地面ノ
濕ヒタルヲ見レバ是レ驟雨ノ降リタルナリト
断定スベシ此際頗ル錯雜ナル歸納推理ヲ行フ

論理學 卷之十 三十

テ此断定ニ達スルコト有リ今其順序ヲ略述スレ
 バ左ノ如シ先ヅ地面ノ濕ヒタルヲ見テ第一段 實事ノ
 聚驟雨ノ降りタルカ或ハ家僕ノ水ヲ灑キタル
 ナラント推察ス第二段 假設説是レ蓋シ前日水ヲ灑キ
 又雨ノ降りタル時ニ似同セルヲ以テナリ類似推
 法或ハ今若シ水ヲ灑キタルモノトセバ高キ梢
 和同法ハ濡レザル可ク亦地上モ平均ニ濕ハザル可シ
 第三段 然ルニ高梢ハ點々翠ヲ滴ラシ且地上
 繹推理 然ルニ高梢ハ點々翠ヲ滴ラシ且地上
 モ一面ニ濕ヒタリ故ニ水ヲ灑キタルニハ非ズ
 然ラバ驟雨ノ降りタルナランニハ樹下石陰ハ

濕レズシテ其他ハ一般ニ濕フナランコト之ヲ視
 ルニ果シテ然リ且天空モ平生驟雨ノ後ニ見ル
 所ノ景色ナリ第四段 微驗故ニ是レ驟雨降りタリト
 断定シ得タリ又法庭ニ於テ罪ヲ審判スルガ如
 キハ多ク此方法ヲ應用スル例ナリ
 學者心ヲ用テ善ク平常已レト他人ガ行フ所ノ
 推測ヲ驗査シテ其正シキ者ニ遭ハシ推理ノ規
 則ニ適ヘルコトヲ發見ス可シ然レ氏規則ヲ知ラ
 ズシテ推測スレバ謬妄ニ陥リ易ク且ツ陷ルモ
 之レヲ悟ラザルナラン故ニ推理ノ規則ヲ確知

シテ常ニ之ヲ遵奉スルヲ極メテ肝要ノ事トス
ルナリ 第十八編 誤謬推理法
演繹歸納兩推理ノ正法ハ編々相續テ己ニ畧説
シタレバ推理學ハ之ヲ以テ粗完了セルガ如シ
ト雖モ更ニ人ノ平生輒モスレバ陥リ易キ誤謬
推理法ヲ明ラムルコトハ亦正當推理ヲ行フニ極テ
有益ナル一助タリ則人ニ教フルニ其當ニ斯ノ
如クスベシト言ヒ更ニ又期ノ如クス可カラズ
ト示シテ表裏相照ラサシメバ其効功タル豈ニ

甚大ナラズヤ故ニ今本編ニ於テ主重ナル誤謬
推理法ヲ揭示セントス
本編ニ論スル誤謬推理法ハ偶失ノ者ヲ云フニ
非ラズ偶失トハ其方法ノ不正當ナルニモ非ズ
亦正當ノ方法ヲ識ラザルニモ非ズシテ全ク一
時ノ不注意ヨリ起リタルヲ云フ譬ヘバ算術ヲ
為シテ八ト五ノ和ヲ十二ナリトシ七九ヲ六十
四ト為スガ如キ類ノ偶然ノ失錯ニテ唯其術ニ
熟練セザルヨリ起レル者ナリ本編ノ主旨ハ是
等ヲ問ハズ專ラ方法ノ正當ナラザル者ヲ論ズ

ルニ在リ
品行上ヨリ生スル誤謬法モ亦之ヲ論ゼズ品行
上ヨリ生ズル誤謬トハ真理ヲ輕忽スルカ或ハ
邪執有ルニ由ル者ヲ云フ凡ソ人固執スル所有
レバ其邪執ノ勢援ヲ為ス可キ証據ハ熱心ニ之
ヲ求メ若シ其不利ナル者ハ目ヲ閉テ見ズ因テ
以テ誤謬ニ陷ルヲ致ス斯ノ際ニ方リ邪執ハ間
接ノ原因ニシテ直接ノ原因ハ則不充分ナル証
據ヲ以テ充分ナリトスルニ在リ故ニ間接ニハ
品行上ヨリ来ル所ノ誤謬モ亦直接ナル智力上

ノ原因ニ由テザルヲ得ズ則智力上ノ鍛鍊已ニ
充分ナレバ何程邪執有ルモ又ハ真理ヲ輕忽ス
ルモ不正ノ推理ヲ以テ自ラ欺クヲ能ハ不完
全ナル証據ヲ以テ満足セント欲スルモ能ハザ
ルナリ
故ニ此ニ論スベシ者ハ智力上ヨリ来ル所ノ誤
謬法ナリ余今ミル氏ノ説ニ從テミル氏ノ分類
法ハ太古ヨリ
傳來シテジェボンス氏等ノ誤謬法ヲ分類スル
説ク所トハ大ニ異ナレリ
左ノ如シ
甲單閱ノ誤謬是レ更ニ推斷ヲ行ハザル時ノ誤

謬ナリ則單ニ一述意ヲ閱シテ直ニ以テ真ナリトスル者ヲ言フ是レ或ハ更ニ証據ヲ要セサル者ト見做シ或ハ心ニ自カラ信ズル所有リ不完全ナル証據ヲ以テ満足セル者ニ在リ但シ此件ハ本書ニ之ヲ詳論スルヲ能ハズ凡ソ証據無ク直ニ認メテ真ト為スヲ許可スルハ是等ノ真事リオリ真事ト云フ故ニ此類ノ果シテ何々ノ件誤謬ヲ先天誤謬ト稱ス可シ

項ヤ是レ心論ノ最大問題ト為リ古今諸大家ノ說皆大ニ異ナリテ之ヲ解スルヲ極テ難シ故ニ余ハミル氏ガ揭示セル者ノ内ニ就テ極テ平凡

ナル二三ノ例ヲ舉ケンノミ

尋常俗人ノ迷惑ノ如キハ多ク此例ナリ夫ノシノ字ヲ忌ムハ口ニシノ字ヲ言ヘバ現ニ死ヲ來タス可シト恐ル、ニ因ル羅馬人ハ常ニ死ノ語ヲ忌避シ「某ハ死セリ」ト云フベキ所ニ「某ハ活タリキ」ト云ヘリ日本ニテ人ノ死ヲ「無クナレリ」又ハ「か目出度ナレリ」ト言フモ同事ナリ是ヲ概言スレバ「思想ト為リテ心上ニ現ハレタル事ハ真ニ實物界ニ出現ス可シトノ單閱誤謬ニ因レリ家相、惠方等ノ如キモ皆單閱誤謬ノ例ナリ又

貴重ナル物珍奇ナル物ニハ貴重或ハ珍奇ナル性質有リトスルモ亦此類ノ通常ノ誤謬ナリ例ヘバ人參ヲ服スレバ如何ナル病ヲモ治スルトシ或ハ真珠ヲ以テ眼病ノ妙藥トシ甚シキニ至リテハ酉ノ年月日時齊ヒタル者ノ生血ハ何ノ効有リト言フハ此誤謬ノ結果ナリ凡ソ此類ノ單閱誤謬枚舉ニ違アラザルナリ此等ノ中或ハ觀察或ハ概括ノ誤謬後ヲ見ヨト見做シ得可キ者有リ人ノ心ニ思フ能ハザル事ハ虚ナリミル氏ハ之ヲ誤謬ノ例

中ニ掲ケタルモスペンサー等ノ説ニテハ是全ク誤謬ニ非ズミル氏ノ之ヲ非トセルコソ却テ題ノ極メテ難キヲ以テ知ルベシ一顯象ニハ唯一ノ原因有ルノミベイコン天然ノ差別ハ言語ノ差別ニ對ス太古希臘學顯象ノ原因ハ其顯象ニ似タリ等皆單閱誤謬ノ例ナリト云フ乙推斷ノ誤謬是レ證據ヲ推シテ断定スル際ニ行ハル、誤謬ナリ此ニ二大別アリ第一ハ推斷ノ前提即證據ヲ分明ニ了解シ而シテ其断定スル所ハ正當ナラザル者第二ハ前提ヲ明了ニ解得セザル者之ヲ迷乱ノ誤謬ト名ツク其小分類

論理格統 卷之 下 三十五

ハ尚後ニ説明スベシ
第一類ヲ推断ノ方法ニ依リテ歸納演繹兩推理
上ノ二種ニ小分シ更ニ各種ヲ小分シテ又二ト
ス第一證據即前提ノ虚ナル者第二證據即前提
ハ眞實ナルモ直ニ此ニ因テ断言ヲ推定スル能
ハザル者

歸納推理ノ誤謬中第一小分類即證據ノ虚ナル
者ヲ觀察ノ誤謬ト称ス歸納推理ノ證據即前提
ハ實事ナリ 第十三編歸納推 此實事ハ觀察ニ因
リテ得ルモノタルガ故ニ此實事ノ虚ナルハ觀

察ノ正シカラザルニ由レリ歸納推理ノ材料ノ
如キ時ニ因リテハ直ニ觀察シタル實事ナラズ
シテ曩ニ已ニ推断シ得タル所ノ事項有リ而シ
テ前日ノ推断正當ナラザリシヨリ其断定セシ
事項ノ虚ナルヲモ亦有ル可シ則此ノ如キモノ
ヲ證據トシタル推断モ亦此分類ノ誤謬ニ属ス
故ニ之ヲ觀察ノ誤謬ト称スルハ少シク允當ナ
ラザル如シト雖到底歸納推理ノ本原ハ觀察ニ
在ルヲ以テ今姑ク此名ヲ存ス第二小分類ヲ概
括ノ誤謬ト称ス證據タル實事ハ眞ニ實事ニシ

テ唯之ヲ概括スル法ノ正當ナラザル者ナリ
 演繹推理ノ誤謬中第一小分類ハ已ニ揭示セル
 誤謬中ノ一ナリ演繹推理ノ前提ハ概括眞事(定
 綱)或ハ個々ノ實事ナリ故ニ前提ノ虚ナルハ單
 閱ノ誤謬ナルカ否ザレバ觀察或ハ概括ノ誤謬
 ナリ故ニ此小分類ハ特ニ存スルヲ要セズ第二
 分類ハ推測式ノ規則ヲ遵守セザルヨリ生ズル
 者之ヲ推測ノ誤謬ト称ス
 斯ク五種ノ誤謬ヲ得タリ左ノ表ニ因リテ詳ナ
 ル可シ

單閱ノ誤謬、
 (一) 先天誤謬

歸納推理上、
 (二) 觀察ノ誤謬
 (三) 概括ノ誤謬
 (四) 推測ノ誤謬
 (五) 迷乱ノ誤謬

推斷ノ誤謬
 斯ノ如ク分類スレドモ誤謬ハ其何レニ屬スル
 ヤ極メテ判然タル者ニ非ズ見ル所ノ何如ニ由
 リテ彼是ノ類中ニ存屬セラレ、者有リ
 (一) 先天誤謬ハ已ニ論ジタレバ他人ノ四類ヲ頗ル
 詳論シ可成の單易ノ例ヲ舉ゲテ之ヲ説明ス可

論理各説
 卷之十
 三十七

シ
三 觀察ノ誤謬 第十四編ヲ参考セヨ ヲ分チテ觀察ヲ為サ
ズ即漏脱ヨリ生ズル者及觀察ノ差即過失ヨリ
生ズル者ノ二種トス
第一、觀察ノ漏脱ニ諸例ノ漏脱ト情況ノ漏脱ト
ノ二小分アリ諸例ノ漏脱トハ吾ガ研究スル事
件ノ例ヲ觀察シ盡サバルナリ情況ノ漏脱トハ
一例中重要ノ情況ヲ觀察セザルナリ例ハ此
ニ一占者有リ我只彼レガ預言ノ當リタル例ノ
ヲ見テ其當ラザリシ例有ルヲ知ラザルハ是諸

例ノ漏脱ナリ若シ又其當リタル例ハ彼レガ騙
欺ヲ行フテ當テタルニ我レ之ヲ知ラザレバ是
情況ノ漏脱ナリ○諸例漏脱ノ主眼ナル起因ニ
二有リ世人毎ニ一方ノ例ハ深ク之ヲ心ニ銘シ
他ノ一例ハ輕忽ニ看過スルコト有リ夫ノ咒咀^{マシナヒ}ノ
世ニ信セラルハ多クハ是ニ由ル則是レ咒咀
ノ効驗有リシト見ユル一例ハ人ノ記憶ニ存シ
其効驗無キ一例ハ心ニ留メズ因テ以テ咒咀ヲ
効驗有リトスルガ如シ其他此ノ類世間ニ頗多
シ俗云フ出産ハ夕ノ變リメニ當ルト夫レ夕ハ

一晝夜ニ四回變動スル者ナレバ其時刻ニ幾許ノ出産有ルハ固ヨリ怪ムニ足ラザルニ世人ハ只管之ヲ心ニ存記シ其然ラザル例ハ敢テ心頭ニ置カズ道理ト証據トニ関ラズシテ今ニ尚之ヲ信スル者有リ

今一個ノ重要ナル起因ヲ偏執ト云フ所謂先入主ト為リテ之ニ逆フ所ノ例ヲ見ザルハ凡人ノ常ナリ今其尤著ルキ一例ヲ舉ゲンニ凡ソ重キ物ハ地ニ墜ツルヲ輕キ物ヨリモ速ナリト太古ヨリ言傳ヘタリ此説先入主ト為リ曾テ此説ノ

全ク真ニ反ケルヲ見ザリシハ諸例漏脱ノ誤謬ナリ簡單平易ノ事件ニ於テスラ猶此ノ如シ況ヤ道德品行、政治、社會、宗教等ニ関リ情感ノ激動スル夾雜ナル場合ニ於テヲヤ○情況ヲ漏脱スル誤謬ハ前ノ占者ノ例ニテ詳ナル可キモ更ニ一例ヲ示ス今何佛ニ日參シテ何病癒ヘタリト云フ人アランニ是レ其實ハ佛ノ功力ニ頼リシニ非ズシテ日參スルガ為ニ運動ヲ善クシ清鮮ノ空氣ヲ吸ヒタルニ由ルヤ或ハ其他ノ原因アリテ然ルヤモ亦料リ難シ是則重要ナル情況ヲ

論理學 卷之十
觀過スルノ誤謬ナリ
第二觀察ノ誤謬ノ第二分類ハ觀察ノ過失ナリ
五官ノ感覺ニハ固ヨリ過失アルヲ無ケレバ則
此誤謬ハ心中ニ推斷セシ事ヲ五官ノ感覺ナリ
ト誤認スルニ在リ蓋シ其知識ノ多カラザルト
心ノ鍛鍊足ラサルトノ度ニ準シテ斯ノ如キ誤
認ノ甚シキモノナリ人或ハ日ノ登リ又没スル
ヲ見タリト云ヒ又衆星ノ北辰ヲ繞リテ動クヲ
見ルト云フ然ルニ其實ハ之ヲ見タルニ非ズ只
日或ハ星ノ自己ニ對シテ其位置ヲ變スルヲ見

タルノ如ク他ヲ動キタリトスルハ其推斷ナリ之
ニ反シテ識者ハ他ノ動クニ非ズ己ノ動クナリ
ト推斷ス直接ニ五官ノ感覺スル所ハ極テ少ク
感覺ヨリシテ推斷スル所ノ事項ハ甚多ク且吾
人ニ在テ最重要ナルガ故ニ此誤謬モ亦常ニ甚
多シ吾人須ラク勉メテ心理學ヲ學ビ善ク心ヲ
鍊リ以テ之ヲ防ガザル可カラザルナリ
三概括ノ誤謬ハ其範圍最廣ク之ヲ分類スル
亦極テ難シ前ノ數編ニ説キタル歸納推理ノ原
理規則ニ適ハザル者ハ皆此ノ誤謬ナリ今唯

ル氏ノ説ク所ニ從テ二三ノ主重ナル誤謬ヲ揭ク凡テ地球上或ハ大陽系内ノ經驗ニ因リテ推斷シタル事ヲ將チ來リテ其外ナル宇宙ノ遠キ部分ニ及ボスハ誤謬ナリ又唯經驗ニ因リテ推定シ其理由ハ未見ザル所ノ定綱或ハ眞事ヲ經驗外ニ及ボス可カラズ希臘ノ碩學アリストートルガ社會ハ奴隸ノ制無ケレバ繁榮ナル能ハスト斷言シタル如キ是太古ノ社會ニハ自カラ然ル可シト雖近世ノ社會ニ至テハ決シテ然ラズ蓋シアリストートルハ太古ノ社會ニハ土

隸ノ制ノ必要ナル理由ヲ究メザリシヲ以テ唯經驗上ヨリシテ一切ノ社會ニ論及シタリ斯ノ如ク現ニ今日ノ社會ニ必要ナル事モ善ク其理由原因ヲ究メズシテ將來ニモ必要ナル可シト斷定スルハ概括ノ誤謬ナリ俗毎ニ學者ハ迂遠ナリト云フモ其說往時ニ在テハ或ハ眞ナリトスルモ未深ク其理由ヲ究メズシテ學科學風等ノ殊異ナル將來ニ及ボス概括ノ誤謬ヲ生ズルハ是レナリ又二個ノ顯象相次テ現出スル時ハ直ニ認メテ之ヲ原因ト結果ノ關係有リトス

言玉田言 卷之十一
ル者モ亦最常ニ行ハル、概括ノ誤謬ナリ例ヘ
バ何年ニハ彗星現ハレテ饑饉ナリシ故ニ彗星
ハ饑饉ノ前兆ナリト推断シ又前夜ノ夢ハ惡シ
カリシ故ニ今日ハ斯ク失敗シタリ等俗間ニ行
ハル此類ノ誤謬頗多シ或人ノ説ニ某國ハ貿
易ニ保護税ヲ設ケテ繁昌セリ故ニ保護税ハ國
ノ繁昌ヲ助クト云ヘル如キハ是レ誤謬ナリ若
シ他ニ保護税ノ國ノ繁昌ヲ助クルヲ認ム可キ
理由有リテ特ニ某國ヲ掲テ之ガ論証トセシナ
レバ幾許ノ効力有ル可シト雖モ只前述ノ如キ

分毫モ証憑タルノ効力無シ某國ノ繁榮ハ却テ
保護税ノ為ニ阻滯セラレタルモ他ノ原因有リ
テ之ニ勝チタルヤモ亦未知ル可カラザルナリ
偽類似ハ又誤謬ノ極メテ常ナル者ナリ第十七
編類似推想法ノ一例ニ揭示セル生活物ノ組織
ト國ノ組織トノ類似ノ如キハ最小心翼翼トシ
テ之ヲ應用セザレバ誤謬ヲ生シ易シ則生活物
ニ幼壯老死ノ時期有リ故ニ國ニモ亦幼壯老死
ノ時期有リトスルガ如キハ平常最行ハル、所
ノ誤謬ナリ或ハ國ト家トヲ比較シテ國ヲ治ム

論理田言 卷之十一
ルハ家ヲ治ムルト同理ナリトスルモ亦偽類似
ノ誤謬ナリ譬喩ヲ以テ論ヲ立ツル者ハ特ニ此
ノ誤謬ニ陥リ易シ夫レ譬喩ハ推論ニ非ズ唯正
當ノ譬喩ハ善ク論旨ヲ明白ニシ或ハ証據ヲ示
ス₁有リ例ヘバ教育ヲ主張スルニ有形ノ譬喩
ヲ用テ地ヲ耕サ₂レバ惡草ヲ生ス₃ト云フガ如
キハ教育ノ必要ナル理由ヲ明ニスルヲ以テ大
効有リ然レ₄氏ベイコン氏ノ如ク世態ノ進行ヲ
河流ニ比シテ曰ク河上ヨリ流レ來ル物ハ塵芥
泡沫ノ如キ輕浮物ニシテ重キ物ハ河底ニ沈₅ク

テ消失スル如ク吾人ノ太古ヨリ遺傳シタル物ハ
價値少キ物ノミナリト斯ノ如キハ譬喩ノ當ヲ
失ヒ輕浮ノ語ノ為ニ誤マ₆ラレタルナリ吾人尤
慎マザルベカラズ又彙類法ノ宜シカラザルガ
為ニ生ズル誤謬モ甚多シ則同一ノ性質無キ者
ヲ一類中ニ集メ同一ノ名称ヲ付シテ以テ同一
ノ性質ヲ有セル者ト做シテ推断ス₇亦此類中
四推測ノ誤謬トハ推測式ノ規則ニ戾ル者ヲ言
ヘルニテ第五編ニ述ベタル述意反對ノ理ニ反
スルノ誤謬モ亦此類中ニ属ス則大反對ト實反

對トヲ混合シ普稱肯定述意(阿)ノ否ナルヲ以テ
其大反對普稱否定(江)ヲ當ナリト推断シ或ハ(江)
否ナルヲ以テ(阿)ヲ當ナリト推断スルノ誤謬ナ
リ轉換及直接推断ノ定則ニ背ク者モ亦此類中
ニ屬ス其定則ハ既ニ第七編ニ説キタルヲ以テ
今其犯則ヲ詳説スルヲ要セザルベシシ推測式ハ
編ヲ第一則ニ戻ル者ヲ四名辭ノ誤謬ト稱シ第三
見ヨ見則ニ戻ル者ヲ中名辭不周逮ノ誤謬ト稱シ第四
則ニ戻ル者ヲ大名辭或ハ小名辭犯則ト稱シ第
五則ニ戻ル者ヲ否定前提ノ誤謬ト稱ス第六則

ヲ犯スハ別ニ名稱無シ第七則第八則ハ前六則ヨ
リ推究シ得ル者ナレバ其犯則モ亦前ノ犯則中
ノ一ト不可シ余ハ此等犯則ノ諸例ヲ揭示セシ
ハ既ニ此等ノ理ヲ欲セシモ第八編ヲ熟讀セシ者
本書ニ説述スル所ノ事項ニ係ルベシト信シ且ソ
他日之ヲ編輯シテ本書ノ附録ト為設若推測式
サントス故ニ茲ニ省キテ載セズ
ノ定則ニ戻ルハ第十二編ニ述ベタル如ク到底
前ノ誤謬ト見做スヲ得ベシ然レ氏此誤謬ハ頗
常ニ行ハルヲ以テ特別ノ名稱有リ後項ノ當
ナルニヨリテ前項ヲ當ナリト推断スルヲ前項
肯定ノ誤謬ト云フ前項ノ否ナルニヨリテ後項

論理略説 卷之十 四十四 詞 四

論理學 卷之十
ノ否ヲ推斷スルヲ後項否定ノ誤謬ト稱ス又前
提ヲ變ハルハ誤謬ト稱スル者有リ此誤謬ハ前
提述意中ノ名辭ノ意義ニ限界有ル者ヲ限界無
ク用弁或ハ之ニ及シテ前提述意ニハ廣ク言ヒ
タルヲ狹ク用キル者ヲ云フ例ヘバ人ハ皆其身
体ノ自由ヲ保ツノ推理有リト云フ氏ハ狂人犯
罪者等ヲ除クハ勿論ナルベキニ今此等ノ限界
ニ注意セズニテ之ヲ前提トスルハ誤謬ナリ又
及物ヲ以テ人ノ身体ヲ突ク者ハ罪人ノリ外科
醫者ハ(其治療ノ際)人ノ身体中ニ刀ヲ突キ入ル

論理學 卷之十
ガ故ニ罪人ナリト云フ若キ是レ前提ヲ其包含
セザル境界ニ及ボシタルト明ナリ又某市場ニ
賣ル所ノ物ハ人ノ食スル物ナリ腥肉ハ某市場
ニ賣ル所ナリ故ニ腥肉ハ人ノ食スル物ナリト
スルガ若キハ是レ本廣ク肉ニ就テ言ヒタル前
提ヲ狹限シテ單ニ腥肉ニ就テ言ヒタル如ク用
キルナリ故ニ此誤謬ハ前提ノ真意ヲ誤リ其名
辭ノ意義ノ内包ヲ錯ル者ナリ以上二件ノ如キ
ハ顯然人ヲ欺ク能ハズト雖世間ニハ有意ト無
意トヲ問ハズ此誤謬推理法ヲ行フ者極テ多ク

且之ヲ看破スルノ頗難シ特ニ社會學、政治學、經濟學等ニ於テ最甚シトス

四迷乱ノ誤謬トハ証據ヲ明白ニ解了セザルヨ

リ起ル者ナリ第一言語ノ曖昧、第二論点潛定、第

三要点錯誤ノ三種アリ

第一言語ノ曖昧ニ數種有リ一ノ推論中ニ一名

辭ヲ掲ケテ之ヲ不同意義ニ用井ルモノアリ例

ヘバ人ヲ害スル者ハ罰ス可シ病ヲ傳染スレバ

人ヲ害ス故ニ病ヲ傳染スル者ハ罰ス可シト云

フハ是レ「害」ノ語大小前提ニ於テ意義ヲ異ニス

ルナリ又他人ノ商業ヲ妨碍スルハ法律ノ禁ス

ル所ナリ今他店ヨリモ賤ク物ヲ賣レバ他店ノ

商業ヲ妨グ故ニ他店ヨリ賤ク賣ルハ法律ノ禁

スル所ナリトスル若キ是レ全ク商業妨碍ノ語

ノ曖昧ナルヨリ生ズル誤謬ナリ文ノ結構ニ因

リテ意義ノ曖昧ナル者有リ例ヘバ「三ト二ノ倍

ト云フ所ハ三ト二ノ倍即四ヲ加ヘタル者カ或

ハ三ト二ノ和即五ノ倍夫レカ判然セズ思フニ

本邦ノ語ニハ此種ノ誤謬ハ甚多カラズ「集合及

分散」誤謬ト称スル此類中ノ甚重要ナル者

トス則名辭ヲ一々推論中ニ或ハ集合ノ意ニ使
 ヒ或ハ分散ノ意ニ用ヰルヲ云々例ヘバ三角形
 ノ總角ハ二直角ニ同シ是レ此角ハ三角形ノ一
 角ナリ故ニ此角ハ二直角ニ同シト云フ若キ大
 前提ニ於テハ總テハ角ヲ合ハスル義ニシテ即
 集合ノ意義ナリ然ルニ亦前提ニ於テハ三角形
 ノ何ノ角モ皆各ト云ヘル意ニ解シタルナリ又
 當府ノ住民ハ男女老少ヨリ成立テリ今此堂ニ
 會セル者ハ當府ノ住民ナリ故ニ此堂ニ會セル
 者ハ男女老少ナリト云ヘル意ニ解シタルナリ如シ夫ハ奢侈ニ耽

クル人ノ此等ノ事ハ家産ヲ傷クルニ足ラズ此
 等ノ事ハ為スモ可ナリトシテ遂ニ身代ヲ破滅
 スルハ此ノ誤謬ヨリ來タルナリ又或ハ衛生ノ
 定則ヲ犯ス者ノ毎ニ此ハ瑣事ナリ此ハ細事ナ
 リトスルモ同ジク然リ即一一ニ分散シテ云フ
 片ハ瑣事ナルモ之ヲ集合スレバ決シテ瑣事ニ
 非ザルナリ數問ノ誤謬モ亦此類中ニ屬ス即數
 問ヲ一問目ノ如クニシテ對論者ヲ衒迷スルナ
 リ例ヘバ汝ハ汝ノ母ヲ殴打スルヲ止メタル
 カトノ問ニ若シ止メタリト答フレバ以前ハ毆

論理田言 卷之十 同 盟 舎
打シタルガ如シ若シ止メズト答フレバ今猶毆
打スルニ似タリ蓋シ此問ハ汝ハ毆打シタル
有リヤ今猶毆打スルヤノ二問ヲ一ニシタルナ
リ討論ノ際斯ノ如キ問ヲ設ケテ反對論者ヲ陷
レントスル者無シトセズ西洋代言人ハ反對ノ
証人ヲ困メンガ為ニ毎ニ此術ヲ行フコト有リト
云此他或ハ文ヲ讀ムノ際聲音ノ高低等ニ因リ
テ文意ヲ誤ルガ如キ誤謬有リ又或ハ論者
第二、論点潛定トハ前提即証據ノ或ハ断言ト同
一ナルカ或ハ其實ハ断言ヨリ推断シテ得タル

者ナルヲ云フ例ハハ
甲ハ乙ナリ
丙ハ甲ナリ
(故ニ) 丙ハ乙ナリ
ト推断センニ其丙ハ甲ナリト云ヘル前提ハ左
推测式ニ由リテ得來リタル者ナル可シ

乙ハ甲ナリ
丙ハ乙ナリ
(故ニ) 丙ハ甲ナリ
然ル片ハ前ノ断言ヲ用テ前ノ前提丙ハ甲ナ

リヲ証スレバ其推断式ノ無効ナルヲ明ナリ但
シ斯ノ如ク簡單ニ示ス片ハ其誤謬ナルヲ明ラ
メ易シト雖或ハ前後其言語ヲ異ニシ或ハ二推
断ノ間數歩ヲ距ルガ故ニ相蔽フヲ多シ斯ク數
歩ヲ距テタル片ハ特ニ循環互証ノ誤謬ト稱ス
例ヘバ甲ハ乙ナリ是レ丙ノ丁ナルニ據リテ之
ヲ知ル丙ノ丁ナルハ戊ノ己ナルニ據リ戊ノ己
ナルハ庚ノ辛ナルニ據ル然ラバ庚ノ辛ナルハ
何ニ據リテ之ヲ知ルヤト云フニ遂ニ最初証明
セントスル述意甲ノ乙ナルニ據ルガ如シ然ル

ニ世人ハ平日思考ノ際ニ一々斯ク論究セズ只
甲ノ乙ナルハ丙ノ丁ナルニ據ルトシ其丙ノ丁
ナルヲハ我が曾テ自信スル所ナレバ更ニ進ミ
其理由ヲ求ムルヲ為サズシテ此ニ止レリ然レ
氏前述ノ如ク詰問セラル、片ハ遂ニ循環シテ
其發点ニ回ルヲ往々是ナリ此誤謬ノ今一例ヲ
舉グレバ何故ニ「モルヒ子」ハ人ヲ眠ラシムルヤ
ノ理由ハ其麻酔劑ナルヲ以テナリトスルガ如
シ

第三、要点錯誤謬ハ極テ多ク枚舉スルニ遑アラ

論理學 卷之十一
普通稱述意ノ断定ヲ要スル場合ニ局稱ノ断言
ヲ得ル若キ其他凡ソ實ニ要スル所ノ断言ト推
断シ得タル断言ト相異ナル若キ或ハ討論、演説、
誘説ノ際其要点ヲ論セズシテ反對論者ヲ嘲弄
シ或ハ訕毀スル若キ又或ハ一事件ノ正不正ヲ
決セントスルニ其便不便ヲ論シ或ハ毫モ論題
ニ関セズシテ只管人ノ情感ニ訴フル等ハ皆此
誤謬ナリ之ヲ例スレバ被告人ノ罪ノ有無ヲ論
ゼズシテ其罪ノ憎ム可キヲ論シ或ハ救恤ノ一
法ヲ勸誘スルニ其法ノ善キヲ説カズシテ救恤

ノ義務ヲ喋々スル等ノ如シ此類ノ誤謬ハ大抵
故意ニ出デ、之ヲ隱匿スルガ為ニ用井ル術モ
亦極テ多ク其方法一ニシテ足ラザルナリ
以上論スル所ハ誤謬ノ重大ナル者ニシテ揭示
セル例ハ極テ明白ナル者ナレバ人或ハ決シテ
斯等ノ誤謬ニ陥ルヲ無シトスル者有ラン然レ
氏讀者若シ善ク注意シテ世ノ論説、討論者ヲ觀
看シ又反顧シテ己レガ思考ヲ自省セバ其誤謬
ハ皆前述ノ四類ヨリ外ナラザルヲ發見ス可
シ

